

## 11. 景気の先行きに対する判断理由

景気の先行きに対する判断の理由について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

### 1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (北海道)		一般小売店〔土産〕 (経営者)	・このまま感染状況が落ち着いて推移すれば、これまでの自粛行動から解放されることになるため、景気も上向くことになる。特に年末年始は帰省ニーズが出てくることで人の動きが増えることになる。また、旅行業界にとってはGo To Travelキャンペーンの再開が起爆剤となることも期待できる。ただ、直近に限れば、Go To Travelキャンペーンの再開を見越して様子見る客が増えることを懸念している。
		旅行代理店(従業員)	・新型コロナウイルスの第6波の動向にも左右されるが、緊急事態宣言などが発出されない限り、これまでの反動で年末年始の帰省や冬季観光の需要が拡大することになる。
		住宅販売会社(経営者)	・希望的観測だが、新型コロナウイルスの感染状況がしっかりと収まり、治療薬も開発されることで、消費が拡大していくというストーリーを描いている。
		商店街(代表者)	・このまま新規感染者数が増えなければ、ある程度の回復を見込める。
		商店街(代表者)	・自治体による観光関連業種に向けた宿泊支援策が始まったこともあり、道外客が久しぶりに戻って来ている。クーポン券の発行によって、飲食店や土産店にも大きな効果がみられ、ほっとしている。ひん死の重傷を負っていた観光業界にとって、こうした行政支援はとても重要であり、これからもしばらく続けてもらえることを切望している。
		一般小売店〔酒〕(経営者)	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いているため、景気も少しずつ回復することになる。
		百貨店(売場主任)	・10月後半から来客数が回復してきている。緊急事態宣言が解除された直後は、若い客の来店が増えていたが、11月に入り年配客の来店が増えてきていることから、このまま新型コロナウイルスの新規感染者数が増えなければ、景気は緩やかに回復することになる。ただ、新変異株の影響で感染の第6波が生じないか懸念している。
		百貨店(販売促進担当)	・これから年末に向けて様々なイベントが開催されることで、人が大きく動くことが見込まれる。それに伴って来客数、買上客数も増加し、消費行動が促進されることになる。今後の景気は上向きになる。
		百貨店(営業販促担当)	・今後も客足の回復が続くと見込まれる。春の式典、出張などがふだんどおりに行われるようになることで、衣料品や服飾雑貨にも効果が波及することになる。
		スーパー(店長)	・年末年始にかけて、新変異株によって新型コロナウイルスの第6波がはやらない限り、景気は上昇カーブを描くことになる。
		スーパー(店長)	・前年は年末年始に掛けて新規感染者数が急増したことで買物や帰省を控えるムードが強かった。今年はそうした動きもみられないことから、11月に引き続き伸長が見込める。
		家電量販店(経営者)	・ウイルス対策として空気清浄機、加湿器の販売が順調に推移することになる。また、イエナ力需要として、リフォームなどの受注も引き続き増加すると期待できる。
		家電量販店(店員)	・年末商戦に期待している。
		乗用車販売店(経営者)	・メーカーの増産体制が整ってきたことから、今後、受注残が売上につながるようになり、景気が良くなると期待している。ただ、今後の感染再拡大が心配である。
	乗用車販売店(従業員)	・観光客が増加していることから、多少なりとも地域内での金の回りが良くなると期待している。	
	住関連専門店(経営者)	・新型コロナウイルスが終息に向かっているとみられることから、景気も少しずつ回復することになる。	
	その他専門店〔造花〕 (店長)	・政府が景気対策として様々な対策を打ち出してきている。当社としても様々な施策を計画していることから、今後の景気はやや良くなる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		高級レストラン（スタッフ）	・Go To Travelキャンペーンなどの効果が現れてくると期待している。
		高級レストラン（スタッフ）	・自治体による宿泊代金などの割引制度によって、今後、宿泊施設の予約が増加し、観光客や地元客の利用促進が図られると期待している。そうなれば、Go To Eatキャンペーンなどの1月再開もみえてきたことから、飲食店利用の増加も期待できる。
		旅行代理店（従業員）	・Go To Travelキャンペーンが再開されることになれば、今よりも道外への旅行が増えるため、景気はやや良くなる。
		旅行代理店（従業員）	・各種施策の効果が始まることを期待している。ただ、不安材料も多い。
		旅行代理店（従業員）	・ワクチン接種証明書及びPCR検査陰性証明書などの提出がスタンダードになりつつあることから、今後の景気は上向きになってくる。また、海外渡航に関しては入出国の隔離条件が緩和することで、一層上向きことを期待している。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルスの感染状況について、まだまだ不安定な部分があり、来客数にも何らかの影響を及ぼすことが懸念されるが、状況は良くなっていることから、これから冬期間を迎えて、利用客がやや増えることを期待している。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルスの状況次第ではあるが、これから冬の繁忙期を迎えることから、今後の景気はやや良くなる。
		観光名所（従業員）	・景気が徐々に新型コロナウイルス発生以前の状況に戻りつつあると実感しているが、2～3か月後は厳冬季の真ただなかであり、新型コロナウイルスの第6波も懸念されることから、景気は緩やかに回復していくことになる。
		観光名所（職員）	・新型コロナウイルスの感染が落ち着きをみせ始め、来客数も少しずつ戻ってきていることから、今後も緩やかに回復していくとみられる。ただ、新型コロナウイルス発生以前の状態には程遠いため、一層の景気回復に向けてGo To Travelキャンペーンの再開を始め様々な施策の実施が望まれる。
		美容室（経営者）	・新型コロナウイルスが現在のような感染状況で収まっていれば、外出の機会も増えることになる。そのため、今後については、来客数が増加すると期待している。
		商店街（代表者）	・新内閣になって実際どのような施策が行われるのかまだはっきりとは分からないため、様子見する動きが広がっている。そのため、今後も景気は変わらない。
		商店街（代表者）	・元々冬は出控えの時期であり、今後もガソリンや灯油の価格が高い水準で推移することになれば、景気が良くなるとは考えにくい。
		百貨店（マネージャー）	・ファッション関連では衣料品などの動きが回復してきている。一方、家具、家電、宝石などの高額商材については、インポートブランド品を始め、今後、上向きになるか不透明な部分がある。総合的に考えると、景気は変わらない。
		スーパー（企画担当）	・灯油やガソリン、石油製品などの値上がりが続いているものの、原油価格の高騰が収まり始めていることから、今後、価格が落ち着いてくるとみられる。
		コンビニ（エリア担当）	・冬のイベントなどが再開される予定であることはプラスである。一方、原油価格の動向にもよるが、車での遠出や外出がやや悪化する懸念があることはマイナスである。そのため、今後の景気がどうなるか、どちらとも言えない。
		コンビニ（エリア担当）	・少子高齢化に伴う消費の縮小傾向は今後も変わらない。
		コンビニ（エリア担当）	・新型コロナウイルスの感染状況が終息する兆しがみえないため、今後も景気は変わらない。
		衣料品専門店（店長）	・当店はスーツの売上構成が高いことから、スーツの動きが落ち込むと回復が困難を極める。脱スーツの流れはまだ続くと見込まれること、商品構成を変えるにしても、市況に合わせていくのは1年がかりとなることなどから、しばらくは我慢の状況が続く。
		乗用車販売店（従業員）	・春先になると需要が上向いてくる時期となるため、少しは景気が良くなるが、1～2か月先はまだ需要が落ち込んでいる時期であるため、今と変わらないまま推移する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（従業員）	・来年になると期待している車種のモデルチェンジがあるが、生産がまだ遅れていると見込まれるため、景気が大きく回復するとは考えにくい状況である。
		乗用車販売店（従業員）	・緊急事態宣言が解除されたことで販売量が若干増えたが、2か月ほどたった今も販売量に大きな変化がみられないことから、今後も景気は変わらない。
		自動車備品販売店（店長）	・カー用品店は自粛緩和などの影響がみられない業種であることから、今後も景気は余り変わらない。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・個々の客の健康相談にじっくりと対応できる環境が戻ってきていることから、今後も大きな変動はないまま推移する。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・原油価格の高騰を受けて、石油の国家備蓄の一部放出、元売り各社に対する最大5円の補助金支給などの対策が動き始めているが、原油先物価格の上昇、円安などの影響もあり、先行きが不透明なことから、今後も景気は変わらない。
		観光型ホテル（スタッフ）	・地方自治体による支援事業の内容が複雑で、消費者も今のところ静観していることから、今後も景気は変わらない。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルス発生以前であれば、年末はタクシーの繁忙期となるが、今年は忘年会も少ないようであり、特に夜の人出が少なくなることを心配している。前年よりは売上が増えるともみているが、新型コロナウイルス発生以前と比べると前年はマイナス50%と大きな落ち込みがみられた年であり、今年はこれまでの傾向から前々年のマイナス30%程度で推移するとみられ、まだまだ厳しい状況は変わらない。
		タクシー運転手	・今後も新規感染者数が減少したままとしても、これから寒い冬を迎えることから、まだまだ予断を許さない状況にある。第6波が生じた場合、元の状態に戻るのだろうかと心配している。
		通信会社（企画担当）	・少なくとも向こう3か月は通信端末の在庫拡充が望めないため、当面は防衛戦のような状況で推移することになる。
		美容室（経営者）	・この3か月間、売上も来客数も前年とほぼ変わっていない。今後についても、今のところ不安材料が見当たらないことから、変わらないまま推移する。
		美容室（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いていることから、様々な経済活動が再開され、それを促進させる施策も始まるようだが、客との話から、物価上昇などの影響もあって消費意欲が前向きではない雰囲気がかえる。年末年始の特別感も期待できないため、今後も景気は変わらない。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・11月の売上は新規出店の効果もあり、前年比104.6%と久しぶりに前年を上回った。前月と比べても22.3%の増加となったが、前々年比では57.3%にとどまっている。今後については、雪の降る時期となり、人出がどんどん減っていくこととなるため、景気はやや悪くなるとみられる。
		スーパー（店長）	・買い控えの傾向がみられることから、今後の景気はやや悪くなる。
		スーパー（企画担当）	・ガソリン、灯油、電気料金などのエネルギーコストが急上昇しており、これから冬場にかけて家計を大きく圧迫することになる。日用品の買い回りに影響が出てくるのが懸念される。
		スーパー（役員）	・電気、ガソリン、灯油の価格高騰に加えて、食用油、パン、豆腐、納豆など、多くの食品が値上がりしているため、客の節約志向が強まることになる。
		スーパー（従業員）	・ガソリン価格や電気料金の上昇などにより、消費が落ち込むことが懸念される。
		コンビニ（エリア担当）	・現在の状況はスタグフレーションが起きているとみられる。消費を活性化できれば良いが、物価の上昇が起因となり、消費が抑えられてしまうため、今後の景気はやや悪くなる。給与や所得の増加、何らかの税負担の軽減などが無い限り、厳しい状況は続く。
		高級レストラン（スタッフ）	・12月の忘年会を始め、来春まではぱっとしない傾向が続くとみられることから、飲食店の景気はやや悪くなる。一方、北海道による宿泊旅行商品の割引制度は小規模の宿泊施設での利用も促進されることとなるため、多少は効果が現れそうだ。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		タクシー運転手	・夜間のタクシー利用は個人的な外食利用に限られており、多人数が会食するビジネスコースは皆無である。当面この傾向が続くとみられるため、需要回復にはかなりの時間を要することになる。
		タクシー運転手	・年末年始を迎え、稼働が一番期待できる期間となるが、いつ第6波が来るのかと不安を抱えている。原油価格の高騰も燃料費に影響してくるため、今後の不安である。
		美容室（経営者）	・今後も景気が良くなったり、悪くなったりということを繰り返していきそうだ。今は景気が良くてもどうせまたと考えている客が多い。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・厳冬季を迎えることから、今後の運航状況が不安定になることが見込まれる。
	x	商店街（代表者）	・新変異株の影響が懸念されることから、今後の景気は悪くなる。
	x	商店街（代表者）	・2月頃までは原油価格高騰による影響が続くとみられることから、今後の景気は悪くなる。
	x	観光型ホテル（経営者）	・自治体が実施する宿泊旅行商品の割引制度において適用地域が限定されていること、原資が限られていることなどから、域内需要の先細りが見込まれる。Go To Travelキャンペーンが開始されない限り、需要の回復と集客は厳しい。また、Go To Travelキャンペーンの実施に当たって、ワクチンパッケージの運用が想定されるが、利用をワクチン接種者に限定するなど、簡単明瞭な方法を適用することを期待する。PCR検査なども対象に含めると対応が煩雑となり、対応できない可能性がある。
企業動向 関連 (北海道)		-	-
		建設業（役員）	・衆議院選挙において政権政党が勝利したことで新年度の公共投資予算は相応の規模が確保されると見込まれる。また、今後も新型コロナウイルスの感染状況が小康状態を維持できれば、経済活動の回復に伴って民間設備投資も拡大することになり、低採算の受注競争を脱した新規受注につながると期待できる。
		金融業（従業員）	・今後については、大型経済対策が予定されており、道内の新型コロナウイルス新規感染者数も落ち着いた状況が続いていることから、3か月先の道内景気はやや良くなる。
		司法書士	・新型コロナウイルスの第6波や新変異株による感染拡大などが心配されるが、景気への悪影響が生じなければ、年度後半にかけて景気が上向き始めると期待している。
		司法書士	・季節要因もあり、取引先からの受注量が大きく増えることはないが、緊急事態宣言の解除後も新規感染者数が大きく増える様子がないことから、取引先の営業時間や活動範囲が元に戻りつつある。まだ景気が良くなるとは言えないが、今後に向けて多少の期待感が出てきている。
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・新変異株による感染拡大が懸念されるが、現在は感染状況に落ち着きが見られること、当地における定番の冬のイベントが2年振りに会場開催されることなどから、観光関連での景気回復が本格化しつつある。公共工事にも景気対策が盛り込まれ、今後の積極的な発注が見込まれる。
		食料品製造業（従業員）	・受注がやや増えてきたが、年末という要因によるところが大きく、今後については不透明である。
		食料品製造業（従業員）	・現状、何かを変えることは予定していないため、今後も現状と同様の状態が続く。
		輸送業（支店長）	・当社の場合、北海道での売上が全体の多くを占めるため、これから冬季を迎えて景気が悪くなることはあっても、良くなることは考え難い。
		通信業（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響、特に新変異株による感染状況と経済への影響度合いがどの程度のものになるかが未知数であるが、コロナ禍後を見据えたIT投資も着実に進められていることから、現在のやや良い景況感が今後も維持されることになる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が激減し、さあこれからと思いきや、新変異株のニュースが流れ、株価も含め決して楽観できる状況にはないことを思い知らされた。今後、警戒感が強くなれば、設備投資がますます控えられることになる。少なくとも積極的に遅れを取り戻そうという声はほとんど聞こえてこない。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・燃料の価格高騰によって様々な業種に影響が出てきている。農家の状況がこれから悪化することが見込まれるため、今後の景気はやや悪くなる。
		金属製品製造業（従業員）	・新築戸建て住宅については、8～10月にかけて駆け込み需要による受注増加があり、その反動で11月以降の落ち込みが見込まれる。また、半導体不足の影響で熱源機などの入荷遅れが生じ、工事が停滞している。材料費の大幅値上げも業績悪化につながっている。これらのことから、今後の景気はやや悪くなる。
		建設業（経営者）	・これから冬季に入るため、新規の受注はかなり限定的になる。また、例年のことではあるが、積雪寒冷期に入り、工事の稼働や生産性が大きく下がることで採算性も悪化することになる。
		建設業（従業員）	・中心部の再開発に伴い、再開発に携わっている大手の勝ち組とそれ以外の負け組に分かれるなど、マイナス方向のスパイラルが始まりつつある。北海道経済全体としてはマイナスの影響が大きくなるとみられる。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・冬季は現場作業や内作などの少ない時期となるため、余り期待できない。また、コロナ禍の影響で半導体やモーター、電子部品などが供給不足となっていることで、製品の仕上げが遅れたり、納期が未定となるといったことも起きており、先行きに不安がある。
	x	-	-
雇用 関連 (北海道)		人材派遣会社（社員）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いていることから、これを機に業績の回復又は拡大に向けて企業が動き出すことが期待される。一般消費者に向けたイベントも増える見通しであり、企業から客へのアプローチが急拡大することになる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・新変異株によって感染状況がどのように変わっていくのかは分からないが、現時点においては国内感染が抑えられており、この状態を維持できれば、これまで自粛していた人の行動が徐々に活発になり、それと併せて労働市場も活性化することになる。
		職業安定所（職員）	・新規感染者数が落ち着いていることで、Go To Travelキャンペーンなどの経済対策がある程度行われるようになり、経済的な動きが活発になる。波及効果も含めて、今後の景気はやや良くなる。
		職業安定所（職員）	・当地における新規求人数は、コロナ禍以前の前々年と比べると13.5%の減少となっているものの、前年からは5.5%の増加となっている。また、月間有効求人数は7か月連続で前年を上回っているなど、回復の兆しがみられる。ただ、回復の度合いは産業、業種によって異なっており、今後の新型コロナウイルスの感染状況によっては、経済活動や消費行動に影響が生じることも懸念されるため、いまだ先を見通せない状態にある。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・飲食や衣料品の販売に今一つ伸びがみられていない。新変異株のニュースを注視しているのか、求人の動きに鈍さを感じられる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・新型コロナウイルスの感染状況が悪化しない限り、経済活動は活発になると見込まれるが、海外で新規感染者数が増加していることや原油高が懸念材料となっている。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・好調で多忙の建設業界からの掲載申込みが例年の1.5倍になっている。ただ、業界が不人気であることや人材不足から商談を見送らざるを得ないケースがあるとよく聞く。一方、新型コロナウイルスによって悪影響を受けている業種も多く、明暗が分かれている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・雇用調整助成金の相談件数が減少傾向にあるものの、主要水産物の不漁や赤潮被害による影響が懸念されることから、今後も景気は変わらない。
		学校〔大学〕（就職担当）	・原油価格の高騰に伴う消費需要の落ち込みとそれに伴う売上減予測から、どの業界においても人件費抑制への意識が強くなっており、2023年卒業予定者の採用枠が最低ラインでスタートすることが見込まれる。ただ、企業側の手探り状態に大きな変化はないとみられることから、3か月後も現在と大差ないまま推移する。
		*	*
	x	-	-

## 2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連  (東北)		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・新型コロナウイルスもここしばらく沈静化の状態が続いている。また、年末に向かい客が今まで買い控えていた商品を買いつけているので、12月は良くなるとみている。
		衣料品専門店（店長）	・飽くまでもこのまま新規感染者数が増えないことが前提だが、初売りで帰省客が増える。成人式が通常どおり行われる。卒業式、入学式が行われる。こういったマーケットが活性化してくれれば、上向きになると予測している。
		観光型旅館（スタッフ）	・新型コロナウイルスの感染も下火であり、悪くなる材料が見当たらない。さらに、Go To Travelキャンペーンの再開も報道に出ていることから、良くなるとみている。
		旅行代理店（従業員）	・新型コロナウイルスの感染が収束した現在の状況でGo Toキャンペーンが始まれば、旅行マインドも上がり、良くなると考える。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルス感染症の終息感がある。
		商店街（代表者）	・年末年始の準備のため、商店街への来客が期待される。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・県外からの帰省客も増えると思われている。
		百貨店（売場主任）	・外出の機会が増えていくことで衣料、服飾用品や化粧品関連の需要も回復していくものとみている。
		百貨店（経営者）	・前年以上に年末年始の企画が増えていることや、旅行者を中心に来街者も今後継続的に増えていくことが予測されることから、今以上に活発になると期待している。そのためには安心材料となる3回目のワクチン接種が前提となる。
		コンビニ（経営者）	・感染再拡大の心配はあるものの、相変わらず客単価や買上点数は堅調に推移しているなかで、今回の規制緩和で人の動きが出てきた結果、来客数が増え売上も上向きに転じている。完全に景気は底打ちして上向きに転じたと判断している。
		コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルス新規感染者数の減少により人の動きが変わりつつある。それにより販売単価は増加しているが、来客数の減少が続いていることから、売上は微増で推移すると推測している。
		コンビニ（経営者）	・ワクチン接種と新規感染者数の減少により、人の動きが良くなるとみている。
		コンビニ（エリア担当）	・年末年始の帰省客が前年より見込まれる。
		コンビニ（エリア担当）	・街中の人出が多くなってきたので、買物等で金を落とすことが多くなる。
		衣料品専門店（経営者）	・お歳暮商戦はダイレクトメールや電話等での懸命な売り込みにより、出足も良く順調に注文がきており、今後も期待できる。しかし、今後いろいろな物の値上げが予測されるので、消費者の買い控えの心配がある。
	衣料品専門店（店長）	・新型コロナウイルス新規感染者数の推移次第ではあるが、ふだん着を中心に需要が増えてきており、今まで我慢していたことへの反動が消費者の行動に現れてきている。	
	家電量販店（従業員）	・新型コロナウイルス感染症が終息を迎えつつある状況で、来客数が少しずつ増えてきているところである。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		乗用車販売店（従業員）	・少しずつ新車納期が回復しつつあるので、新車が納車になれば中古車も増え収益向上が見込める。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・このまま新型コロナウイルス関連も含め、大きなマイナス要因がなければやや回復傾向に向かうと予想している。しかし、飲食店等は新規も含めすぐに再稼働できるわけではないので、来年春までは緩やかな回復になると予想している。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	・8月末の緊急事態宣言発出時には人々の動きが止まった。そのときの状況と比べれば良い方向に向かっている。ただし、新型コロナウイルスの新変異株等での感染拡大がなければという条件付である。
		その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（営業担当）	・飽くまでこの先新型コロナウイルスの影響が少ないことの前提であるが、状況は良くなっていくとみている。特に今まで我慢を強いられてきた旅行、観光関係の業種、飲食店には一時的かもしれないが相当数の客が来ることが予想され、そのような兆しもある。特に年末年始の後の新規感染者数が非常に重要と考える。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・新型コロナウイルスの感染再拡大の懸念リスクもあるものの、現状が続けば景気自体は上向きになるとみている。
		一般レストラン（経営者）	・今は個人客が中心だが、このまま感染が落ち着いた状況が続けば、ウエディングパーティーや団体客も戻ってくると期待している。
		観光型ホテル（スタッフ）	・Go To Travelキャンペーンの再開予定がある。
		観光型旅館（経営者）	・Go Toキャンペーンの期待もあり、大きな感染拡大がなければ徐々に回復に向かうとみている。
		旅行代理店（従業員）	・この夏までが需要の谷・底辺であり、ここからは上昇していくことを期待している。
		通信会社（営業担当）	・コロナ禍で定着してきた自宅時間だが、冬季に入り更に少しずつ増えている。これまで集合住宅での1人暮らしの若年層、中年層は冬季でも外出が多かったため通信利用量は戸建て住宅加入者より少なかったが、最近では増えている。今後、集合住宅への通信設備増強もするため、利用者の加入は増えていくものと期待している。
		通信会社（営業担当）	・新規感染者数も減ってきており、営業しやすくなるとみている。
		競艇場（職員）	・毎年1月は売上や来場が増える月でもあり、年始のイベントに期待する。前年度中止になったイベント等も今年度は開催できそうなので、期待は持てる。
		美容室（経営者）	・客の戻り率も3か月前は70～80%、前月と今月は92%で横並びであるが、僅かずつでも上がってはきているのではないかと希望的観測をしている。3回目のワクチン接種が始まればまた改善されるとみている。
		美容室（経営者）	・今まで自粛していた分、反動で動きが出てくるとみている。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・今年の年末には期待している。
		その他住宅〔住宅展示場運営会社〕（従業員）	・次年度の住宅施策の情報が出たことと、新型コロナウイルスの新規感染者数が減少したことにより、今月同様の状況が続くことを予想している。
		商店街（代表者）	・周辺の企業では忘年会、新年会を控える企業が多く、景気回復にはまだまだ時間を要するとみている。
		商店街（代表者）	・年末年始もイベントが少ない。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・規制緩和に伴い非常に多くの若者が街に繰り出している。しかし、20代の若者もそれより少し上の世代も飲み会はしない傾向にある。また、サラリーマンも繁華街に余り戻ってきておらず、今年の忘年会、新年会は期待できない。民間会社のアンケートでも当県の60%以上の企業が忘年会、新年会はしないと回答しているため、この先の状況も現在とほとんど変わらないとみている。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・これから年末年始を迎えるが、制限が緩んできたとはいえ忘年会、新年会は見送る企業も多い。消費者からも、特に外出はせず家でゆっくり過ごすという声が聞こえてくる。当面、状況がこれ以上急に好転することはないとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔医薬品〕 (経営者)	・政府が大規模な経済対策を行うという報道もあり、景気が大きく崩れるということは想定しづらい。
		一般小売店〔寝具〕 (経営者)	・新型コロナウイルスの影響だけでなく、景気自体が良くなると商品が動かない。販売意欲が増すような景気動向に早くなってほしい。
		百貨店(営業担当)	・いまだ感染状況に左右される不安定さがあることと現在の動向から、来客数に更なる改善傾向はみられないと想定される。
		スーパー(経営者)	・新型コロナウイルス感染の収束で回復の兆しが見えてきた。しかし、ガソリン価格の高騰や各メーカーの値上げ等が影響し、平日の買い控えがみられる。反面、特売日やポイントセール日にはまとめ買いの傾向がみられる。
		スーパー(企画担当)	・食品小売業に関しては、帰省客が多くなり、年末年始の予約も多くなることが予想される。現時点でも予約は好調に推移している。新型コロナウイルスの影響が年明けに出てくるとみており、客の動向はそれ次第であるが、それまでは変わらない。
		スーパー(営業担当)	・前年は帰省が大幅に減っていたが、ワクチン接種が進んだことや最近の新規感染者数が減少していることから、今年は帰省が増加すると予想されるので、年末年始は消費拡大が期待できる。しかし、その後は横ばい又は現状と同様の状況になるとみている。
		コンビニ(経営者)	・何が原因かは分からないが、新型コロナウイルスの新規感染者が出ていない現状を踏まえると、多分そのまま巣籠り状態が身に付いてしまい外出する人がかなり少なくなっているものとみている。これから特に雪が降り寒くなるので、外出する人が増えないと予測している。よって、横ばいか悪くなるとみている。
		コンビニ(経営者)	・新型コロナウイルス新規感染者数の減少で、夕夜間の客が増える予想だったが、今月は思うようには来客数が増えていない。来月からも厳しい経営が続くとみている。
		コンビニ(エリア担当)	・海外では新型コロナウイルスの感染が再拡大しており、今後日本でも同様のことが起こる可能性があることから、外出を控える傾向は続く予測される。Go To Travelキャンペーン等が再開されれば、国民感情としてももう大丈夫というイメージになるとみられるが、それまでは経済は厳しさが続く予測している。
		コンビニ(店長)	・新型コロナウイルス感染に対する先行きの不安は払拭されていない。各自の新型コロナウイルスに対する心構えが強く、解放されないとみている。
		衣料品専門店(経営者)	・年末年始の人の動きによる売上増加が見込まれる。しかし、第6波を懸念する動きもあるため、今月以上のアップは期待できないと予測する。
		衣料品専門店(総務担当)	・コロナ禍が収束してきているが、まだまだ購買動向は活発になっていないとみられるため、すぐに良くなるとは考えにくい。
		乗用車販売店(従業員)	・自動車メーカーでは部品供給が改善されつつあると発表しているが、余り実感がない。ほぼ変わらないとみている。
		乗用車販売店(店長)	・年末～年度末にかけて増産体制が整うという情報も入っているものの、足元の感覚値ではその兆候は全くない。メーカー及びサプライチェーンの増産計画が軌道に乗るまで、まだまだ辛抱が必要である。
		住関連専門店(経営者)	・受注生産なので、納期に合わせて製造を計画している。2～3か月後の納品売上は今月とほとんど変わらない。
		住関連専門店(経営者)	・旧態依然の販売方法をとっている当店は今の時代通用しないので、売上を上昇させるのは至難の業である。3か月先もそのような状況に変わりはない。
		その他専門店〔靴〕 (従業員)	・新型コロナウイルスの影響が落ち着いた状況がこのまま続けば、活発な人の動きが継続するとみている。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕 (営業担当)	・原油価格の高騰により販売価格が高値で推移している。感染対策緩和による回復も、今後の更なる節約志向の高まりで相殺されてしまうことを懸念している。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕 (営業担当)	・燃料油の店頭価格の上昇で思うほどの回復はなく、横ばいとみている。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		高級レストラン（スタッフ）	・これまでの国民の生活スタイル、サイクルは変化しない。特に購買もしないので景気は変わらない。
		一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスの第6波が来るかどうか、新規感染者数が増えるかどうかで大きく変わってくる。
		一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスの新変異株に対しての国の対策は今回は相当早かったのですが、今までのような大感染が起こることはないと思うが、一人一人の感染に対する心構えがしっかりとしているため、まだまだ繁華街の夜の飲食のにぎやかさは戻らない。良くて現状と同程度とみている。
		観光型ホテル（スタッフ）	・会社全体の業績は伸びると予想しているが、給料などに転嫁されるまではまだ時間が掛かるとみている。
		旅行代理店（従業員）	・客の旅行動向は新型コロナウイルス感染症拡大の第6波を警戒しながら少人数、近場が中心で、間際予約が続いている。また、先行予約も同様の傾向にある。今後もしばらくはこの状況が継続するものと想定している。
		通信会社（営業担当）	・景気に大きく作用するほどの要因に乏しい。
		テーマパーク（職員）	・新型コロナウイルスのニュースに左右されるので、期待ができない。現在は県民割があり来客数が伸びているものの、実際の売上は期待よりは少ない。Go Toキャンペーンほどではない。
		観光名所（職員）	・予約数、来客数共に微増を続けているが、Go To Travelキャンペーン等の政府の今後の動きを世間が様子見しているようである。よって、今後も大きな増加はなく、このまま微増が続いていくとみている。
		遊園地（経営者）	・新型コロナウイルスの新変異株の推移、ガソリン・灯油価格の高騰等から、順調に好転することが期待しにくい。
		美容室（経営者）	・コロナ禍で、行事や旅館に泊まりに行ったりするなど出掛けるチャンスが少なくなっている。
		住宅販売会社（経営者）	・ウッドショックの影響がまだ尾を引いており、注文建築の受注に時間が掛かっている。
		百貨店（買付担当）	・感染状況に尽きる。このままの状態が続けば今後も来客数、売上共に期待できるが、感染状況が悪化すれば外出を控える傾向が強くなり、以前の状況に戻ると考える。
		スーパー（店長）	・緊急事態宣言の解除後、休日の来客数の動きに変化がみられるようになってきている。外食需要が増えてきたのか、来客数、客単価の落ち込みが今後も進みそうである。
		スーパー（店長）	・新型コロナウイルス感染の落ち着きにより、今まで我慢していた経済活動への消費傾向が上がるため、スーパーマーケットや食料品小売業は苦戦するものと予想している。
		スーパー（店長）	・新型コロナウイルス新規感染者数が大分減り、飲食業界へ客が流れている状況は続くものとみられる。
		スーパー（営業担当）	・各種値上げや新型コロナウイルスの新変異株の流行を懸念して、生活防衛意識が高まると心配している。
		コンビニ（店長）	・周辺の会社でも派遣社員の比率が高まっているが、同一労働同一賃金により人件費が高騰し雇用の問題が出てくるため、消費や将来に対する不安があるようである。会社自体も同業他社の増加により売上が減ってきて、将来の見通しが厳しくなっており、景気はやや悪くなっていくとみている。
		乗用車販売店（従業員）	・新型コロナウイルスの新変異株も見つかったため、個人客の販売量が更に落ち込む。
		高級レストラン（経営者）	・少しずつ良くなっているようではあるが、第6波が来れば相当厳しくなる。
		高級レストラン（支配人）	・現在はGo To Eatキャンペーンの食事券の利用が多いために売上等は上がっているが、1～2月に発行されるかはまだ分かっていない。発行次第では今月のような売上にはなるとみている。後は、新型コロナウイルスの新変異株の影響を非常に懸念している。
		一般レストラン（経営者）	・客の酒の飲み方が変わったような気がするので、例年並みの忘年会や新年会は期待できない。例年よりははや悪くなるとみている。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルスの新変異株も出てきており、冬場に新型コロナウイルスの感染が拡大しないように願っている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		タクシー運転手	・毎日、乗客から聞き取りをしているが、帰省を控える人が約70%、子供や孫を帰省させない人は約60%である。また、給料カットもあり、年末年始も生活必需品の購入のみであるとか、ガソリン価格の高騰で出歩かないと話す客の数が圧倒的である。そういったことから、人の動きは鈍くなると判断でき、経済的にも悪くなることが予想される。
		通信会社（営業担当）	・新型コロナウイルス新規感染者数が減少傾向にあるが、新型コロナウイルスの新変異株への警戒感があるため、先行き不透明感がある。入国が制限され留学生、ビジネスにも影響が出てきているなど、経済のストップ要素もある。結果、人材不足が更なる景気悪化の要因になると考えられる。
		通信会社（営業担当）	・原油高や各種物資の値上げが始まり、消費が鈍化すると考えられ、景気は悪くなる方向に向かうとみている。
		設計事務所（経営者）	・官公庁発注の業務も想定内の発注量ではあるが、低価格での受注競争が続いていることから、官公庁を主体とする設計事務所においては厳しい状況が続くとみられる。また、民間案件については、それを得意とする委託先により大きく左右されるが、全体的には厳しいという声が同業者から聞こえ始めている。
		その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	・住宅設備機器については、給湯器の納品遅れは長期化することが予想される。リフォームについては、屋外作業の工事が減るとみている。
	×	商店街（代表者）	・いろいろな規制により9月までは最悪の状態であったが、10～11月は少しずつ自由な動きに戻ってきている。ただ、12～2月の予約状況をみると、通常の形には戻ってこない感じがあり、かなり消費が停滞すると予想している。
	×	スーパー（経営者）	・12月は原油の高値水準が続き、原材料単価の上昇、輸送費や光熱費の増加など多方面で影響が出て、商品価格への転嫁も始まり、家計への負の影響が広がるとみている。また、世界的に新型コロナウイルスの新変異株の拡大が懸念されることから、人の動きは抑制され、引き続き消費マインドの冷え込みも続くともみられる。消費はしばらくは良くないとみている。
	×	スーパー（経営者）	・可処分所得が伸びないどころか低下している状況により、節約、儉約する場面においては食料品を削ることが優先される。そして、今また新型コロナウイルスの新変異株が確認され、それが全世界的にまん延するという憶測が出ており、客のマインドを冷やしている。
	×	コンビニ（経営者）	・平日は客が戻ってきたが、週末土日に関しては全く戻る気配がない。また、これから冬になるに従って客も減ってくることも予想され、なかなか良くならないとみている。
	×	コンビニ（経営者）	・冬期間はただでさえ売上が下がるのに、光熱費の上昇と除雪代が大きく経営を圧迫してくる。夏季も稼げなかったので、冬をしのぐことができるのだろうか。不安しかない。
	×	自動車備品販売店（経営者）	・じわじわ人の動きが出てきているが、それが自動車補修市場などに反映されるのはほぼ車検時である。トラック物流もそれに伴って増えるが、市場に反応されるのは2年ほど先になるとみている。
企業動向関連 (東北)		建設業（企画担当）	・今の景気の上昇下降の主な要因である新型コロナウイルスの感染状況については落ち着いてきている。年始に向けて完全に落ち着けば、景気も上昇するとみている。
		農林水産業（従業者）	・天候に恵まれ、りんごの販売単価が前年より1～2割程度高くなる予想なので期待している。
		食料品製造業（経営者）	・このまま新型コロナウイルスの感染が収まれば動きは良くなるとみている。しかし、原料始め、資材やエネルギーコストの値上がりで収支は非常に厳しい。
		食料品製造業（営業担当）	・年明けにはGo Toキャンペーンも予定されており、観光需要も加われば、更に景気は大きく回復してくるとみている。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・年度末の仕事が見込める。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・年末に向けて、各種イベントの開催や、会議、懇親の機会が増加する。年末商戦を復活させる動きもある。正月から来年にかけては、景気回復、経済活動の活発化が期待できる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		電気機械器具製造業（企画担当）	・電子部品の品薄に伴い価格が上昇したことで、コロナ禍における業績は良かった。それを設備投資に回すことで、今後徐々に業績が更に良い方向に向かうと考えている。
		輸送業（従業員）	・新型コロナウイルス新規感染者数減少に伴い、客足が戻りつつある。
		広告業協会（役員）	・第6波が来ないことを祈っている。予定されているGoToキャンペーン再始動が、人の移動や消費意欲を活性化させ、広告出稿増大の原動力となることを期待している。
		広告代理店（経営者）	・このまま新型コロナウイルスの感染が落ち着いていければ、年度末の案件も増えてくるとみている。
		経営コンサルタント	・新型コロナウイルス感染の収束が前提ではあるが、年末に向けてリベンジ消費が活発化すると予測している。
		公認会計士	・緊急事態宣言が解除され、少しずつ制限が解除されてきているので、人々の消費行動も年末に向けて拡大する。小売、サービス、飲食業関係は回復傾向が更に強まるので、全体的な景気はやや良くなるとみている。
		その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いているとの見込みから新幹線や旅客機が増便となっており、交流人口は更に回復するとみている。
		食料品製造業（営業担当）	・県外ナンバーの車をよく見掛けるようになり、人の動きが出てきたことを実感するが、身の回りの景気に変化はない。変化が出るのは良くも悪くもまだ先である。
		金属製品製造業（経営者）	・新型コロナウイルスの新変異株や素材の高騰など、不安材料による影響が計りしれない。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・取引先の状況に大きな変化がない。
		建設業（従業員）	・新型コロナウイルス感染症が終息するまでは先が見通せない状況が続く。
		建設業（従業員）	・新型コロナウイルスのまん延に関係する先行き不透明感はあるものの、現時点では官庁案件も含め順調に推移すると予想している。
		通信業（営業担当）	・新型コロナウイルスの新変異株の出現による客の動向を静観するのみである。
		通信業（営業担当）	・半導体の影響が大きく、受注があっても製品を提供できない状態が続いている。今後も改善されるめどが立っていない。
		金融業（広報担当）	・新型コロナウイルス第6波は想定したくないが、少なくとも消費者行動に感染症対策意識が与える抑制的影響は一定割合で存在し続けるものとみられることから、今月と同程度にとどまるものと予想する。
		司法書士	・新型コロナウイルスの沈静化による景気回復も、住宅用半導体関連の部品不足による工期延長などが足かせとなることが懸念される。
		その他企業〔企画業〕（経営者）	・町では飲食店等への支援策として12月から町民対象の補助事業が実施される。ガソリン価格や灯油の高止まり、その他値上げが取り沙汰されているなか、短期間ではあるが町内での動きが活性化する見通しである。
		その他企業〔協同組合〕（職員）	・受注案件は微増にあるが、価格を上げると受注に結び付かなくなるので受注単価の値上げ交渉ができる環境ではなく、収益が厳しくなっている。
		農林水産業（従業者）	・米国と中国の貿易摩擦の影響を受けて、中国産そばが日本に輸入されにくい状況が続き、流通している玄そば価格が上昇している。しかし、転作作物のそばの農協買取り価格は前年同様の最低水準になっており、今後も買取り価格が上昇する見込みは薄いとみている。
		窯業・土石製品製造業（役員）	・世界経済を見ても不安定であり、先行きが見通せない。
		輸送業（経営者）	・海外における新型コロナウイルスの新変異株の感染拡大により、予想もしていなかった形で原油価格が下がってきた。下がることは歓迎であるが、新型コロナウイルスの新変異株の感染拡大は景気の下振れ要因になる。いずれにしても、原油価格が今後どうなっていくのかは不安定である。また、国内で感染が拡大すれば、景気回復にブレーキを掛けることになると予想する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		広告代理店（経営者）	・取引先のサプライチェーン問題や原油高による景気後退の懸念がある。
		コピーサービス業（従業員）	・主力であるIT機器関連商品の納期は相変わらず改善されていない。解消には数か月は掛かるようである。その間、代替商品でつなげられればよいが、やはり主力商品の潤沢な入荷がなければ、しばらくは厳しい状況が続くことが予想される。
		その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・取引先の地域や自分のところのデリバリー地域をみると、それほど悪い状況ではない。しかし全体をみると、生活者の給料が上がらないとかボーナスが出ないといった状況のなかでなかなか金を回しづらくなっており、消費が減退するとみている。
	x	*	*
雇用 関連 (東北)		人材派遣会社（社員）	・企業側の採用意欲が非常に高まっており、適切なマッチングを行うことで採用決定者は大きく増やせると考えている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・新型コロナウイルス新規感染者数の減少に伴い、様々な経済活動が活発化してきており、消費意欲が高まってきているようである。人も増えており、飲食を伴う会合開催にも積極的な傾向がみられる。ただ、海外の感染状況、新型コロナウイルスの新変異株の影響によっては急速な悪化もあるかもしれない。
		人材派遣会社（社員）	・新型コロナウイルスの感染が収束してきたことから、地元企業の売上が増えてきている。また、客の話では東京から営業や訪問の客が訪れるようになってきているということなので、当地での経済活動が活発化していくとみている。
		アウトソーシング企業（社員）	・新型コロナウイルス新規感染者数がこのまま推移すれば、景気は良くなるとみている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・新型コロナウイルスの新変異株の感染が懸念されるが、各種イベント実施が増えてきている。
		学校〔専門学校〕	・11月のブラックフライデーや12月のクリスマス商戦での活性化が期待できる。しかし、新型コロナウイルスの新変異株の国内流入状況次第で、今後の状況は大きく変化するとみている。
		人材派遣会社（社員）	・コロナ禍における求人数に大きな変化はなく、まだ望めない。
		人材派遣会社（社員）	・政府の経済政策に期待はしたいが、世界的な新型コロナウイルスの新変異株の流行など不安材料があるので、国内の景気は横ばいで推移するとみている。
		職業安定所（職員）	・洋上発電工事の作業員のニーズが高まっている。それにより、宿泊や飲食業への新型コロナウイルスの影響が最小限にとどまっている。
		職業安定所（職員）	・在職求職者数が若干増加している。新型コロナウイルス感染症拡大が鎮静化し、今後、求人数が増え雇用環境が改善するとみる人の転職活動によるとみられる。
		職業安定所（職員）	・新規求人数、有効求人数共に9月に続き10月も前年同月を上回っているが、今後も増加傾向が続いていくということは考えにくい。
		職業安定所（職員）	・製造業については、生産高は上がるものの収益面ではコスト増となった分だけ伸び悩みそうである。しかし、コロナ禍からの回復により、宿泊、飲食、サービスについては個人利用客が増加していくとみられる。ただし、温泉街などの旅館の話では、団体客の受入れや企業の宴会利用などは特に慎重になっているとのことで、売上の大きな回復は見込めないとみている。
			人材派遣会社（社員）
		人材派遣会社（社員）	・新型コロナウイルス感染が収束に向かっているが、新型コロナウイルスの新変異株の発生もあり、まだ先行きは不安定である。株安と原油価格の高騰といった景気悪化の要素も内在している。
		民間職業紹介機関（職員）	・取引企業において、閑散期を迎える企業が出てくる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	-	-

### 3. 北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (北関東)		一般レストラン（経営者）	・まだ宴会ができる雰囲気ではないが、年代を問わず動き出している。ディナーが新型コロナウイルス発生以前に戻って来ることを期待している。
		通信会社（営業担当）	・新型コロナウイルス禍の反動もあり、年末年始に向け顧客側の消費意欲が高まる。
		商店街（代表者）	・修学旅行や観光旅行等のアウトドア行動が増えてきているので、良い方向である。
		百貨店（店長）	・来客数の増加が、徐々に売上増に結実していくと考えている。特に、年末年始商戦に対しては期待している。
		コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスの落ち着き感は顕著に感じられ、週末の交通量の増加が著しい。11月初めより客の戻りがあり、来客数、売上共、前年を上回っている。12月もこのまま少しずつ回復するのではないかと。しかし、ガソリンの値上げ等、経費も増えているため、直接の利益には結び付いていない。
		コンビニ（店長）	・給付金やGo To Travelキャンペーンも始まるので、客の流れは良くなる。
		家電量販店（店長）	・新型コロナウイルス新規感染者の減少と給付金で、やや良くなる。
		乗用車販売店（経営者）	・当地域では、自動車メーカーの生産台数が10%程度増産してきており、大規模小売店への来店数も変わらずにあり、飲食店街も活気を帯びてきている。ただし、原油価格の動向が気になるところである。
		乗用車販売店（販売担当）	・半導体不足があつと2～3か月もすれば今よりは良くなると思うので、納車もできるようになり、商談がまとまる。
		乗用車販売店（販売担当）	・コロナ禍が落ち着いている状態のまま推移していけば、当社は観光地に囲まれているので、景気の回復には良い。
		住関連専門店（仕入担当）	・このまま新型コロナウイルス新規感染者数の少ない状況が続けば、年末に向けて来客数増加が見込める。飲食や観光業等への支援策も実施されてくると同時に、消費マインドも刺激される。そういった点で新変異株の動向が心配である。
		一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	・海外からの入国規制で、安心した場の提供ができる。また、Go Toキャンペーン等の経済政策で、役所を含む企業内の規制緩和が功を奏すると思われる。
		一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	・現時点では何ともいえないが、このまま行けば客足も戻ってくるのではないかと予想している。12月の予約も少しずつ問合せが増えてきている。
		その他飲食〔給食・レストラン〕（総務）	・地域版のプレミアム付きのチケット（飲食券、商品、サービス券）の販売が開始され、好調に販売が進んでいる。年末年始に向けたばん回のきっかけになることが期待される。
		都市型ホテル（支配人）	・新変異株が出てきているが、新型コロナウイルスの感染拡大防止策を徹底し、インフルエンザの流行も抑えられることを前提に、今の流れを継続できると期待している。
		都市型ホテル（スタッフ）	・新型コロナウイルス新規感染者数減少に伴い、宿泊やレストラン、料飲部門の来客数が2019年比で約95%と、ほぼ通常に戻りつつある。宴会も件数は2019年比で80%程度まで回復してきたが、1件当たりの人数がマイナス10人と、売上への影響は小さい。コストとのバランスを見ながらの人員やり繰りが非常に難しい状況でもある。
		旅行代理店（経営者）	・Go Toキャンペーンの再開が予想されるため、やや良くなる。
	旅行代理店（所長）	・ようやくGo To Travelキャンペーンの概要が発表されたので、季節的にはオフシーズンであるが、盛り上がり期待したい。	
	旅行代理店（従業員）	・Go Toキャンペーンで復活して欲しいと願っている。学校旅行が実施できている。	
	通信会社（局長）	・価格高騰など、予断を許さない状況に変わりはないが、新型コロナウイルスが終息すれば、徐々に良くなる。	
	テーマパーク（職員）	・Go To Travelキャンペーンの開始が見込まれており、今後は、学生団体に加えて、一般来園者の増加も期待できる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		競輪場（職員）	・このまま新型コロナウイルス新規感染者数が落ち着いた状態が続けば、来場促進策等も実施していくことで、少しずつではあると思うが、来場者は増加してくると期待している。
		設計事務所（所長）	・今の状況がしばらく続き、2年ぶりに年末年始をいつものように過ごせると思われるため、やや良くなる。
		一般小売店〔精肉〕（経営者）	・月末になっても、客は皆しっかりしていて、財布のひもを緩める姿は余りみられない。また、イベントも余りできない状態なので、客の来店も少ないようである。
		百貨店（営業担当）	・年末年始に向け、新型コロナウイルスの新規感染者の減少が維持できれば、ある程度の景況改善は期待できる。ただし、先行きが不透明な状況では、縮小した消費意欲の改善には時間を要するものと思われる。
		スーパー（総務担当）	・昨今のガソリン価格高騰の影響で、景気は変動する。政府の対応次第だが、大きくは変わらないとみている。
		スーパー（商品部担当）	・前年の年末年始の来客数や売上の減少を考慮し、今年度は帰省や新年会など期待を込めても良くなるとは想定できず、変わらないことを期待している。Go Toキャンペーンや新型コロナウイルスワクチンの3回目接種等で、人が動くことも予想され、内食頻度が下がると、スーパーとしては厳しくなる可能性もある。
		コンビニ（店長）	・店の近くにあった市役所が移転して1年が経過し、大きくマイナスの影響が出ている。この状態が改善されることは、現状では不可能である。
		衣料品専門店（統括）	・新型コロナウイルスの問題が出てから2年がたつ。客はそれなりの節約はかなりしており、元に戻るには時間が掛かる。最近では多少、来年に向けてということもあり、祭りやイベントに関して少し準備をしようという人も出てきている。
		衣料品専門店（販売担当）	・年末年始を控える今の時期に客が少しずつでも出てきてくれれば有り難いが、残念ながら明るい見通しはほとんどない。このまま、年末年始の買物に重点が置かれるようになると、当店のような服飾関係の店はほとんど後回しにされてくるだろうから、変わらず本当に悪いままが続くような気がしてならない。
		家電量販店（営業担当）	・緊急事態宣言が解除され、行楽等で客の動きは出てきているが、無駄な買物はしていない。チラシ、Webでの販促活動はしているものの、前年割れをしないようにしていきたい。
		住関連専門店（店長）	・新型コロナウイルスの感染状況は落ち着いていても、巣籠りからの脱却は数か月では難しく、消費も上向いてはいない。現状回復には数年掛かるのではないかと。
		その他専門店〔靴小売業〕（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いたまま続いて、生活が元のように戻ってくると、少し良い方向になるかもしれない。だが、自動車の減産等にみられるように、海外生産品の入荷がひどく混乱して不規則な状況である。この状況は最低でもあと3か月は続く。
		都市型ホテル（総支配人）	・今後、Go Toキャンペーンの再開なども前向きに検討されているが、新型コロナウイルス感染拡大第6波の不安もあり、状況は不透明である。
		タクシー（経営者）	・夜の動きが悪いので、この先も良くない。
		タクシー（役員）	・新型コロナウイルス対策が不十分で、入出がまだまばらである。今後も見通しができない燃料価格の高騰や売上原価の上昇で、マイナスの状態が変わらずに続いていく。
		通信会社（経営者）	・売上は何とか前年並みにはなりそうだが、仕入コストの増加から利益は激減している。先進国でいまだにデフレから脱却できず利上げができないのは、我が国くらいである。今後、米国の利上げで更に円安が進むようだと、かなり深刻である。カーボンニュートラルで既に経済の潮目が変わってきている。今後は単純に円安歓迎というわけにはいかない。
		通信会社（総務担当）	・商材の供給が改善しないと、販売施策だけでは販売数を好転させるのは難しい。
		その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・世界全体の経済回復はまだまだ先のため、変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		設計事務所（所長）	・飲食の機会は増えたが、新型コロナウイルスの感染拡大第6波や新変異株への警戒もあり、まだ景気回復には至らない。
		住宅販売会社（経営者）	・海外からの半導体等の流通が戻らない限り、いろいろな部材調達がしにくい状況は当分続くと予想されるため、変わらない。
		住宅販売会社（経営者）	・やはり、新型コロナウイルスが完全に終息しないと、景気は良くならないのではないかと。また、店舗等についても、どうしようかと迷っている姿が多くみられる。
		その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕（営業）	・家にいる時間が多くなって、自宅の気になる箇所についての問合せはあるが、なかなか成約までには結び付いていない。今後も同様の流れが続く。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・飲食業や観光業ばかりに補助金を支給しているが、一般小売店や営業等も影響を受けている。国が、どう考えて、対策を打っているのかさっぱり分からない。このままでは当店もじり貧である。
		コンビニ（経営者）	・イベントが終わってしまって、今後は悪くなる一方である。特に、当店の隣のファミレスは、業種を変えて家族葬儀業を始めている。
		コンビニ（経営者）	・2～3か月先は、年明けの1～2月辺りになるが、例年、客の買い控えや来客数の減少があるので、やや悪くなる。
		衣料品専門店（店長）	・新型コロナウイルスの新変異株に流行の兆しがある。また、食品やガス、電気料金の値上げが景気に悪い影響をもたらす、先行きは厳しくなる。
		乗用車販売店（従業員）	・車両登録の受注残は上向きになってきているが、販売できる台数の確保には、もうしばらく時間が掛かりそうである。
		一般レストラン（経営者）	・様々な感染症が流行することは火を見るより明らかである。メディアもあまりすぎる傾向がある。
	×	一般小売店〔土産〕（経営者）	・南アフリカで新型コロナウイルスの新変異株が発見され、ヨーロッパ各国でも感染者が見つかる。日本でも感染拡大第6波が懸念されている。感染者の増加に一番影響を受ける観光業のため、悪くなる。
	×	家電量販店（店員）	・購買マインドが戻るような販売施策がなければ、更に悪化する。
	×	その他飲食〔ファーストフード〕（経営者）	・南アフリカで発生した、新型コロナウイルスの新変異株がかなり拡大し、米国等の株価が急落している。そうした影響で、以前のように客の買い控え等があり、また売上が悪くなるのではないかと。
	×	観光型ホテル（経営者）	・そもそもが旅行のシーズンオフということや、新型コロナウイルスの感染者数増加の可能性が排除できないため、悪くなる。
	×	都市型ホテル（経営者）	・景気回復の兆しが全くみえない。
	×	美容室（経営者）	・子育て支援に10万円、コロナに従事する看護師に3万2000円、対して文通費に1200万円の支給である。これが我が国政治家の成長と分配である。31兆円経済政策の中味に失望して、株式市場の売りが止まらない。
企業 動向 関連  (北関東)		一般機械器具製造業（経営者）	・ロボット関連の増産に伴い、新規ラインの立上げを予定している。
		広告代理店（営業担当）	・緊急事態宣言のような規制がなければ、しばらく消費活動は活発な状態になる。
		経営コンサルタント	・いわゆる新型コロナウイルスの感染拡大第6波が大きくならず平穏に終われば、個人や企業の経済活動は活発化してくると考えられるが、この年末の状況次第と思われるので、まだ不透明感は拭えない。
		その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	・昨今の引き合い、商談状況からみても、今後の受注量は増加する。
		化学工業（経営者）	・現状、良くなるという材料は乏しく、変わらない。
		窯業・土石製品製造業（総務担当）	・新型コロナウイルスも落ち着き、落ち込みもなく稼働している。ただし、原材料の値上げがどのように影響するか、これからが心配である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金属製品製造業（経営者）	・製造業はそれほど落ち込みはないというような話を世間ではしているが、当社は徐々に下火になって、首を絞められるように、段々と悪くなっている。努力しようとはしているが、先は分からない。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・当社は10社ほど取引先があるが、このところそのほとんどが割と良い状況である。今後2～3か月先に悪くなるかどうかは、分からない。
		その他製造業〔消防用品〕（営業担当）	・しばらくはまだ、新型コロナウイルスの影響があると考えられる。
		輸送業（営業担当）	・年末年始に向かい、白物家電、こたつ、ヒーター、エアコン、オープンレンジ等の調理家電や寝具等、前年並みの物量を確保予定である。ただし、現状の燃料価格高騰や車両不足等により、協力会社のコスト高もあって、利益確保は厳しくなりそうである。
		不動産業（経営者）	・新型コロナウイルスの新変異株の影響を考えると、何ともいえない。
		司法書士	・新型コロナウイルスの感染状況次第という気がしている。私の周りの人たちは、余りコロナとは騒いでいないが、やはり影響はあるので、感染拡大第6波が来なければ、良いところまで来年中には回復するという気はしている。第6波が来るとどうなるのかという感じである。
		社会保険労務士	・取引のある社長達との会話では、原材料価格高騰の話が増えている。新型コロナウイルスの感染再拡大とともに、回復基調に水を差す可能性がある。
		建設業（総務担当）	・この時期なのに工事量が少なく、先行きにも不安しかない。
	×	電気機械器具製造業（経営者）	・当社だけの問題ではないが、万が一、1つの部品でも欠品すれば納品できなくなるので、売上が全くなくなる。非常に厳しい状況である。
	×	建設業（開発担当）	・今期の公共工事発注は前年比87%である。地方業者に影響のある県関係工事が前年比81%、市町村関係が同83%と共に厳しい。当社も前期比10%減と厳しく、今期決算は厳しくなりそうである。
×	不動産業（管理担当）	・車両の走行距離が長いので、燃料費が高止まりすると利益に大きく影響する。また、テナントの退去や業務終了による売上の減少も見込まれるため、悪くなる。	
雇用 関連  (北関東)		人材派遣会社（社員）	・宿泊施設の稼働率もかなり上がってきている。また、Go To Travelキャンペーンも始まるということで、その辺りの期待感もあって、良くなると予想している。
		人材派遣会社（経営者）	・人材募集の依頼が多くなっているため、やや良くなる。
		人材派遣会社（管理担当）	・自動車部品の増産計画があるため、人材を集められれば売上は増加する。
		職業安定所（職員）	・飲食店や卸売業の事業所からは「新型コロナウイルス発生前には戻っていないものの、売上が回復しているため、休業を縮小している」との声が聞かれる。
		学校〔専門学校〕（副校長）	・新型コロナウイルスが現時点では終息に向かっており、個人消費が増えてきている。しかし、新型コロナウイルス発生前のような消費にはなっておらず、景気が特段に良くなるとは考えにくい。
		人材派遣会社（社員）	・製造業を中心に派遣依頼数は増加傾向にあるものの、人材が不足してきているため、変わらない。
		職業安定所（職員）	・自動車関係の部品加工製造業等で求人を探る事業所もあるが、全体的には回復傾向にある。しかし、海外で新型コロナウイルスの感染が再拡大していることから、注視していく必要がある。
		人材派遣会社（経営者）	・求人は新たな業種での募集は難しいと思うが、従来の募集内容では、食品販売員、製造での製造員等は補充程度である。介護関係はなかなか辞めるに辞められないといったところか、動きは鈍く、そう変化はみられない。石油価格高騰と新型コロナウイルスの影響は各方面にじわじわと拡大してくる。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	*	*

#### 4. 南関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (南関東)		一般小売店〔家電〕 (経理担当)	・お金を持っている人はたくさんいるが、今は使うところがないので、これから使う人が多くなる。
		その他専門店〔雑貨〕 (営業担当)	・緊急事態宣言が全面的に解除され、駅周辺の人の流れが明らかに増加している。リベンジ消費といわれているが、確かに3か月前と比較して客単価が大幅に上がっており、発散を消費に向けていく傾向が続く（東京都）。
		高級レストラン（役員）	・現状が継続し、売上回復が進行すれば、年末年始、来春と景気回復に期待できる（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・東京都の認証店は人数制限が緩和されて8人までなら大丈夫となったので、かなり少人数の細かい宴会予約が入っている。全く予約のなかった2～3か月前と比べると、12月は前年よりも売上が増えたと見込んでいる（東京都）。
		都市型ホテル（スタッフ）	・新型コロナウイルスが収束し、来年Go To Travelキャンペーンが再開されれば更に良くなり、国内旅行が激増する。
		旅行代理店（従業員）	・Go To Travelキャンペーンが1月末又は2月に再開されれば、一気に販売が増える見込みである（東京都）。
		旅行代理店（営業担当）	・3か月後の2月には、Go To Travelキャンペーンが実施される予定なので、旅行需要が大きく伸びると想定している。
		一般小売店〔祭用品〕 (経営者)	・新型コロナウイルスの感染再拡大が心配ではあるが、人も少しずつ始め、飲食店にも客が戻り始めている。年末年始に向け、もっと増えとみている。
		一般小売店〔眼鏡〕 (経営者)	・新型コロナウイルスの感染者数は劇的に減っているが、余り変わってはいない。日本人の警戒心の高さゆえに、まだ用心しているのだろう。この先も変わらないかもしれないが、良くなってほしいという希望を込めての回答である。
		一般小売店〔生花〕 (店員)	・行事があるときはかなり多くの客が来てくれるが、3か月後の2月はバレンタインデーくらいで、消費としては余り多くはないので、さほど変わらない（東京都）。
		一般小売店〔茶〕（営業担当）	・まだまだ予断を許さないが、客の動きが出てくる。売出しもできるようになったので期待している（東京都）。
		一般小売店〔書店〕 (営業担当)	・新型コロナウイルスの影響にもよるが、年度末から新年度にかけての受注増が見込まれる（東京都）。
		百貨店（売場主任）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が落ち着いたまま感染第6波が来ないという前提条件で、年末商戦、年始のイベントなど、集客や売上も更に改善すると期待している（東京都）。
		百貨店（総務担当）	・日本では新型コロナウイルスの感染拡大が抑えられており、更なる感染防止対策の緩和、Go Toキャンペーンなど経済活性化策を実施すれば、消費拡大は続く。一方、感染防止対策緩和、経済対策強化により欧米のような感染再拡大が始まると、再び感染防止対策を強化しなければならず、消費冷え込みのリスクがある（東京都）。
		百貨店（広報担当）	・足元ではいわゆる富裕層だけではなく、中間層の消費も部分的ながら上向きに推移している。このまま新型コロナウイルスが収束に向かえば、着実に消費マインド自体は上がってくる。ただし、前提は感染第6波が小規模にとどまった場合であり、現時点では先行きの不透明感も否めない（東京都）。
	百貨店（営業担当）	・新型コロナウイルス感染第6波の抑制に向け、密回避のため福袋やイベントを中止するなど厳しい状況だが、現在の感染者数減少はこれから迎える年末年始商戦の大きなプラス材料である（東京都）。	
	百貨店（営業担当）	・10～11月の流れでいくと、新型コロナウイルスが収束するという前提で、今後は2019年度と同水準まで持ち返すとみている。ただし、新変異株の拡大次第では、引き続き不透明である（東京都）。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（営業担当）	・様々な施策により消費喚起が促進される。また、前年と比べて年末年始における消費行動が改善することなども見込まれる（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	・現在のリバウンド的な消費傾向は、新型コロナウイルスの新変異株等のまん延がなく、ワクチンの3回目接種など予防が徹底されていれば、年末年始以降も続く予想している。端境期に一旦止まるかもしれないが、新しい季節がスタートすれば、求められる需要があるのではないかと（東京都）。
		百貨店（販売促進担当）	・現在の新型コロナウイルス感染者数が落ち着いた状況が続けば回復傾向になる。今月も引き続きおせちの注文など巣籠り需要の好調な推移に加え、年末年始やGo To Travelキャンペーンの再開等、外出機会の増加により、アパレルや雑貨への売上に効果があれば更に良くなる。一方、年配者を中心に外出に慎重な客も多く、新型コロナウイルス発生前の状況には戻らない。
		百貨店（販売促進担当）	・新型コロナウイルスの感染者数減少に伴い、来客数が復調傾向にある。来年度に向けて団体行事や個人旅行が復調すれば、それに伴って購買行動が活発化する（東京都）。
		百貨店（店長）	・Go Toキャンペーンが再開されれば、人流の回復が更に進むと想定される（東京都）。
		百貨店（財務担当）	・新型コロナウイルス感染者数が減少していることを前提に、年末年始を迎え、消費が更に活発になると想定している（東京都）。
		百貨店（企画宣伝担当）	・まだ旅行に出かける客は本格的には増えていないが、旅行者が増えると消費の傾向も変わるものと考えている。
		百貨店（管理担当）	・このまま新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いていれば、人の動きが活性化し、旅行などにも行けるようになる（東京都）。
		スーパー（総務担当）	・外でお金を使うようになってきている。
		コンビニ（商品開発担当）	・様々な生活クーポン券等も解禁されているため、販促効果が出てくるものと期待している（東京都）。
		衣料品専門店（店長）	・新型コロナウイルスの感染状況次第ではあるが、感染者の減少傾向が続いていることから催事などが行えるようになり、来客数が戻ってきている。Go Toキャンペーンによる消費意欲の喚起策にも期待している。
		衣料品専門店（店長）	・新型コロナウイルス感染第6波が懸念されるが、客の消費意欲は高まっている（東京都）。
		衣料品専門店（役員）	・この先も新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、旅行や会食等が増え、衣料品の需要が高まることを期待している。
		衣料品専門店（従業員）	・このまま新型コロナウイルスの感染状況が落ち着けば良くなる。
		家電量販店（店長）	・新型コロナウイルス感染第6波次第ではあるが、このまま感染者数が増えなければ、営業時間や販促策の強化により売上増に期待ができる（東京都）。
		家電量販店（店員）	・新型コロナウイルスの感染状況次第で、客の新生活需要も含めて、数字が上向き可能性がある。また、東京オリンピック後でもテレビの需要が大きく、年末年始以降の買換えも期待できる。
		家電量販店（経営企画担当）	・客の購買心理が回復するのに合わせ、店舗への来店等が促進され、徐々に売上が回復するものと期待している。季節的にも消費が期待できる時期である（東京都）。
		家電量販店（従業員）	・新型コロナウイルスの感染状況次第だと思うが、このまま落ち着けば必ず良くなる。ただし、警戒心があるため急激な変化はない。
		乗用車販売店（総務担当）	・新型コロナウイルスが落ち着きつつあり、客の購入意欲が徐々に高まっている。ボーナス支給や需要月でもあり、販売量が増えると予想される。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	・このまま新型コロナウイルスが収束に向かえば、気持ちも外に向き、いろいろな販促を行えるようになる。
		その他専門店〔貴金属〕（統括）	・来客数の増加が販売量の増加につながることで、景気は良くなる（東京都）。
		高級レストラン（仕入担当）	・新型コロナウイルス禍が落ち着いてきたことにより、レストランの来客数が増え、小規模ながら宴会も入り始めている。今後も、この傾向が続く（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（経営者）	・2か月先は、新型コロナウイルスの感染第6波が来るか来ないかによって大きな差異があるが、来ないという前提で、多少は予約や宴会等も増えてくると見込んでいる。決して景気とは関係ないが、物価も上がっているため、給与、所得が増えない限りは、良くならない。
		一般レストラン（経営者）	・全国の新型コロナウイルス感染者数も日々抑えられており、暮れに向かって客も少し安心感が出て、予約が入るようになってきている。補助金などの個人消費を刺激する策が打たれれば、もう少し客が増えてくるような気がする（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況による。新変異株の問題もあり、景気が一気に回復するとは思えない（東京都）。
		その他飲食[居酒屋]（経営者）	・Go To Eatキャンペーンが再開されている想定のため、景気は上向きになると予想している（東京都）。
		その他飲食[カフェ]（経営者）	・新型コロナウイルス感染者数が増えてこなければ、間違いなく良くなっていくと感じているが、皆が口をそろえて感染再拡大の可能性を話しているため、感染状況によって一喜一憂すると考えている。飲食、コーヒーの卸先は、「以前のようにはまだ戻らない、戻ることはない。新しい生活習慣ができてくる」と話している（東京都）。
		その他飲食[給食・レストラン]（役員）	・新型コロナウイルスによる影響の沈静化により、社内クラブ関連も年末に向けて回復するものと思われ、景気は現状より一段と改善するものと想定している（東京都）。
		都市型ホテル（経営者）	・個人客が戻りつつあることと、Go To Eat、Go To Travelキャンペーンなどの再開に関する情報が流れてきているので期待しているが、残念ながら企業の宴会関係の利用はほとんどキャンセルになっている。忘年会、新年会がホテルの柱の一つなので、これが回復しなければ、なかなか厳しい。一刻も早い企業の回復につながる対策を政府にお願いしたい。
		都市型ホテル（スタッフ）	・新型コロナウイルスの感染状況がかなり抑えられているので、宿泊、レストラン利用は大幅に改善してきている。この状況がある程度続けば、近場での旅行が再開され、宿泊やレストラン利用が増えてきて、景気も回復傾向となる。
		旅行代理店（従業員）	・Go To Travelキャンペーンが再開される予定なので、国内旅行の需要が戻ると期待している。海外旅行、訪日旅行については、帰国後の隔離がなくなれば観光目的の旅行は厳しく、戻りは4月以降になるとみている（東京都）。
		旅行代理店（営業担当）	・Go To Travelキャンペーンが再開されれば需要が増える（東京都）。
		旅行代理店（販売促進担当）	・2～3か月先は、Go To Travelキャンペーンの再開が予定されているので、それに伴い個人旅行が更に伸びていく。また、大きなマーケットである東京都も、それに合わせて都民割など何らかの支援策を行うと聞いているので、実施されれば、より一層増えてくる（東京都）。
		タクシー運転手	・今年の12月は、前年よりは良さそうである。夜の利用が戻っていて、忘年会も小規模で行われるようなので、多少忙しくなる。年明けも、今の状況でいけば、少しずつでもタクシーの利用客が増える。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルスの感染者数が少ないまま落ち着いているので、このままいってくれば良くなる。ただし、新変異株が出てきており、その動向がどうなるか非常に心配である（東京都）。
		通信会社（経営者）	・販売量が増加しつつある（東京都）。
		通信会社（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況は落ち着いているものの、第6波の心配は引き続きある。とはいえ、様々な制限が緩和されてきており、客もウィズコロナでの行動を模索しつつ、少しずつ日常を取り戻すことが期待できる。客の反応も徐々に改善するものとみている（東京都）。
		通信会社（営業担当）	・新型コロナウイルス感染者数の減少がこのまま続けば、少しずつではあるが、景気も上向きになってくる。
		通信会社（営業担当）	・販売量は回復傾向にあるが、転居等による人の動きは限定的であり、新型コロナウイルス発生前の水準まで回復するにはもう少しばかり時間を要する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（局長）	・新型コロナウイルス感染者数の減少により、飲食店を中心に景気は回復基調となっており、年末年始には旅行なども活発化すると思われる。やがては4Kテレビの購入が増加し、5G携帯電話への機種変更も活発化する（東京都）。
		通信会社（経営企画担当）	・今後の新型コロナウイルス感染者数に左右されるが、現在の落ち着いた状況が続けば、引き続き商談数及び受注数も伸びると想定している（東京都）。
		通信会社（総務担当）	・新型コロナウイルス感染者数の減少傾向継続によるマインド転換から、訪問営業機会等の回復傾向の継続も期待している（東京都）。
		通信会社（管理担当）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着くことを期待している（東京都）。
		観光名所（職員）	・これから閑散期となるため状況が読めないが、期待を込めてやや良くなる（東京都）。
		ゴルフ場（経営者）	・緊急事態宣言が解除されて、飲食店の勢いが出てきた感がある。
		競輪場（職員）	・日本では一旦新型コロナウイルスが収束の方向にある。手軽に服用できる治療薬の開発が進めば、通常のインフルエンザのような扱いで対応が可能になる。また、年末、年度末くらい遊ぼうと考える人が増えると想定している。
		その他レジャー施設 [ボウリング場]（支配人）	・年末年始や忘年会シーズンで街がにぎわってきている（東京都）。
		その他レジャー施設 [総合]（広報担当）	・新型コロナウイルスの感染状況次第だが、Go Toキャンペーンの効果が期待される（東京都）。
		その他サービス[保険 代理店]（経営者）	・新型コロナウイルス禍の最悪の時期と比較すれば上向いていると感じるが、新型コロナウイルス発生前との比較ではさほどでもない。現状のやや上向き傾向が続くのではないかと期待している。
		その他サービス[学習 塾]（経営者）	・今後は良くなるという期待感を持てる雰囲気になってきている。
		商店街（代表者）	・商店街の飲食、物販など、いろいろな人に聞いたところ、飲食店は大分良くなってきているが、物販店は、少しは良くなってきたものの以前ほどではないという状況である。また、新型コロナウイルスの新変異株が出てきたので心配である。これが感染第6波として大きくなるといいが、商売の方は粛々とやるしかない。
		商店街（代表者）	・諸外国で新型コロナウイルス感染が再拡大している。それもほとんど日本より気温が低いところである。日本がこれから寒くなっていくことを考えると、感染第6波はこの冬に来るだろう。前回の第5波では、波が来てから再び立ち上がるのに相当苦労しているの、商業のアクセルは恐る恐るといった様子である。急回復するのはワクチン3回目接種後ではないか（東京都）。
		一般小売店[家電] （経営者）	・変わらないというのは、悪い状態がずっと続くということである。ロックダウンしているような国からの品物が入ってこなかったりしているが、そうした状態がまだしばらく続く。実際に悪くなっていくのだろうが、これ以上悪くなりようがないので、変わらない（東京都）。
		一般小売店[和菓子] （経営者）	・新型コロナウイルスの新変異株が出てきて、感染第6波、第7波の心配は拭えないので、どちらともいえない。
		一般小売店[文房具] （経営者）	・今後も新型コロナウイルス感染第6波への懸念があるため、なかなか先が読みにくい。感染者数が減少したままいくとしても、年末から年始にかけては巣籠り傾向になると思われる、新型コロナウイルス発生前のような慌ただしい年末年始にはならないだろう。したがって、著しく景気が上向きになることはなく、この1～2か月と同様の消費傾向になる（東京都）。
		一般小売店[酒類] （経営者）	・緊急事態宣言が解除されて、客の動きが活発になってきたように見えるが、まだまだ慎重に考えている人が多いので、変わらないのではないかと。
		一般小売店[傘]（店 長）	・原材料の値上げにより卸値が上がっている。年明けからは一部商材の値上げは避けられない。景気が良くなる要素が見当たらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔文具〕 (販売企画担当)	・2～3か月後の外商等の大きな案件、物件は現状余り出てきていない。文房具や消耗品関係は削減の対象になっている。デジタル庁の発足等により、直接購入ではなく、インターネットでの購入にどんどん変わってきているので、リアル店舗や対面営業による販売は、なかなか伸びない状況にあるのではないかと。
		百貨店(総務担当)	・新型コロナウイルスの感染状況について、新変異株の動向を含めて状況が不透明である。
		百貨店(総務担当)	・現在は新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いているものの、海外の状況などを見ると、先行きは依然として不透明であり、今後も感染状況に左右される傾向は続く。コロナ終息の方向性が見通せない場合は、厳しい商環境が続くのではないかと(東京都)。
		百貨店(販売促進担当)	・一部の富裕層では消費マインドの改善がみられるものの、中間層ではまだ回復には至っていない。新型コロナウイルス禍で変化した消費行動が大幅に改善されることは、しばらく期待できない(東京都)。
		百貨店(販売促進担当)	・新型コロナウイルスの感染第6波がいつ来るか分からない(東京都)。
		百貨店(経営企画担当)	・新型コロナウイルスの新変異株の動向が気掛かりである。前年の一時的な回復の兆しのなかで、感染が再拡大し、大きな影響を受けた。今年も、ワクチン接種が進んでいるとはいえ、報道の影響による外出自粛等が懸念される。新変異株の解明、対策により今後の消費行動が左右されると思うが、今のところは過度に不安をあおられることがなければ、徐々にではあるものの消費は回復すると予想している(東京都)。
		百貨店(店長)	・12月までは好調に推移すると思うが、その先は不透明である。新型コロナウイルス感染第6波次第では後退も予測される。
		スーパー(販売担当)	・競合店との価格競争もあり、重点商材などの価格が下がる傾向にある。客は、前年を超える点数を買ってくれているが、平均単価が下がっている分、客1人当たりの買上額合計がなかなか前年に届かない状況が続いている(東京都)。
		スーパー(経営者)	・新型コロナウイルスの収束以外に、やはり原油高やいろいろな商品の値上げもあり、客がまだ買い控えをすると予想されるので、この先もなかなか良い状態にはならず、今のやや悪い状態がずっと続くのではないかと。
		スーパー(店長)	・今の人の流れからいくと、スーパーは売上が非常に厳しくなっていくと思うので、3か月後も今と変わらないのではないかと。逆に、これ以上下がると厳しい。客はいろいろなスーパーを買い回って、1円でも安いものを買おうと生活防衛に入っている(東京都)。
		スーパー(店長)	・年末年始に向けて、前年同様に内食需要が高まるものと思われる。予約商品についても前年並みの推移をしているため、大きく伸びることないが、逆に大きく落ち込むこともない。
		スーパー(店長)	・消費者には節約志向が依然として根付いており、年末年始で一時的に消費が上向くこともあるかもしれないが、通常時に戻れば元の節約生活に戻ってしまうと思うので、同様の状態がしばらくは続く(東京都)。
		スーパー(総務担当)	・やはり一番大きな社会与件である新型コロナウイルスの状況がどうなるかで大きく変わってくる。新変異株がまた流行するとすれば、客の購買動向は上がらないだろうし、早めの水際対策によって新変異株がまん延しなければ、客の動向が活発になり、購買力も上がってくると思われる。不振だった衣料、住まいの品も含めて売上が回復できるように思うので、新型コロナウイルス次第で先行きはまだ不透明である。
		スーパー(営業担当)	・今後、内食化傾向は更に薄らいでいく。したがって、現状がしばらく続いていくと思われるが、今年はクリスマスやおせちなどの年末年始関連商材の伸びが期待できる(東京都)。
		スーパー(販売担当)	・企業のボーナス動向やガソリン価格の今後の見通しを含め、生活関連の不安要素が払拭されない限り、景気が上向くのは難しい。
		コンビニ(経営者)	・新型コロナウイルスの感染状況次第である(東京都)。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（経営者）	・冬に新型コロナウイルスの感染者数が増える予想もあり、厳しい状況が続くそうである。
		コンビニ（経営者）	・コンビニエンスストアにおいては、新型コロナウイルスが少しずつ収まり来客数が増えているが、逆にまとめ買いがなくなった分、客単価は下がっており、結果的には余り変わらない。
		コンビニ（エリア担当）	・前年と比べて人の動きが増えることが期待できるが、前々年ほどまでは戻らないのではないかと（東京都）。
		衣料品専門店（経営者）	・衣料品のデフレ傾向はまだまだある。
		衣料品専門店（経営者）	・新型コロナウイルスが落ち着いた感はあるが、新変異株が発生したということで、まだ不安がある。消費が戻ったとはまだ言い切れず、いろいろな物の価格が少しずつ上がってきていることなどから、変わらないが、もしかしたらやや悪くなる。
		家電量販店（店長）	・消費者の意識は、しばらくは観光やレジャーに向くのではないかと。飲食業界も回復してくると、消費の優先順位が変化してくる（東京都）。
		乗用車販売店（経営者）	・自動車の整備は順調に入っているが、販売が余り芳しくない。前月同様、半減となっているが、これは半導体不足のほか、新型コロナウイルスの影響による客の買い控えの状況もある。
		乗用車販売店（経営者）	・日本では新型コロナウイルスの感染者数が減少しているが、海外ではまだ解消していないので、状況は変わらない。
		乗用車販売店（営業担当）	・半導体不足問題が解決しないと、契約しても車が納品されないなら中古車で、となるケースが多い。
		乗用車販売店（販売担当）	・せっかく新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いて、海外からの入国者も増えるという段階で、また新変異株が発生し、全世界から入国禁止となっている。そうしたことの影響と、また移動ができなくなったら、全体的に消費が落ち込んでくる。ただし、1つだけ良い点は、今まで整備関係には人が集まらなかったが、新型コロナウイルスの影響で就職先がないのか、今年については社員募集に予定以上の応募がある（東京都）。
		乗用車販売店（渉外担当）	・自動車の出荷状況がいまだに正常化していない。
		乗用車販売店（営業担当）	・好転する要因が特にない（東京都）。
		住関連専門店（営業担当）	・リフォーム業界においては、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着くにつれて需要が回復しつつあるが、半導体不足や中国の電力不足による工場の稼働停止など、製品供給の面で不安要素もあり、判断が難しい（東京都）。
		その他専門店 [ドラッグストア]（経営者）	・先行きは、どう見ても景気が良くなるような感じがしない。店も余り活気がないし、このまま今年は終わってしまうのではないかと。
		その他専門店 [ガソリンスタンド]（団体役員）	・来年1月中旬にもGo To Travelキャンペーンが再開されることに期待しているが、原油価格の動向が全く不透明なため、効果が見通せない（東京都）。
		高級レストラン（営業担当）	・年間を通じて最繁忙期である忘年会シーズンであり、個人需要は一定の予約があるものの、法人、団体の予約が少なく、売上の確保ができていない（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・緊急事態宣言が解除されたので、ふだんであれば少し景気が良くなると思うが、我々飲食業は1～2月は毎年かなり厳しいので、2～3か月後も余り良くならない。ケータリングも1～2月はほとんどないので難しい。
		一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスの影響は良くも悪くもあるが、新しいビジネスチャンスも感じる（東京都）。
		一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルス感染予防のための規制が全面解除になった。また、ワクチン接種も進み、新型コロナウイルスに対する状況は良くなっている。しかし、感染第6波や新変異株への懸念と客の気持ちはまだまだ厳しい状況である（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスの新変異株が入ってきたらどうなるかということが、まだ日本では全く分かっていないので、その動向次第ではせっかく入った予約もまたキャンセルになってしまうかもしれない。再び酒類の提供等ができなくなると、飲食店にとっては大変なダメージになる。
		一般レストラン（経営者）	・今後の新型コロナウイルスの感染状況に左右されるところが大きい。また、石油の値上がりのほか、世界的に便乗した形での価格のつり上げが起きていて、それによるコストアップは正常なインフレではなく、間違いなくスタグフレーションである。政府の財政出動と公共投資の不足が原因と考えている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・新型コロナウイルスの新変異株が見つかり、それによっては経済の停滞がまだ長引く。
		都市型ホテル（スタッフ）	・新型コロナウイルスの新変異株の動向が不透明である（東京都）。
		旅行代理店（経営者）	・今のところ新型コロナウイルスがまだ完全に終息したわけではなく、客が何となく二の足を踏んでいるような状況である。これといって問合せもなく、旅行商品を勧めてもまだもう少し考えさせてほしいという回答しか得られない。先行きも現状のままで変わらない。
		旅行代理店（従業員）	・自主的な行動制限をしている方々が急激に解除することは考えにくい（東京都）。
		タクシー運転手	・取りあえず今は新型コロナウイルス感染者数を抑えられているが、まだまだ油断はできない。この先寒くなってからどのように感染者数が増えてくるのか、正月を迎えることもあるので、やはりまだまだ心配である。
		タクシー運転手	・人の動きをみると、特に土日等は都内繁華街や大型スーパーの周辺などでは大分人が増えている。しかし、タクシー客に関してはどういつわけか変化がない。こういう状態がいつまで続くのかは分からないが、人出や車が増えているので、何となく景気が良くなったように感じる。タクシー利用にまで影響するようになるのを期待するばかりである（東京都）。
		タクシー（団体役員）	・どうなるか分からない。景気回復は余り期待できず、新型コロナウイルス感染第6波が来れば、人流は期待できない。
		通信会社（経営者）	・現在、新型コロナウイルス感染者数が鎮静化しているため、景気は上向いていくと思うが、半導体不足が解消されない限り、当社の景気は変わらない（東京都）。
		通信会社（社員）	・緊急事態宣言解除後の明るい状況が継続している。企画案件も具体化している（東京都）。
		通信会社（社員）	・転売目的の端末購入に対して、抜本的な対策がない（東京都）。
		通信会社（管理担当）	・期待はするものの、良いニュースがないので、良くなる見通しはない。政権交代後、様子見だと思われる。
		通信会社（営業担当）	・良くなると思える材料がない。
		通信会社（営業担当）	・訪問型営業を今以上に増やしていかないと、契約件数は伸びない（東京都）。
		通信会社（経理担当）	・特に変わる材料が見当たらない。
		ゴルフ場（経理担当）	・ゴルフが新型コロナウイルスとの共生時代においても安心して楽しめるスポーツという認識の浸透もあり、ゴルフ選好が定着していく流れは続くと考えられる。業態的には固定費が高く、原油高が続けば業績に影を落とす懸念が強い。冬季の感染第6波も懸念されるが、現在のような小康状態が続けば、改善も期待できる。
		その他サービス〔福祉輸送〕（経営者）	・半導体の需給はまだ盛り上がりつつある見込みがない。納期もまだ先に延びているので、受注は上回らない（東京都）。
		その他サービス〔立体駐車場〕（経営者）	・今まで同様に、状況が変わっても良くはならない。
		設計事務所（経営者）	・近隣を見ると、住宅の建て替え等の件数が少し増えてきているように感じる。しかし、新しい営業展開は非常に難しく、客にどのように話を持って行けば良いか悩んでしまうことがある。行政の仕事も、指名の件数が少なく、足元の仕事はどうすれば良いか社員共々検討している。頑張らなくてはいけない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		設計事務所（経営者）	・今のところ、新しい案件が入ってくる様子はない。現在ある案件が進んでいくだけである。
		設計事務所（経営者）	・現在取り組んでいる仕事が1月末～2月まで継続するので、仕事量の変化はない。新型コロナウイルス収束への期待はあるが、仕事量の回復にすぐに結びつく業種ではないので、現状維持が続くとみている。
		設計事務所（職員）	・建築設計発注に大きな影響を与える事象がない限り、傾向は変わらない（東京都）。
		住宅販売会社（経営者）	・新型コロナウイルスが完全に終息しない限り、景気は良くならない。ワクチン接種は大分進展しているようだが、治療薬ができることを期待している。
		住宅販売会社（従業員）	・住宅展示場への来場者数、資料請求数が減っており、商談数も減少しているため、販売量の増大は見込めない。注文建築の請負契約が見込めないために、土地を購入し建築条件付として販売量を増やそうと、分譲用の土地探し、仕入れを積極的に始めている。しかし、すぐには販売量の増大につながらないため、しばらくは良くなりそうにない。
		住宅販売会社（従業員）	・来場者数などに大きな変化はない。
		住宅販売会社（従業員）	・年が変わってどうなるかによって変わってくると思うが、戸建ての需要が落ちてくると思うので、地価が若干下がってくれば仕入れやすくなり、アパート販売業者には良い方向に向かっていく。
		住宅販売会社（従業員）	・受注量に変化がないため、特に良くも悪くもならない。
		その他住宅〔住宅資材〕（営業）	・建材の繁忙期に向かうなかで、一定の需要としては、今後は落ち着いていく見込みである（東京都）。
		一般小売店〔家電〕（経理担当）	・年末に向かうが、半導体不足の問題やガソリン価格の高騰などを考えると、商品事情も不安である。
		一般小売店〔印章〕（経営者）	・需要は少なくなったものの、11月中、12月上旬に限っては年賀状印刷等があるので、多少は客の動きがある。1月に入ればまた厳しい状態になるのではないかと。
		一般小売店〔米穀〕（経営者）	・社会情勢もなかなか落ち着かず、ふだんどおりの生活に戻るにはまだ至っていない。非常に敏感な時期であり、12月は不安定になるような気がする（東京都）。
		スーパー（経営者）	・チラシを入れても来客数が戻らず苦戦している。
		スーパー（仕入担当）	・食料品、ガソリン、灯油、電気料金等の値上げの波が来ており、節約志向が高まり、消費が冷え込む。
		コンビニ（経営者）	・急激な人手不足に陥り、年末年始を乗り切れるか不安である。
		コンビニ（経営者）	・購買数も来客数も全て少なくなっている。前年に比べても少しずつ落ちている。
		コンビニ（経営者）	・生活困窮者向けの給付金があったとしても、将来への不安感から貯蓄に回す人が多いと思われる。そのため、支出も抑える傾向にあると感じている。
		乗用車販売店（店長代行）	・部品の供給不足により、車両、ナビなどが全然入ってこないため、売上が上がらない（東京都）。
		住関連専門店（統括）	・新型コロナウイルスの影響で、まだまだ正常な来客数、売上には及ばない状態で推移している。
		その他小売〔生鮮魚介卸売〕（営業）	・物価が上がっているため、利益が薄く、経費を出すのが大変である（東京都）。
		旅行代理店（従業員）	・例年、冬期は団体旅行案件がない時期である。さらに、新型コロナウイルスの感染第6波及び新変異株のまん延次第で、来春の団体旅行に悪影響が出てくるのが予想される。
		タクシー（経営者）	・新型コロナウイルスの感染第6波が来ることにより、確実に悪化する。
		パチンコ店（経営者）	・新型コロナウイルス感染第6波が懸念されるなか、年末に向けてその可能性に現実味が帯びてくると、再び政府による規制等が実施され、回復しかけている景気に水を差すことになる。
		その他レジャー施設〔複合文化施設〕（財務担当）	・新型コロナウイルスの新変異株による感染第6波が懸念される（東京都）。
		美容室（経営者）	・早く新型コロナウイルスが収束してほしい。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・冬期講習の申込人数が非常に少なくなっている。収入が更に減少する。
		設計事務所（所長）	・ここにきて、また鋼材等が値上がりし、手薄な状態が続いている。住宅設計も、改修等の話は多少あるものの新築の計画がなく、やや悪くなる見通しである（東京都）。
		設計事務所（所長）	・前年同時期と比べて仕事量が半減している。新型コロナウイルスの影響で計画が伸び続けており、先行きがなかなか見通せない。
		その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕（経営者）	・私どもの業務は、新型コロナウイルスが収束したからといってすぐに反応することができるものではない。打合せ等、ある程度の時間が掛かるので、1日も早く元に戻るよう願うばかりである。
	×	一般小売店〔家具〕（経営者）	・これから先は、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いたとしても、物価が高くなっていること、消費者の所得が増えていないため、景気は悪くなる（東京都）。
	×	一般小売店〔食料雑貨〕（経営者）	・人件費、水道光熱費等、経費が上昇しているため、経営が悪化する。
	×	スーパー（経営者）	・原油価格高騰のため、食料品の価格も上がってきている。新型コロナウイルスでの雇用調整助成金なども終わりに近いので、財布のひもがますます固くなる気がする。
	×	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・新型コロナウイルスの新変異株の出現がまた将来不安をあり、今の勢いに陰りが見えてくる可能性が高い（東京都）。
	×	通信会社（管理担当）	・加入者のサービス解約が増加傾向にある。
	×	ゴルフ場（従業員）	・国から税金を放出することで、国が維持されているとしたら、先行きはどうか。新型コロナウイルスの新変異株の発生もあり、景気が良くなる要素が見いだせない。そのようななかで、あれこれ値上がりしており、一部を除き、生活は苦しくなるばかりである。
企業 動向 関連  (南関東)		輸送用機械器具製造業（総務担当）	・12～3月の生産計画は、ここ数か月の落ち込みをばん回する勢いとなっており、景気は上向きである。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（従業員）	・受注量、売上が新型コロナウイルス発生前と同じくらいまで回復している。
		出版・印刷・同関連産業（所長）	・12月納品の案件引き合いも多くみられるが、年末年始の案件まで継続して受注が増えることを期待したい。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・今までは少なかった店頭に来客数が増えてきている。報道されているように、新型コロナウイルスの感染者数が少なくなっていることで客が外に出やすくなっている。それに伴って、売上も上向きになってきている。会社関係は10月頃からやや上向きつつあるが、店頭も少し上向ってきている（東京都）。
		通信業（広報担当）	・徐々に経済が正常化してくる（東京都）。
		金融業（従業員）	・不動産業の中でも、特に地域に密着して情報力を活用している事業者では、「物件の動きが良い」、「増収増益を見込んでいる」など、明るい話題が多い。一方、一部の製造業や卸売業の事業者からは、仕入価格の上昇が重荷となって、経費削減だけでは追いつかないとの声も聞かれる。新型コロナウイルスの感染状況がやや落ち着いている今、会社ごとの強みや課題が浮き彫りになっている（東京都）。
		金融業（総務担当）	・人出や売上が増加している業種が大幅増えている。年末に向けて、高額なおせちの予約が伸びたり、高級品が売れてきたりしている。ただし、飲食業では忘年会の予約はまだ厳しい状況である。全体的には景気は回復傾向である（東京都）。
		金融業（役員）	・新型コロナウイルスの収束傾向を受け、業況は良化傾向と思われるが、新変異株の拡大が懸念される。
		不動産業（経営者）	・新型コロナウイルスの感染拡大が様々な手立てによりこのまま落ち着く傾向にあると予想されるなか、新年には良くなる。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（経営者）	・新型コロナウイルス感染症も落ち着き、久しぶりに年末年始を普通に迎えられそうで、町もにぎわいを取り戻すとみている。また、車の通行量も増えてきているように感じる。しばらくは受注量が多い現状のまま推移しそうで（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		食料品製造業（経営者）	・今、急速に売上が回復しているが、これは市場に在庫がないことが最大の理由であり、行き渡ってしまうと落ち着くのではないかと（東京都）。
		食料品製造業（経営者）	・これから繁忙期を迎えるが、新型コロナウイルスの感染第6波が心配である。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・今でさえ仕入値が上がっているのに、また1月から20%くらい値上げする話がいろいろなところから入ってきて、お手上げ状態である。
		化学工業（従業員）	・年末も、前年と同様に、受注が増加する様子はない。海外向けは順調ではあるが、国内は下げ止まりのようである。
		化学工業（総務担当）	・このまま新型コロナウイルスが収まってくれば、消費が回復して受注も増加すると期待しているが、原材料コストが急騰して収まる気配がなく、収益性が低下している。
		プラスチック製品製造業（経営者）	・新型コロナウイルスの影響で滞っている新企画の生産がいつ始まるかによって、今後の見通しは変わってくる。国内は感染状況が収まりつつあるようだが、世界的な回復が遅れているため、確証が得られない。
		金属製品製造業（経営者）	・新規の仕事を取り入れていかなければと思い、営業努力と、新技術の教育にも力を入れ、頑張っている。
		金属製品製造業（経営者）	・米国向けはしばらくの間、好景気が続く。
		電気機械器具製造業（経営者）	・このところ受注残の数字が増えてきており、年明けに期待が持てる。しかし、半導体が手に入りにくいと、納期の遅れが生じる恐れがあり、心配である（東京都）。
		精密機械器具製造業（経営者）	・新型コロナウイルスの影響による売上減少は解消され、受注は新型コロナウイルス発生前の4～5年前の水準に戻っているものの、調達が遅延しており売上が変わらない。逆に、今後、仕入価格の転嫁ができない場合、マイナス要因が強くなり、依然として踊り場である。
		その他製造業〔靴〕（経営者）	・回復にはまだ時間が掛かる。
		建設業（従業員）	・新型コロナウイルスの新変異株が発生しているため、今後どのようなようになるかよく分からない。
		輸送業（総務担当）	・荷主の国内出荷量が低迷している。今後も現状が続く予想である。
		金融業（従業員）	・新型コロナウイルスの新変異株の脅威もあり、実際に米国市場等では株価の下落も起きている。日本でも先行きに対する不安材料等が多いことから、ワクチンの3回目接種の方針を、より具体的な方向で、スピーディーに示すことが必要である。その点について、現状の方策では実効性が薄いように思われる。
		不動産業（総務担当）	・2年近い新型コロナウイルス禍のなか、何度も緊急事態宣言が発出されたため、今は感染者数が減ってきているが、テナントの動きに大きな変化はない。ウィズコロナと言われているが、年内は飲食は慎重にという話をよく耳にする（東京都）。
		広告代理店（従業員）	・年度内の売上は見えているので、変わらない。
		広告代理店（営業担当）	・世の中的には良くなるかと思うが、当社においては、エンターテインメント業界等の復活が少し遅れてやってくると思っている（東京都）。
		税理士	・米中の景気に左右されるところが大きい。国内の政治もそうだが、それ以前に新型コロナウイルスがこのまま収束していけば良いが、韓国やヨーロッパなどでもまだ感染拡大が続いているので、日本にも影響してきたらどうなるか不透明で、先行きは分からないところがある（東京都）。
		社会保険労務士	・良くなる要因が見当たらない（東京都）。
		経営コンサルタント	・新型コロナウイルスがこのまま収束に向かうのか、懸念されている第6波が来るのかによる。
		経営コンサルタント	・さして良い材料がない（東京都）。
		その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	・取引先工場等も稼働状況を上げようと努力しているが、その反面、廃業する取引先などもみられ、良くなる兆しがまだ見えず、しばらくはやや悪い状態が続く。
		その他サービス業〔警備〕（経営者）	・現状のまま推移する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕(経営者)	・値上げ交渉中だが、なかなか決まらない(東京都)。
		その他サービス業〔映像制作〕(経営者)	・取引先では、半導体の不足などで足踏みをしている企業が多く、円安や原油の値上がりの影響で、急に景気が上向くとは思えない。学校関係の卒業アルバムなどは、今年度末は少し戻りそうな予想である(東京都)。
		その他サービス業〔情報サービス〕(従業員)	・新型コロナウイルスの新変異株による影響が分からず、見通しが立たない。
		プラスチック製品製造業(経営者)	・新型コロナウイルスの動向による。今、新変異株が流行し始めているので、先行きは少し悪くなる。
		その他製造業〔化粧品〕(営業担当)	・中小企業向けの特別措置の効果が切れて、オーナーたちの財布のひもが固くなってきている(東京都)。
		輸送業(経営者)	・年末年始の特需がなくなって久しく、また、例年1~2月は稼働日数の減少により売上が下がる時期で、これに燃料価格の高騰、高止まりが重圧となり、経営環境は厳しさが続く(東京都)。
		輸送業(経営者)	・燃料価格の高騰が影響する(東京都)。
		輸送業(経営者)	・3か月先の受注のめどが立っていないので、悲観している(東京都)。
		不動産業(経営者)	・各種団体やグループの行事も、今年は全て中止のようである。1件だけ忘年会が開催されるが、新型コロナウイルスの影響で、特に高齢の人は出ないようである。この忘年会は総勢100人だが、果たして何人集まるだろうか。新型コロナウイルスの終息を祈るばかりである(東京都)。
		広告代理店(経営者)	・燃油価格や物価が変わらない。賃金の引上げ等が影響する(東京都)。
		広告代理店(従業員)	・現状、12~1月は厳しくなる見込みである(東京都)。
	×	出版・印刷・同関連産業(経営者)	・年明けから受注量が大幅に減る見込みである(東京都)。
	×	一般機械器具製造業(経営者)	・複数の取引先から、12月は減産になると明言されている。同時に、1月は反動で増産と言われてもいるが、先行きに期待はしていない。
	×	建設業(経営者)	・世界の流通が落ち着いていない。
	×	建設業(経営者)	・新型コロナウイルス感染者数がかなり減ってきているが、海外では新変異株が発生しているようなので、これからまた厳しい状況になる。
	×	建設業(営業担当)	・建築資材の高騰が12月以降も継続し、新たな資材の値上げも増えており、見積りが提出できない状況である。今後もこの動向が継続すると、新規受注が難しくなると感じている。
雇用 関連 (南関東)		人材派遣会社(社員)	・物流、デリバリーフード関連の人材発注が好調である。また、ワクチンパスポート関連業務のオーダーが動き出しそうである。
		人材派遣会社(社員)	・新型コロナウイルス禍が少し落ち着いている間に景気が多少上向く(東京都)。
		人材派遣会社(社員)	・求人数の増加トレンドは継続しているものの、契約終了者数も比例して増加している。長期派遣就労者数は微増であるが、堅調な推移を示している(東京都)。
		人材派遣会社(経理担当)	・今年度中は現在と同様の動きで、新型コロナウイルス発生前より求人数が少なく、それ以上に派遣社員の契約終了数が少ない状況で推移する。理由としては、今、派遣契約の終了を申し出ても、次の求人先が余りないため、人材の流動化が鈍化していることによる。そのため、3月までは派遣労働者数は微増傾向のまま推移する(東京都)。
		人材派遣会社(営業担当)	・EVを中心とした自動車改革が進行しており、景気は回復傾向にある。
		人材派遣会社(営業担当)	・採用意欲が向上しているため、経済も活発になっていく。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		求人情報誌制作会社（営業）	・新型コロナウイルスがそのまま落ち着いていけばという前提になるが、人出が増え、消費が増えてくれば必然的に求人数も多くなっていく。ただし、消費活動が継続すればの話である。一時的に消費が増えても求人数はそれほど増えない。企業が、近い将来仕事が忙しくなってくるという見通しを立てて求人を出すことも多い。今だけが忙しくても求人はそこまで増えない。消費が継続するような世の中になるような政策に期待している。
		求人情報誌制作会社（広報担当）	・このまま新型コロナウイルス感染者数が増えなければ、景気は上向いていくのではないかと（東京都）。
		職業安定所（職員）	・行動制限が緩和され、人流が増える。
		職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスの感染拡大状況に左右されるところではあるが、このまま新規求人数が増加した場合には、景気は上向く（東京都）。
		学校〔大学〕（就職担当）	・クリスマス、年末年始に人が動くことにより、一時的に良くなるのではないかと（東京都）。
		人材派遣会社（社員）	・年末の繁忙期が終わっても、人材不足の状況が改善されることはなさそうである。
		人材派遣会社（社員）	・新型コロナウイルス絡みの大型案件の終了や縮小が見えてきており、臨時的に発生していた大きな売上が減る（東京都）。
		人材派遣会社（支店長）	・人材派遣、人材紹介共に受注数は新型コロナウイルス発生前に近いレベルに戻ってきているが、求めるスキルのこだわりが強く、ミスマッチも増えてきており、成約につながりにくい（東京都）。
		求人情報誌制作会社（所長）	・1月に新型コロナウイルス感染者数が増えるとAIのデータが示していると聞いている。
		職業安定所（職員）	・サービス系職種の求人数の増加など、緊急事態宣言解除の影響によるものと推察される動きもみられるが、新型コロナウイルス感染第6波による経済活動の停滞が懸念され、雇用情勢が好転するか否かは不透明である。
		職業安定所（職員）	・有効求人数が2か月連続して減少し、今年2番目に低い数値となった。前年比では8か月連続して改善傾向であったが、悪化に転じている。
		民間職業紹介機関（経営者）	・物価に大きな変動はなく、求人、求職状況にも大きな変化はない。比較的安定した状況で、しばらくは変わらない（東京都）。
		-	-
	x	-	-

#### 5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (甲信越)		一般小売店〔家電〕（経営者）	・周りの環境や景気も、余り良いとは感じられないが、一部の企業では良いようである。
		スナック（経営者）	・新型コロナウイルス発生前と同じ水準までは戻らないと覚悟はしているが、最悪の状況は終わったと思っている。頑張って当たり前の日常を取り戻していきたい。
		都市型ホテル（スタッフ）	・Go To Travelキャンペーンの実施に非常に期待している。前年実施時には明らかに伸長したので、実施されれば確実に良くなる業種である。それ以外にも、状況は日に日に良くなっているため、新型コロナウイルスの感染状況さえ悪化しなければ、良くなる状況が続いていく。
		その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	・今月は寺からの営業が2件あった。葬儀に使ってくれないかというものである。新型コロナウイルスの影響で、どこも大変なようである。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの感染状況も大分落ち着いているので、来年1月からはかなり良くなっていくのではないかと期待している。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が落ち着いた現状のまま年末年始を迎えたいと甘い期待を持っている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（店長）	・新型コロナウイルス次第のところはあるが、旅行に行くからと、服やバッグ等を買求める客が増えている。通常営業に戻って、催事も予定どおり開催されているので、今後良くなるのではないかと。
		スーパー（経営者）	・新型コロナウイルスの感染拡大第6波が来ずに、ワクチンを3回接種すれば、景気は良くなる。月末になって雪が降ったが、スキー場にも客が来れば、景気も良くなる。
		コンビニ（経営者）	・年末商戦で、やや良くなる。
		コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルスも落ち着き、Go Toキャンペーンなどが始まれば外出する人達が増えてくる。今まで密を避けるためにできなかったことができるようになり、人流が戻りつつあるので少しは良くなる。
		高級レストラン（経営者）	・年末年始に向かい、新型コロナウイルスの感染拡大第6波が小さく済めば、この先の景気は更に良くなる。
		一般レストラン（経営者）	・今の流れでいけば、上向きに転じそうである。
		都市型ホテル（スタッフ）	・今月ほど売上が上がる期待はしていないが、Go To Travelキャンペーンの再開が2月から予定されており、また、当県独自の県民割キャンペーンは、1月まで延長されそうである。そういった需要喚起が見込まれる。
		旅行代理店（副支店長）	・半導体不足による生産の遅れや、原油高騰による物価上昇で、旅行消費にも影響が出る可能性が高い。特に、企業の団体旅行への影響を懸念するが、新型コロナウイルスの感染状況が減少傾向のまま継続されれば、現状よりは回復する。
		タクシー運転手	・現状、売上は前年比105%くらいである。しかし、前々年に比べればまだまだ復活していない。
		通信会社（社員）	・年度末は最も人が動く時期なので、例年どおりであれば加入増は見込める。ただし、これまでのマイナスを取り返すには更なる効果的な方策が必要である。
		遊園地（職員）	・感染対策を徹底し万全な受入体制を整えるとともに、積極的な集客施策の実施や情報発信を行うことで、多くの客の来園を期待する。
		一般小売店〔家電〕（経営者）	・年末商戦や季節商材の動きに期待したいが、客の消費意欲は見えてこない。
		一般小売店〔薬〕（経営者）	・新型コロナウイルスの終息が完全ではなく、客足が戻らないのが変わらない理由である。
		スーパー（経営者）	・外食や観光等は緩やかに回復すると思うが、依然として新型コロナウイルス感染拡大第6波への警戒感は大い。
		コンビニ（経営者）	・毎年、寒くなるにつれて客の動きが徐々に悪くなるので、さほど売上は望めない。
		コンビニ（経営者）	・当店の場合、売上が減ったままで行くような気がする。
		コンビニ（店長）	・売上、来客数が落ちている理由が今のところはっきり分らない。このまま特別変わらないような気がする。
		衣料品専門店（経営者）	・冬を迎えるため、人が動かなくなり消費もしくなる。
		家電量販店（店長）	・政府の景気刺激施策が必要である。
		乗用車販売店（経営者）	・部品不足解消は不透明な状況で、需要期の新車販売への影響が懸念される。
		自動車備品販売店（従業員）	・半導体不足の影響もいまだにあり、商材不足もあるので、まだ景気が良くなるとはいえない。
		一般レストラン（経営者）	・極端な新型コロナウイルスの新規感染者数の減少に皆、戸惑っているように思える。安どしている様子も見受けられるが、新変異株の報道もされ、まだ安心して動ける状況ではないと、様子見の状況ではないかと。
		スナック（経営者）	・先行きも正直分からないが、今の景気の悪さが変わらないという回答である。
		スナック（経営者）	・新型コロナウイルスの新規陽性者がかなり減ってきているので、街角には客が戻ってきている傾向は確かにある。ただし、この1年半の間で、飲食店は大分痛めつけられて、従業員も抜けてしまったので、いざ、年末の忘年会シーズンに入ったとしても、十分に来客をさばけるだけの人材が不足していることから、すぐには売上につながらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		観光型旅館（経営者）	・良い要因としては、新たに隣接県も含めた県民割が始まるようでリベンジ需要による動きが続くのではないかと。悪い要因としては、忘新年会の季節だが予定がないことや、現在実施中の県民割引の予算枠を使い切ったため、県民割引を期待していた方からの予約が減りそうなことである。このため、結果としては現状維持を予想している。
		通信会社（経営者）	・物価上昇が現実となり、今後節約志向が強まる可能性が高く、厳しさが増してくる。
		観光名所（職員）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきた現在、今まで旅行を我慢していたうっぷんもあり、一定の需要はある。ただし、収入減や燃料価格の高騰等、マイナス面もあり、すぐに景気が好転するとは考えにくい。
		その他レジャー施設 [ボウリング場]（経営者）	・新型コロナウイルス新規感染者数は減少傾向で明るい兆しではあるが、新変異株の発生等、まだまだ安心というわけではない。厳しい状況はまだしばらく続く。
		設計事務所（経営者）	・すぐに実施設計に移れる物件が少ない。
		住宅販売会社（経営者）	・当別荘地が、地方移住や2拠点居住指向の対象にもなっており、資料請求や現地見学希望が堅調である。
		商店街（代表者）	・流れを変えるのは簡単ではない。
		百貨店（営業担当）	・ガソリン価格の高騰や生活に直結する食品値上げ等、物価が上昇しているため、どうしても購入に慎重にならざるを得ない。
		スーパー（店長）	・新変異株が発見され、外国での新型コロナウイルス新規感染者も増えているなか、国内でも感染拡大第6波を見据えた警戒した行動になる。
		コンビニ（エリア担当）	・天候の状況や、新型コロナウイルスの感染再拡大の懸念があるため、やや悪くなる。
		その他専門店[酒] （店長）	・新型コロナウイルスの感染拡大第6波が世界中に広まってきた現在の現状から、2～3か月後にはかなり深刻な状態になると懸念しており、消費も落ちるのではないかと。また飲食店の時短要請等、いろいろな規制が出されて、厳しい状態に戻っていると予測している。
		ゴルフ場（経営者）	・冬の営業を迎えるにあたり、営業車、コース管理車の燃料、また、ボイラー燃料等が増えるため、今回の燃料費高騰は非常に厳しい。
	×	スーパー（副店長）	・皆と同じ理由だと思うが、世の中は全て新型コロナウイルスの感染状況次第である。いくら我が国で新規感染者が減っても、世界的にみれば新変異株の発生により、これからもまだ不安と心配の日々が続く。景気がどうこうという話ではない。
	×	衣料品専門店（経営者）	・前年にも増して、新型コロナウイルスの影響を強く受けている。景気の回復はなかなか見込めない。
	×	都市型ホテル（従業員）	・冬期に入るため、悪くなる。
	×	ゴルフ場（経営者）	・デフレから脱却する決め手に欠けている。
企業 動向 関連  (甲信越)		金属製品製造業（総務担当）	・半導体不足のため、良くなる。
		その他製造業[宝石・貴金属]（経営者）	・人の動きや顧客の購入状況を見ると、新型コロナウイルスの感染拡大第6波が来ない限り、景気は確実に回復する。
		食料品製造業（営業統括）	・出荷状況は順調に回復しており、そのまま推移すれば増益が見込まれる。ただし、新たに南アフリカで発生した新型コロナウイルスの新変異株の拡大いかんによっては、景気が左右されると案じられる。
		一般機械器具製造業（経営者）	・受注予測が上向いてきている。ただし、直近では確定時に変動する傾向があるため、不透明な部分がある。
		金融業（経営企画担当）	・新型コロナウイルス新規感染者が大幅に減少してきており、徐々にではあるが、景気動向は良くなっていくと考えられる。しかし、完全に終息したわけではないので、これからも注視する必要があると感じている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		新聞販売店〔広告〕 (総務担当)	・国内でも新型コロナウイルスの第6波や欧州を中心にした変異株の感染拡大、ガソリン価格上昇による運送費等の経費増加情報等、不安要素はある。ただし、今までの経験則から政府も早めに手を打つと考えている。そうしたことから、緊急事態宣言等がたとえ発出されても、今までのような長期間にはならず、経済への影響も軽微に抑えられるのではないかとみている。
		窯業・土石製品製造業 (経営者)	・SNS等で連日PRしているが、サイトへのアクセスはあるものの、受注にはつながらない。製品受注も全く予想が立たない状態で、相変わらず先行きは不透明である。
		電気機械器具製造業 (経営者)	・受注量が増えたとしても電子部品の供給が追い付かないので、良くなるとも言い切れない。
		建設業(経営者)	・資材価格の高騰や納期の遅れが解消しなければ、景気の回復には時間が掛かると思われる。
		食料品製造業(製造担当)	・新変異株の影響で、外出に気を付けるようになり、また人の動きは悪くなる。
		電気機械器具製造業 (営業担当)	・部品や材料の不足が、受注、生産に大きく影響している。
		金融業(調査担当)	・製造業の半導体や部品不足の影響が懸念されるほか、新型コロナウイルスの新変異株の動きも、消費者マインドを悪化させる可能性がある。
	x	出版・印刷・同関連産業(経営者)	・毎月の資金繰りが大変である。
雇用 関連 (甲信越)		職業安定所(職員)	・希望的観測である。
		求人情報誌製作会社 (経営者)	・新型コロナウイルスの新規感染者が今後も現状のまま落ち着いているようなら、飲食、観光、サービス業等の求人が増加し、景気も多少は上向きになってくる。
		職業安定所(職員)	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少しているため、経済が動き出している。
		人材派遣会社(営業担当)	・正社員も含めて長期間の安定した収入の予想がつかないため、生活設計ができず消費に回らないので、変わらない。
		職業安定所(職員)	・新型コロナウイルスの影響が減少しても、原油価格高騰等が企業の利益を圧迫している状況は、すぐには改善されない。
		-	-
	x	-	-

## 6. 東海(地域別調査機関:三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社)

(-:回答が存在しない、\*:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (東海)		百貨店(経理担当)	・新型コロナウイルスの第6波の発生リスクの減退に伴って消費マインドが改善するほか、Go Toキャンペーンの再開に伴う飲食やレジャー関連消費の伸長によって、景気は大きく上向くと考える。
		百貨店(販売促進担当)	・第6波はもう少し先になる様子で推移していると感じられ、当面は景気が良くなると予測している。
		コンビニ(商品企画担当)	・新型コロナウイルスの新規感染者数は下げ止まりの傾向が続き、2月のGo To Travelキャンペーン事業再開などの効果が見込まれるため、景気が回復すると判断する。
		衣料品専門店(売場担当)	・寒くなってきたことや成人式や就職活動用でスーツやコートを購入する客が増えてくる。礼服をセットで購入する若い客も増えてきていることから、スーツの需要が更に高くなると見込む。
		乗用車販売店(経営者)	・12月以降は生産のめどが付いてくるようである。また新型車の発表会も続くので、今後には期待できる。
		商店街(代表者)	・新型コロナウイルスの感染が収束して、影響の大きさはインフルエンザ並みになっていくと思われる。
		一般小売店〔高級精肉〕 (常勤監査役)	・新型コロナウイルスの終息を願っている。
		一般小売店〔結納品〕 (経営者)	・年が明けて、新型コロナウイルスも収束すれば、少し良い方向にいくと見込む。
	一般小売店〔土産〕 (経営者)	・第6波が来ると脅されているうちは、急速な回復は夢のまた夢のような気がしてならない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔贈答品〕 (経営者)	・新型コロナウイルスの新規感染者数がゼロの地域が増え、当県もゼロが続いているため、イベント開催が増えて企業も活発化する。県からの助成金も出て、3か月後には段々と良くなっていくと感じられる。新型コロナウイルスの影響で自粛していた経済活動が感染対策をしながらできるようになり、3か月後は今よりもやや伸びていく方向にある。
		一般小売店〔生活用品〕 (販売担当)	・このまま新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いていけば、年末年始にかけて購買客も増えるように思われる。
		百貨店(企画担当)	・9~11月と新型コロナウイルス新規感染者数の減少に合わせて、消費者が食事や買物などの目的で外出する機会が増えてきていると実感している。それに合わせて店舗内への来客数及び売上額も増加傾向に転じている。ただし、前々年の実績は下回っており、衣料品関係が気温の影響もあって伸び悩むなど、完全に復調しているとは言い難い。
		百貨店(営業担当)	・市中の新型コロナウイルス新規感染者数は連日ゼロが続く、マインドが変わりつつある。新しい生活様式に対応しながら、徐々に回復していくことが予想される。
		百貨店(営業担当)	・目に見えて飲食店や旅行への動きがある。
		百貨店(業績管理担当)	・新型コロナウイルス新変異株の影響がなければ、行動制限などがより緩和されることで一層回復すると考えられる。
		百貨店(販売担当)	・このまま落ち着けば外出機会も増え、売上増加も見込める。しかし、まだどうなるか分からない状況なので大きくは好転しない。
		スーパー(販売担当)	・コロナ禍での外出制限が解除されて皆が外に出るので、買物回数が多くなり、今後は良くなる。
		コンビニ(エリア担当)	・観光地、繁華街での人流の戻りが顕著になってきており、今後、その波及が一部から全体に巡ってくる。
		コンビニ(店長)	・新型コロナウイルス新変異株が海外で確認されたとはいえ、国内においてはワクチン接種率、基本的な感染症対策の徹底継続から、この数か月に新規感染者数の急増は起こり得ないと思われる。観光業を除いて、通常の経済活動は季節的にも活発傾向となるのではないかと考える。
		衣料品専門店(売場担当)	・足元では新型コロナウイルスの新規感染者数が減少傾向にあり行動規制も緩和されている。引き続き油断できない状況下ではあるものの、この行動規制の緩和は、今後の景気回復につながると思われる。
		衣料品専門店(販売企画担当)	・一時的にしろ、少し動きが出てきているので期待したい。
		家電量販店(店員)	・大型テレビやドラム式洗濯機などを検討する客が増えてきた。
		家電量販店(営業担当)	・新型コロナウイルスの感染症対策における行動制限の緩和に伴い、経済活動が活発化する。また、コロナ禍において影響が大きかった業種の人々の収入も安定すると思われる。
		乗用車販売店(営業担当)	・コロナ禍で収入が減って苦しんでいる人も当然いるが、そうではない人たちがこれまでの自粛の反動で使えなかった金を使うことによって、消費が回復する。
		乗用車販売店(経営者)	・新車もそうだが、いろいろな物が不足気味で少しインフレ基調であり、景気には良い流れかと思われる。
		乗用車販売店(従業員)	・多少は良くなると思われる。今まで皆が我慢していた分が動いているが、新型コロナウイルス次第であり、新型コロナウイルスの感染がまた広がれば一気に冷え込む可能性がある。
		乗用車販売店(従業員)	・不透明ではあるが生産調整には解除のめどがある程度立ったようなので、少しホッとできる状況になると思われる。客の新型車への関心は変わらないので、生産さえ戻れば期待できる。
		乗用車販売店(営業担当)	・部品供給と生産が追い付かないところもあるが、少しずつ消費傾向がみられ、その流れのなかで年明けからは繁忙期に向かうので、期待している。
		住関連専門店(営業担当)	・新型コロナウイルスの感染状況が小康状態になり、契約、工事の打合せが少しずつ前向きに出始めている。新規物件についても商談が入り始めている。
		その他専門店〔貴金属〕 (経営者)	・緊急事態宣言の解除後、人流は旅行へと向いているようで、物販が向上してくるのは、第6波がなければ、年明けを過ぎてバーゲンセール時期くらいと見込まれる。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル（経営者）	・新型コロナウイルスの感染が収束しつつある。
		都市型ホテル（営業担当）	・期待含みとなるがGo To Travelキャンペーンが開始になれば、宿泊やレストランの需要が増えてくる。
		旅行代理店（経営者）	・Go To Travelキャンペーンやその他需要喚起事業が進む前提で、景気は良くなる。
		旅行代理店（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の終息、Go To Travelキャンペーンの再開と県の観光消費喚起策の活用で、景気も少し良くなる。
		旅行代理店（営業担当）	・Go Toキャンペーンの情報が1人歩きしないよう慎重に発表をしてほしい。発表を待っていた客が、結局は秋のシーズンの旅行を諦めた事例が数件ある。
		通信会社（営業担当）	・今後も機器更改による受注が続くと思われる。
		美容室（経営者）	・クリスマスや正月が近づいているため、施術をする客が少々増える。
		住宅販売会社（従業員）	・新型コロナウイルス新規感染者数の大幅な減少がみられ、これから受注量の増加が期待できる。
		その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕（営業）	・新型コロナウイルスの感染がこのまま落ち着けば、例年どおり繁忙期に入るので、かなり回復できる。
		商店街（代表者）	・コロナ禍から完全に回復しないと元の状態には戻らない。また、様々な物価の上昇で、客の購買力が相対的に下がると感じている。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少傾向が続けば若干は良くなると思うが、第6波の話も聞こえてくるので、新規感染者数の動きによって一喜一憂することになる。
		商店街（代表者）	・給付金がかかなり限定されてしまったため、地方の零細店にまでは消費活動の拡大が波及してこないと思われ、今までと状況は変わらないと考える。
		商店街（代表者）	・ここまで長期的に自粛に慣れてしまった状況では、新型コロナウイルス新変異株が現れたこともあり、良くなる材料はない。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・コロナ禍の2年で、客の飲食店利用の仕方が大きく変わろうとしている。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・消費の落ち込みはなかなか回復しない。給料も上がらないし、物価の上昇も止まるところを知らず、不安に思う消費者が多いのではないかと考える。
		一般小売店〔果物〕（店員）	・3か月ほどでは変わらない。
		一般小売店〔書店〕（営業担当）	・引き続き年度末への残予算消化需要がある。
		一般小売店〔和菓子〕（企画担当）	・新型コロナウイルス、円安や原油高の状況の先行きが分からないため、どちらともいえない。
		百貨店（売場主任）	・国内で新型コロナウイルスの感染が収まったとしても、東南アジアなど海外で生産している靴の工場が閉鎖していると商品が入ってこないため、客から問合せがあっても入荷しないという案内しかできず、売上も厳しくなる。メーカーも余り在庫を持たないようにしているため、サイズ切れが多く発生して売上がまた少し落ち込むと思う。
		百貨店（計画担当）	・客の来店意欲が増してきているが、コロナ禍の状況が見通せず、客も状況に敏感であるため、一進一退が続くと思われる。
		百貨店（販売担当）	・来客数が思ったほどは戻っていない。ショッピングモールは緊急事態宣言が解除されても真っ先に行くところではない様子である。
		スーパー（経営者）	・参拝客は増加しているが、どの店も席数を減らしておりすぐに満席状態となる。回転数には限りがあり、店舗での売上増加は難しい状況である。
		スーパー（店員）	・全ては新型コロナウイルス新変異株の広がり次第だと思う。数の子など年末商品が若干値上がりしているが、足元の来店客の購買状況をみていると、期待をして良いと思う。
		スーパー（総務）	・新型コロナウイルス新規感染者数の激減により客の購買意欲が高まっており、週末は家族連れの来客数が増えてきている。足元の新規感染者数で推移すれば期待できるが、2～3か月後ではまだ不安が残る。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（営業企画）	・足元の状況は今までの反動で一時的に外食にシフトしているところもあり、第6波が予測されるなかで新型コロナウイルスの完全な終息までは、小康状態が続くのではないかと考える。
		スーパー（販売担当）	・外食傾向になりつつあるので、売上前年比が悪い状態は続く。
		スーパー（商品開発担当）	・来客数は前年をやや上回る数値で推移しているが、売上は予算、前年同期に比して未達が続く、増加する見通しが立たないため、今後2～3か月後の景気もほぼ変わらないと考える。
		スーパー（支店長）	・今のところ新型コロナウイルスは落ち着いた様子であるが、まだまだ消費の回復には至っていないのが現場の実状である。客の動きも芳しくなく、様子見しているような気がする。年明けに新型コロナウイルスの感染が再拡大しそうなメディア報道をみても、まだまだ消費の回復は厳しそうである。
		コンビニ（エリア担当）	・新型コロナウイルスの感染再拡大やインフルエンザなどの流行による緊急事態宣言の再発出等の行動抑制がなければ、現状の来客数を維持できると考えている。
		コンビニ（店長）	・新型コロナウイルス新変異株の影響次第で、悪くなると思われる。
		コンビニ（店長）	・新型コロナウイルスの感染状況次第である。もし1～2月に第6波があれば、足元と状況は変わらず、やや下降気味になる可能性が十分にある。
		コンビニ（商品開発担当）	・当地域で影響度の高い自動車関連製造業での半導体不足によるライン停止や残業なしが緩和されれば来客数は回復するが、新型コロナウイルスの第6波が気掛かりであり、不透明である。
		コンビニ（本部管理担当）	・Go To Eatキャンペーンや、Go To Travelキャンペーンの積極的な再スタートを期待したい。一方、世界では新型コロナウイルス新変異株が出現し、まだまだ先行きに楽観的な感覚はない。
		衣料品専門店（経営者）	・今年初めに雑貨中心に商品を半額にしたら一見客も買ってくれたので、来年初めもそうするつもりである。
		衣料品専門店（店長）	・建築土木関連の人材不足は早急には解決しないため、問題を解決しつつ、ゆっくりとした景気回復になると思われる。
		家電量販店（フランチャイズ経営者）	・これ以上悪くはならないと思うが、新型コロナウイルス第6波が来たら予測が付かない。家電業界はコロナ禍でも巣籠り消費で比較的売上は良かったが、足元では需要が一巡し反動が出ているかもしれない。半導体不足で売れ筋商品の在庫がないのも痛い。
		乗用車販売店（経営者）	・新型コロナウイルスの感染が落ち着いた状況ではあるが、経済的な流れは急には戻らない。しばらくはこのような状況が続くと思われる。
		乗用車販売店（従業員）	・判断が難しく、特に悲観的な材料もなく明るい材料もない。順調にいけば横ばいという見込みである。
		乗用車販売店（従業員）	・通常ならばこれから新年、年度末と車を売らなければいけない時期を迎えるが、納期遅れの問題もあり、購入決定の決断を促す必要がある。余り強く推すと客に不信感を抱かれかねず、難しい面もある。客との会話でも、いろいろな物の価格が上がってきておりなかなか車までとは言われ、財布のひもはなかなか固い。
		その他専門店 [書籍] (店員)	・今は新型コロナウイルスの感染状況も落ち着いた状況ではあるが、第6波次第と思われる、様子を見ている。以前のような巣籠り需要は見込めないため、書店の売上は新型コロナウイルス発生前の水準に戻って変わらないと見込む。
		その他小売 [ショッピングセンター] (経理担当)	・売上高は前年比マイナス7.8%、前々年比プラス1.8%で、来客数は前年比マイナス10.5%、前々年比マイナス11.4%である。前々年は、9月に消費税増税前の駆け込み需要があったがその反動で10月は落ち込み、前年10月には市と電子マネー会社が連携したキャンペーンを行ったため売上が増加した点が、例年や他地域とは異なる。
		高級レストラン (経営企画)	・これまでの我慢から年末年始の来客数、単価アップが見込まれるが、第6波で大人数の制限・自粛があると一部の業種には厳しい。そのため、新たな集まりや機会の創出に取り組んでいく必要がある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルス感染症は終息しそうになく、宴会需要がない。
		一般レストラン（経営者）	・例年より少し落ち込むと考えている。現状維持に努めたい。
		一般レストラン（スタッフ）	・緊急事態宣言が明けてから客が戻りつつあるが、物価も上がってきているため、財布のひもが緩むかどうかは年末の動き次第である。
		一般レストラン（従業員）	・緊急事態宣言で営業を休んで協力したが、いまだに協力が出ない状況で本当に困っている。
		バー（経営者）	・変わらないという分からない。このまま年末を迎えれば、年明けからの状況は全く未知である。忘年会等の自粛ムードはあるものの、少人数や若者は出ていると感じる。新型コロナウイルス新変異株も出てきてしまい、韓国でも再び新規感染者数が増えてきている。第6波は必ず来るといわれているなかで、2～3か月先の予想が全く付かないのが正直な気持ちである。
		その他飲食〔仕出し〕（経営者）	・まだまだ様子見の状態が当分は続く。
		観光型ホテル（支配人）	・今後2～3か月はこのままの低迷が続くことは明らかである。政府が計画している2月からのGo To Travelキャンペーンに期待はするが、一般宴会利用の兆しがみえてこないうちは、身の回りの景気は良くならない。
		旅行代理店（経営者）	・Go To Travelキャンペーンの開始時期が不明確なことや、新型コロナウイルス感染の第6波が来るのか、このまま落ち着くのかなど見当も付かないので困る。緊急事態宣言が出れば、また休業状態に陥るので、何事もなくGo To Travelキャンペーンがスタートすることを期待している。事業者には早めに通達してほしい。また、ややこしいので地域共通クーポン券の率は、土日も平日も同じにしてほしい。
		旅行代理店（経営者）	・新型コロナウイルス新変異株の出現で入国規制の緩和が停止され、ビジネスマン、留学生や研修生などの入国が再度停止になった影響は、今後様々なところへ波及してくる。具体的には、海外団体旅行客の規制緩和のための実証実験も、1日の入国者数が5000人から3500人へと逆戻りし、ホテルや飲食業の回復が遅れる。さらに、ガソリンや食品関係の値上げが大きく響いてくる。
		旅行代理店（営業担当）	・Go To Travelキャンペーン、県や隣県の宿泊割が予定どおり実施されれば、観光業は必ず上向きになるが、新型コロナウイルス新変異株の感染拡大等で第6波が到来すれば、今ある予約が全て取消しになり、元のどん底状態となる。なかなか先が見えない状態である。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルス新変異株の問題が出てきている。水際対策を行うということであるが、国内に新型コロナウイルス新変異株が広がれば、また緊急事態宣言が発出される。このまま何もなければ少しずつ良くなるであろうが、2～3か月先のことは全く見当が付かない。
		通信会社（企画担当）	・県のキャンペーンにより旅行や飲食等の業界は良くなってくると思うが、半導体不足の影響やガソリン価格の値上がりにより自動車を中心とする地域産業の先行きは見通せず、全体でみれば横ばい程度ではないか。当社が扱う機器も半導体不足の影響を受け、必要台数の確保が難しくなっている。
		通信会社（営業担当）	・当地は、まずは様子見という土地柄であるため、3か月先では、足元のやや良い状況のまま変わらないと思われる。
		テーマパーク（職員）	・新型コロナウイルス新変異株が出現したことで、影響が出てくる可能性があり、不透明である。
		レジャーランド（職員）	・利用の多かった学校団体客は12月でおおむね終了する。今後の集客のピークはクリスマスから年末年始になるため、そのタイミングでの新型コロナウイルス感染拡大や寒波到来がないように願いたい。
		テーマパーク（職員）	・このまま新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いていけば大丈夫と思われるが、分からない。
		ゴルフ場（支配人）	・この先2か月後の入場者予約数は、前年同日と比べかなり増えている。雪などの天候にも左右されるが、今後2～3か月は現状の好調を維持すると思われる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他レジャー〔スポーツレジャー紙〕（広告担当）	・変わらないというより分からない。新型コロナウイルスの感染状況がこのままで推移すれば良くなっていくが、感染が再拡大すれば悪くなっている。先々の感染状況は現時点では全く分からないため、分からないとしかいえない。
		美容室（経営者）	・年配者などは第6波を心配して少し慎重になっている客もいるため、まだ当分はこの状態が続く。
		その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・年末は例年どおり売上増加が見込めるが、季節要因である。
		設計事務所（経営者）	・良くなる気配がない。以前は、来月には案件をお願いするなどと言われることがあったが、最近はそのような声掛けはない。
		設計事務所（職員）	・新型コロナウイルスの感染拡大が収束して景気回復に向かう状況であるが、計画的な回復に向けた政策や改革が全く見当たらない。
		その他住宅〔住宅管理〕（経営者）	・2年連続で縮小開催されていた寺の除夜の鐘が、今年は通常どおり開催されるようになり、照明設置や看板などの依頼がある。大勢の参拝客が期待されて、来年こそ景気の回復が進むと考えている。
		その他住宅〔室内装飾業〕（従業員）	・住宅の新築工事は相変わらず低調であるが、リフォーム工事及び工場の老朽化による建て替え工事などが、数件確定してきている。
		百貨店（総務担当）	・新型コロナウイルス新変異株の動向次第であるが、再度の感染拡大の懸念があり、少し良くなっていた消費者マインドも下降傾向となって、クリアランスセールやバレンタイン催事にも影響が出てくると想定される。売上が回復する要素が、なかなか見つからない。
		スーパー（店長）	・新型コロナウイルス新規感染者数が大幅に減少してきている。新型コロナウイルス新変異株が増えてこない限り、以前のように外出や外食をしていた通常の生活に戻っていくと思われ、内食需要は減っていく。
		スーパー（店長）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、少しずつつ外への意識の強まりを感じる。なかなか量販店には厳しい状況が続くと見込んでいる。
		スーパー（ブロック長）	・新型コロナウイルス新変異株の報道や情報で、年末年始の人の動きによる新型コロナウイルス第6波の懸念があり、不安を拭えない。
		スーパー（販売担当）	・原油価格の高騰、円安の悪影響、新型コロナウイルス新変異株等の懸念材料が、来月辺りから購買意欲に水を差しそうである。対面販売の化粧品等の長期的な不調はまだまだ続きそう、起爆剤に欠ける展開になりそうである。
		コンビニ（店長）	・新型コロナウイルス新変異株の流行が気になる。予想していたような景気回復感はない。
		コンビニ（企画担当）	・足元での国内の新型コロナウイルス感染状況は非常に落ち着いているが、今後、新型コロナウイルス新変異株拡大の影響を受けると急激に悪化する可能性もあり、楽観視できない。
		コンビニ（店長）	・新型コロナウイルス新変異株の出現で第6波を心配する人も多く、景気回復に水を差す。
		コンビニ（店員）	・年が明けると、1月前半は来客数が減るように思う。
		乗用車販売店（従業員）	・とにかく生産が遅すぎる。新車が発売されてもすぐ納期が半年近くなり、納期を聞いて買うのを諦める客もいる。
		一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルスの第6波が非常に心配される。夏場と同じように、また大変な状況になるかもしれないと考える。
		その他飲食〔ワイン輸入〕（経営企画担当）	・来春からの値上げが相次いでいる。自社で吸収できる余地は少なく販売価格に反映させる予定で、販売量の減少を予想している。
		観光型ホテル（経営者）	・Go To Travelキャンペーンが1月か2月に再開するであろうといわれている。施行時期によっても随分変わってくるが、このような具体策がなければやや悪くなる。イレギュラーな政策の発表によってかなり変わってくるが現段階では分からない要素が大きいため、景気はこのままの状態か、やや悪くなると判断した。
		都市型ホテル（従業員）	・予約数から景気はやや悪くなると判断する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル（総支配人）	・新型コロナウイルス感染症が落ち着いてきたため、年末年始の到来とGo Toキャンペーンの再開に期待していたが、新型コロナウイルス新変異株の出現により、先は見えない状態である。その一方で様々な仕入価格が10%程度上がっており、経営状態はより一層厳しくなっている。
		旅行代理店（経営者）	・県の観光振興策のお陰で足元の売上は好調であるが、12月31日の終了以降が全く見通せない。
		テーマパーク職員（総務担当）	・新型コロナウイルス新変異株が出てきて、また感染が拡大してしまう懸念が生じている。
		観光名所（案内係）	・次から次へと新型コロナウイルス新変異株が出てくるといいうニュースばかりで、良いことは余りない。先行きの見通しは暗い。
		パチンコ店（経営者）	・コロナ禍の影響は一巡したが、元の客がまだ帰っていない。
		美顔美容室（経営者）	・例年のことであるが、年末年始はこの家庭でも物入りになり、来店やケア商品購入が少なくなる。
		美容室（経営者）	・新型コロナウイルス新変異株の影響がある。
		住宅販売会社（従業員）	・資材等の高騰も低金利によってカバーしているところがあるが、それがいつまで続くのか。貸出金利が上昇したときに返済ができるのかを考えると、需要は一気に冷えてしまう。その時期が到来するのが不安である。
	×	乗用車販売店（販売担当）	・半導体不足の影響が今後ますます出てきて、年明けからはかなり厳しくなると思われる。
	×	一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルス新変異株や第6波に対しての恐怖心もあり、外出を控える人が多くなる。
	×	理美容室（経営者）	・物価や税金が上がるため、段々と景気は悪くなっていく。
	×	理容室（経営者）	・これからもまだ皆大変だと思う。
×	住宅販売会社（経営者）	・年末年始は不動産の活動は毎年少なく、業界全般が冷え込む。3月まではなかなか難しいと思われる。	
企業 動向 関連  (東海)		輸送用機械器具製造業（管理担当）	・外出規制が緩和され、足元より更に外出が増えると思う。
		電気機械器具製造業（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況次第であるが、本来なら年度末には設備投資があるので期待している。
		輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	・米国製の機種はまだだが、カナダ製の機種が動き出している。
		輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	・完成車メーカーから、今後部品の供給不足や半導体問題は多少改善に向かい、生産台数は増えると聞いている。
		輸送業（エリア担当）	・新型コロナウイルスの感染が収まっているが、通販は多いままで、企業の動きも活発になってきた。しかし、ガソリン価格が高いので利益は圧迫される。
		通信業（総務担当）	・とにかく人流が全国で戻ってくることで、移動・宿泊等の観光サービス業、外食などの飲食業、土産販売等の小売業が回復すれば、各地ににぎわいが戻る。
		不動産業（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少していく状況は継続すると思われ、外出や遠出する人が更に増加すると予想している。売上は徐々に回復していき、前年を上回る状況が当面は見込まれる。
		不動産業（経営者）	・大都市圏という地域限定だが、活発な問合せは継続している。
		広告代理店（制作担当）	・年明けに新型コロナウイルス新規感染者数が増えなければ、各企業の広告販促活動も活発に動き出すと思われる。
		行政書士	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減っている。
		化学工業（総務秘書）	・新型コロナウイルス新変異株の拡大、第6波のおそれはあるが、これまでに波が来ても乗り越える経験を積んだため、経済活動をしながら感染防止対策もできるという自信を得たのではないかと。首相も変わり、これまでの反省を踏まえた指示を出す期待がある。このような自信と期待を備えた心理状態が、景気には良いと考える。
		金属製品製造業（従業員）	・来春に例年どおりの仕事量が出てくるか懸念もあり、良くなる方向ではない。
		一般機械器具製造業（経営管理担当）	・受注、販売量の見込みが変わらない。
		一般機械器具製造業（営業担当）	・部材価格と物流コストの高騰が止まらないため、状況が好転するとは思えない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		電気機械器具製造業（営業担当）	・代替部品の対応も難しく、しばらくこの状況が続くそうである。
		電気機械器具製造業（経営者）	・新規引き合い等は全くなく、既存製品が横ばいで継続しているため、販売量も横ばいが続くと思込まれる。
		建設業（役員）	・年度末の繁忙期に期待したいが、12月に発表となる政府の来年度住宅施策予算が購入を促進するような特別な施策でない限り、好転は厳しいのではないかと考える。
		建設業（経営者）	・客も工事を発注するかどうかが迷っている様子である。政治や新型コロナウイルスの感染状況が安定しなければ、景気も安定しない。
		建設業（営業担当）	・衛生面からなくなることはない仕事ではあるが、行政では維持管理費等の予算が削られていくと思込まれるため、新型コロナウイルスの影響で減ったマイナス分がこれからの仕事で相殺を見込めればよしと考える。
		輸送業（経営者）	・海上及び航空利用の物流の混雑に収束の見通しが立たないことや海外のコロナ禍が収まらないことによる資材、部品不足から、物量の大幅な回復は望めないと思われる。
		輸送業（従業員）	・このまま新型コロナウイルスの感染が収束あるいは抑制されれば徐々に景気も上がるが、第6波への懸念で一進一退の状況であると思われる。
		輸送業（従業員）	・受注量は増えているが、運送業は走って何ぼである。そのためには燃料が必要となるが、燃料価格の高騰や尿素水の品薄などいろいろと問題が出てきている。運賃は上がりそうにないため、忙しいだけで苦しいのは変わらない。
		輸送業（エリア担当）	・第6波が懸念されているものの、新型コロナウイルスの感染状況は収まりつつあり、景気に上向きの兆しがみられる頃かと思うが、さほどそういう兆候はみられず、取扱荷物量も上向かない。年明けから急激に取扱荷物量が増えてくるとは考えられないため、現況の水準で推移する。
		輸送業（エリア担当）	・新型コロナウイルスの影響はしばらく継続すると予想する。
		通信業（法人営業担当）	・様々な政策による景気の底上げ対策等があるが、ガソリンの高騰等、消費者は非常に厳しい状況にある。緊急事態宣言が発出される前の状態にまで戻るには、まだまだ時間が掛かる。
		金融業（従業員）	・新型コロナウイルス新変異株の影響が考えられるため、現段階では良くなるとは言いがたい。しかし、我慢は3か月といわれているように、その後は景気が回復していくと思う。
		金融業（従業員）	・比較的上向きなムードが強いが、企業によって2極化しており生産でも大小の差が大きくなっているため、全体としては変わらない。
		金融業（企画担当）	・自身の動きも含めて、新型コロナウイルス発生前に戻るのもう少し足元の状況が続いてからという様子見の人が多し。皆、まだ手探り状態であり、緩やかに回復に向かっている途中である。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・折込チラシは、徐々に良くなっているぐらいなので、余り変わらないと思う。
		公認会計士	・中堅中小企業の生産性向上は短期では実現できない。中堅中小企業の後継者問題についても解決には時間を要する。これらに関する政府の最低限の施策はあるが、力強くスピード感のある施策がない。
		会計事務所（職員）	・インフルエンザの流行や新型コロナウイルス感染の再拡大を警戒して、従来の年末年始のような活動は少し自粛されると思われる。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（社員）	・まだまだ新型コロナウイルスへの警戒心が続いており、イベント開催者の不安が取れるまで引きずると思われる。
		その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	・回復するにはまだ1年は必要と考えている。この間はあらゆる知恵を絞って耐えなければならない。取引先の掘り起こしや新製品の展開など、大いに進めるべきと考えている。新製品は、新聞社主催の中小発明大賞に応募している。
		食料品製造業（営業担当）	・受注量、販売量が現時点で戻る見込みがない。
		食料品製造業（経営企画担当）	・原材料価格の高騰傾向は当面続くと予測される。新型コロナウイルス感染の再拡大についても依然として予断を許さず、消費マインドは低位で推移すると思われる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		パルプ・紙・紙加工品製造業（顧問）	・半導体不足、急激な円安や原材料の値上がり等があるが、当面は販売価格に転嫁できず収益面は非常に苦しい状況が続く、景気はやや悪くなる。
		化学工業（営業担当）	・中国が2月より春節に入り、また、北京オリンピック・パラリンピックの影響で工場が止まる。中国から原料が入らなくなるなど影響が出る見込みである。
		窯業・土石製品製造業（社員）	・原料の入手困難が現実となり、価格が5割アップし、かつ納期が3か月以上遅れる原料もあって製造できない製品が出てきている。注文があるのに売上が伸びない状況になりそうである。
		鉄鋼業（経営者）	・鋼材や木材の原材料高で、建築など着工予定の中小案件が止まっている。中小企業にとっては、良い材料がほぼない。
		金属製品製造業（経営者）	・販売単価の上昇が見込めず、景気は悪くなると考える。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・市場環境は悪くはないが、部品不足による生産への影響やコロナ禍がどこまで続くのかといった不安感がある。
		通信業（法人営業担当）	・新型コロナウイルス第6波の動向に尽きる。
		会計事務所（職員）	・原材料の不足や値上がりが続く、売上は増えず利益も確保しにくい状況となっている。新型コロナウイルスはほぼ終息しているが、しばらくこの状況は解消される見込みもないため、依然として厳しい状況が続くと思われる。
	x	*	*
雇用 関連 (東海)		人材派遣会社（営業担当）	・来年度に向けて人材確保の動きが活発化すると考える。それに伴い求職者も動き始め、中途採用及び派遣市場は足元よりも活性化すると考えている。
		人材派遣会社（社員）	・新型コロナウイルス感染症の第6波が懸念されるが、現状では少人数での宴会の予約も入ってきている。
		人材派遣会社（企画統括）	・新型コロナウイルス新規感染者数が低位に推移するなか、もろもろの規制緩和が経済活動を後押ししている。
		人材派遣会社（営業担当）	・新型コロナウイルス感染第6波がなければ、企業活動が活発になっていき求人数は増加していく。
		人材派遣会社（営業担当）	・主要客との取引量が大幅に増える可能性は低いが、他の客との取引が増えつつあり、所属拠点のエンジニア稼働率は2%ほど上昇が見込まれる。
		アウトソーシング企業（エリア担当）	・当地区の自動車製造において、11月は土曜日勤務を踏まえた増産体制であった。増産に対応するための労働力の確保と労働時間管理は大変になりそうである。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・今後の新型コロナウイルスの感染状況によるが、落ち着いていけば人も動くので上向きになるとと思われる。
		職業安定所（所長）	・ペースは緩やかではあるが、徐々に新規求職者数は減少し、新規求人数は持ち直しがはっきりしてきた。
		職業安定所（職員）	・前年同月比では新規求職者数が6か月連続して減少し、有効求職者についても3か月連続で減少している。ただし、パートタイム希望の有効求職者数は前年同月比で16か月連続増加しているため、家計は依然として厳しい状況がうかがえる。
		職業安定所（職員）	・新型コロナウイルス新規感染者数の減少により以前の生活に戻りつつあり、景気は少しずつではあるが回復していくように思われる。他方、半導体の不足、原材料高もあり、先行きに不安がある。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・主な就職先が医療機関である本学では、新型コロナウイルスによる影響は減少傾向にある。まだ内定時期の遅れはみられるものの、前々年並みの採用数に戻りつつある。
		人材派遣会社（経営企画）	・新型コロナウイルス新変異株の動向による。
		人材派遣業（営業担当）	・新型コロナウイルス新変異株の状況によって動向は大きく変化すると見込んでいる。このため、どの企業においても様子見の段階であり、大きな変化はないと想定する。
		人材派遣会社（営業担当）	・Go Toキャンペーンなどの経済対策への期待もあるが、第6波の懸念もある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		新聞社〔求人広告〕 (営業担当)	・新型コロナウイルスの感染状況が新型コロナウイルス新変異株の出現などでまだ落ち着かないので、当面は現状レベルと考える。年末年始に久しぶりの外出が増加しても結果として年明けの新規感染者数が落ち着いていけば、もう少し上向くのではないかとと思われる。
		職業安定所(職員)	・求人数の増加はあるものの、半導体不足、円安や新型コロナウイルス感染症の動向に注視する必要がある。
		職業安定所(職員)	・求人数が増加する一方で、求職者数も増加している。新型コロナウイルスが直接影響しているとはいえないが、地域の景況感としては、もう少し様子見が必要と考える。
		職業安定所(次長)	・産業別新規求人数を前年同月と比較すると、基幹産業である製造業を始めほとんどの産業で増加しており、景気回復への期待を感じるものの、海外での新型コロナウイルスの感染拡大、新型コロナウイルス新変異株の感染も広がっている。引き続き新型コロナウイルスの感染状況を注視していく必要がある。
		民間職業紹介機関(窓口担当)	・足元の新型コロナウイルス感染症が落ち着いた状況下では求人数も上向きであるが、年末年始での感染拡大の懸念があるため、まだ通常どおりのラインまでの回復は見込めない。
		民間職業紹介機関(営業担当)	・年末で転職希望者の動向は沈静化し、年明けから、4月以降の入社に向けて潜在層が動き始める見通しである。
		職業安定所(職員)	・新型コロナウイルス新変異株の流行が懸念される。
	x	-	-

#### 7. 北陸(地域別調査機関:一般財団法人北陸経済研究所)

(-:回答が存在しない、\*:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (北陸)		商店街(代表者)	・以前と違い、幅広い世代が観光で訪れており、平均単価も上がっていくとみている。その反面、冬の到来が少し早く、大雪など天候不順による人通りの減少を懸念している。ネット通販は好調だった前年並みで推移している。
		コンビニ(営業)	・新型コロナウイルスによる自粛の反動で消費動向が良くなると考える。
		観光型旅館(スタッフ)	・11月も宿泊は個人客が中心となっていて、日帰りの団体客も発生している。その結果、ほぼ前年実績に近い売上を確保できている。
		商店街(代表者)	・新型コロナウイルスの感染が収束方向となれば期待大である。インフルエンザが流行するともいわれているが、今の落ち着いた状況が続けば、年末年始における客足の増加が期待できる。
		一般小売店〔精肉〕 (店長)	・週末の来客数が見込める状態になってきており、その状態がずっと続いてくれれば、お歳暮や年末商戦で売上が上向きになると考えている。
		一般小売店〔事務用品〕 (店長)	・様々なイベントごとや年末年始で人の動きがあり、来客数が期待できるので今より良くなると考える。
		一般小売店〔鮮魚〕 (役員)	・新型コロナウイルスの感染がこのまま終息していけばかなり期待できる。
		一般小売店〔書籍〕 (従業員)	・来月以降も人出は期待できると考える。
		百貨店(販売促進担当)	・前年は大雪で道路が混乱し、客足に大きく影響したことに加えてコロナ禍のため非常に苦戦を強いられたが、本年は影響が少ないとみており、食品やリビング関連を中心に好調を予想している。アパレルは防寒を中心に動き、前年よりも回復するとみている。
		スーパー(総務担当)	・このまま新規感染者数が減少し続ければ、外出する人も増えると考えられる。
		コンビニ(経営者)	・新型コロナウイルスの感染状況からみて、やや良くなる。
		乗用車販売店(役員)	・12月以降、自動車生産は通常ペースに復帰するとみられ、3月決算に向けて売上増加、経常利益増加の状態で進むと見込んでいる。
		その他小売〔ショッピングセンター〕(統括)	・新規感染者数が抑えられている状況が続けば、催事が多い12~1月における販売量の伸びが期待できる。年明け以降に旅行などの経済対策による後押しが加速すれば、ある程度先までの消費回復が期待できる。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般レストラン（店長）	・県や市の補助事業がかなり効いている感じがする。これにGo Toキャンペーンが始まれば一層の効果を期待したい。
		一般レストラン（統括）	・11月の状況が12月も継続するとみている。会社での忘年会需要は少ないが、少人数で忘年会はする傾向であり、県民割引など自治体施策の利用者も多く、12月末まではホテル、飲食店共に一杯の状況である。11月の好調を維持しつつ、更に客の動きが増えると見込んでいる。
		観光型旅館（経営者）	・Go Toキャンペーンの話題が出てきており、このまま新規感染者数が落ち着いていけば宿泊者数も増加するとみているが、原材料を始め仕入価格の高騰を懸念している。
		都市型ホテル（役員）	・県民対象の宿泊割引がスタートし、今後は北陸3県へ対象が広がる予定もあり、観光客を中心に予約の増加を期待している。一方で生活用品や燃料費等の値上げによる消費意欲の抑制を懸念している。
		タクシー運転手	・新規感染者数が増加せずこのままの状態が続けば、年末年始には酒を飲む機会が増え、人出が見込める。さらに、足元が悪くなることからタクシー利用が増加し、景気が回復するとみている。
		住宅販売会社（従業員）	・木材の価格高騰が落ち着き、徐々に受注も増加すると見込んでいる。
		商店街（代表者）	・ここに来てメインストリートの店舗撤退が相次ぎ、商店街としての集客力が落ちてきている。コロナ禍が始まって2年余りで、もう限界の店が多いように見える。
		百貨店（売場主任）	・せっかく外出や消費行動が回復し活性化してきたところに、空港検疫で国内初感染者が確認された新型コロナウイルス新変異株が脅威である。2～3か月後のバレンタイン商戦が心配である。
		百貨店（販売担当）	・現在実施している県の消費喚起策が終了する来月以降は、消費マインドの低下と県外への旅行や買物などに消費者の行動が移行する可能性があるともみている。客の購買動向は、旅行やモチベーション需要での購入だけでなく、しばらく買ってないから久しぶりに購入するという声も聞いている。よって、現在の消費行動は一過性の可能性があり、現時点では本格的な改善傾向とは考えにくい。3月からの春の新生活需要の購買行動をみる必要がある。
		スーパー（店長）	・年末年始の新型コロナウイルスの感染状況次第である。
		スーパー（統括）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきているが、第6波への懸念もあり、内食需要がもう少し続くと考える。
		コンビニ（店長）	・事業の存続が極めて難しい状況が数年続いている。経営側としては、売上が減少傾向のなかでも、最低賃金の引上げによりアルバイトの給与は上げざるを得ず、正社員の給与を抑制しなければ事業の存続ができない状況である。正社員の基本給を減らすのではなく、ボーナスや出来高によるインセンティブが出せないため正社員の報酬が減少しており、正社員のやる気といった面で極めて深刻な状況となっている。
		衣料品専門店（経営者）	・また新型コロナウイルス新変異株が発生している。
		衣料品専門店（経営者）	・新型コロナウイルス新変異株の出現で消費の回復は不透明な状況になり、今後はその拡大が心配されることから安心できない。
		衣料品専門店（経営者）	・今までの自粛等の経験や学習したことにより、新たな状況に適應してきたように見えるが、まだまだ先行きに不透明感がある。
		家電量販店（本部）	・緊急事態宣言が解除されても、来客数が伸びてこない。
		乗用車販売店（経営者）	・自動車メーカーが減産を発表したので、3月までは商品不足の状況が続くとみており、変わらないと考える。
		乗用車販売店（従業員）	・タイヤ交換等のサービス部門の入庫はかなり多くなっているが、新車販売に関しては、依然として入荷状況が悪い。
		自動車備品販売店（役員）	・新車納車の遅れ、ガソリン単価の高騰による不安感から業界では明るい兆しがみえない。新規感染者数は激減しているが逆に反動が怖く、コロナ禍で外出や催事の集まりを自粛する傾向が続くとみている。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・12月はお歳暮の時期であるが、今のところは余り期待できないと考えている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		旅行代理店（従業員）	・乗年の4月以降にならないと、一般団体客の動きはでない とみている。Go To Travelキャンペーンが始 まったとしても個人旅行の動きのため、旅行代理店の売上へ の効果は限定的だと考える。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルスの第6波が来るまでは、このままの景 気が続くと考えている。
		通信会社（職員）	・当社が扱う販売商品で買換え需要が活発になるまでには 至っていない。また、半導体不足から商品の調達量も十分に ない。
		通信会社（営業担当）	・新機種に期待していたが大きな変化はなく、前年と比べて も変わらずに推移している。
		通信会社（営業担当）	・在庫納品のめどがある程度立たないと販売ができないた め、売上も伸び悩むとみている。
		通信会社（役員）	・3か月後は例年商戦期が徐々に始まる時期に当たるが、新 型コロナウイルスの影響で前年同様、契約者数においてはそ こまで伸びるとは考えていない。
		通信会社（役員）	・世の中は新型コロナウイルスの影響による制限の緩和が進 んでいくとみているが、通信事業関連の動向をみる限り、大 きな変動要素は見受けられない。
		テーマパーク（役員）	・新型コロナウイルスの第6波が発生するかどうかという点 や、Go To Travelキャンペーンの再開時期がま だ不透明であることなどから、全体としてはどちらともいえ ない。
		美容室（経営者）	・新型コロナウイルスの第6波のおそれはあるが、3回目の ワクチン接種も始まり、消費行動は活発になる。
		住宅販売会社（営業）	・住宅に関する景気刺激対策が具体的に示されない限り、客 の動機付けが進まない。
		スーパー（仕入担当）	・年明けから商品の値上げが控えている。今回はかなり大幅 な値上げとなるため、業績の悪化を懸念している。
		コンビニ（店舗管理）	・特需やリベンジ消費がやや落ち着き気味となる。現況がや や出来過ぎと考える。
		家電量販店（店長）	・今回の給付金には年齢制限があり、家電の購入などには回 らない。
		家電量販店（店長）	・コロナ禍は落ち着いてきている。来客数は前月と変わら ず、前年の巣籠り需要のときに比べると減少している。
		住関連専門店（役員）	・国内での新型コロナウイルスによる規制が緩和されたと安 心したが、新型コロナウイルス新変異株の拡大など新たな懸 念材料が出てきている。これに加えて当社の状況は、消費が 外に向き始めるとますます厳しくなる。
		高級レストラン（ス タッフ）	・現在は県民割引の利用が盛況だが、1月末で終了するので その反動があるとみている。
		スナック（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の状況次第であるが、新型コロ ナウイルス新変異株が出るなどマイナス要素もあり、なかな か期待できない状態である。
		都市型ホテル（スタッ フ）	・宴会場での忘年会や新年会がほとんどない。レストラン部 門で少人数の忘年会や新年会はあるが、売上は宴会場に比べ て少ない。宿泊部門はGo To Travelキャンペ ーンの開始が遅れたため、1月の宿泊はキャンセルや催行中止 がかなり出ている。2月は今のところキャンセルは出ていな いが、新型コロナウイルスの感染再拡大が心配である。
		パチンコ店（経理）	・景気回復策など適切な施策がない。ガソリンや物価上昇な どマイナス要因が増えている。
		その他レジャー施設 [スポーツクラブ] （総支配人）	・ここに来て、重油や軽油、ガソリンといった燃料価格の上 昇が水道光熱費に大きく響いてきている。冬場に利用客が 減ってくるとダブルパンチである。
	住宅販売会社（従業 員）	・今までの日常が大きく変わりそうなので、会社も大きく変 化する必要がある。リフォーム需要の勢いに陰りがみえてき ており、今後が心配である。	
	x	スーパー（店舗管理）	・新規競合店が出店する。
企業 動向 関連  (北陸)		-	-
		化学工業（総務担当）	・今後受注量が伸びてくる予定である。
		一般機械器具製造業 （総務担当）	・自動車、電子部品、半導体業界が依然として好調である。 そういった業界に向けた機械の受注量が現段階でも高水準で あり、今後の需要もまだ増える余地がありそうである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金融業（融資担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数も減少しており、旅客、宿泊、飲食業の売上が増加傾向にある。それに伴い関連業種の受注も増加している。一方、原油の価格高騰や円安進行といったコスト増加による収益への影響を注意深くみていく必要がある。
		司法書士	・事業承継関連やコロナ禍での売上減少対策の補助金事業そのもの、若しくは補助金や助成金の申請手続についての依頼が多い。
		繊維工業（総括）	・受注は全体としては回復基調にあるものの、原材料価格の高騰が収益を圧迫している。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	・世界各国の新型コロナウイルスの感染状況もなかなか収まらず、日本でも第6波への懸念があり、個人消費はなかなか本格的に回復しないとみている。
		金属製品製造業（経営者）	・2～3か月先の受注状況から変わらないと考える。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・企業の事業活動再開により、設備投資関連部品の需要増加、更に移手段としてのオートバイ需要の高まりから、関連部品の受注が大きく伸びている。一方で自動車関係は、半導体供給不足等の影響により、需要は高水準にあるもののメーカーの生産調整が入り、受注が低迷している。
		精密機械器具製造業（役員）	・回復基調にあったところだが、ここに来て新型コロナウイルス新変異株の話があり、なかなか先が読めない状況である。
		輸送業（役員）	・先行きを見通せる要素がない。
		輸送業（管理会計担当）	・回復傾向にあるが、新型コロナウイルス新変異株の動向次第という不確定要素があることから、変わらないと考える。
		通信業（営業）	・新型コロナウイルスの影響は落ち着きつつはあるものの、いまだ予断を許さない状況であり、大きな受注は望めない。ただし、飲食業については制限が解除されたため、通常の集客に戻れば企業収益も増加に転じ、投資等に期待したいところである。
		金融業（融資担当）	・本格的な経済活動が再開しており、年末年始に向けてより経済が活発化すると期待しているが、新型コロナウイルス新変異株が流行の兆しをみせており、引き続き予断を許さない状況となっている。
		不動産業（経営者）	・いろいろな情報があるなかで、不動産業界の半数はまずまずの状況だが、残りの半数は活発な話を聞かない。
		食料品製造業（経営企画）	・受注量や販売量に大きな心配はないが、原材料や燃料などのコストアップが経営を圧迫し始めており、対策を打たねばならない状況にある。
		建設業（経営者）	・原油の価格高騰により、年間利益の8割程度を失う予想である。
		建設業（役員）	・原材料価格上昇の影響が大きく、依然として不透明な状況である。
		税理士（所長）	・半導体不足に加えて円安の問題がある。円が非常に過小評価されているので輸入価格が高くなっている。他の国に比べて部材価格が高いことから材料費が値上がりしており、中小企業では人件費につながる付加価値を確保できないことが決算書からみて取れる。今後は非常に心配である。
	x	-	-
雇用 関連 (北陸)		-	-
		新聞社〔求人広告〕 （担当者）	・ある程度新型コロナウイルスの感染が抑えられている状況のため、年末年始の消費行動が活発化すると考える。
		職業安定所（職員）	・ワクチン接種の3回目が始まることから、やや良くなると考えている。
		人材派遣会社（社員）	・新型コロナウイルスの影響が落ち着き、求人、求職共に増加傾向ではあるが、北陸ではこの先降雪や積雪が予想されるため、ある程度条件が一致しないと求職者は就業しない傾向が強くなっている。自家用車による就業場所までの通勤距離は、冬場における北陸特有の希望条件である。
		求人情報誌製作会社 （編集者）	・大きな雇用の動きがない。
		新聞社〔求人広告〕 （営業）	・正直なところ分からない。新型コロナウイルス次第である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスの感染が収束しても、コロナ禍前の状態に回復している事業所はほとんどなく、求人数の増加には時間を要すると考える。
		職業安定所（職員）	・年末年始を過ぎて新型コロナウイルスの感染状況がどうなるか分からない。最近の燃料高、原材料高の影響もどこまで続くか懸念している。
		民間職業紹介機関（経営者）	・製品不足や部品不足が継続中で営業活動がやりにくく、すぐには改善が期待できないため、客を待たせる状態が続いていると聞いている。
		学校〔大学〕（就職担当）	・求人数について、状況の変わる要素や気配が見受けられない。
	x	-	-

## 8. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所株式会社）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (近畿)		百貨店（服飾品担当）	・クリスマス商戦が始まり、新型コロナウイルスの脅威が更に忘れ去られることで、年末商戦も活気付くと予想される。外食や宴会などの需要がまだ完全に復活しないなか、イエナ力での食品需要や、ギフトによって人とつながる動きは増えると考えられ、売上のアップにつながる可能性が高いと感じている。
		百貨店（外商担当）	・新型コロナウイルスの感染第6波が懸念されるが、感染の急拡大がなければ、年末年始商戦ではリベンジ消費の加速が期待される。
		百貨店（マネージャー）	・全体的に慎重な購買姿勢は続いているが、人流の増加などで、年末年始商戦は前年比で大きく改善すると予想される。今後は、新型コロナウイルス変異株や韓国などでのブレイクスルー感染の動向が、購買心理を左右するほか、原油相場の高騰による物価上昇なども新たな懸念材料となる。
		観光型ホテル（客室担当）	・新型コロナウイルスの感染がこのまま収束すれば、観光客が増える。
		観光型旅館（経営者）	・2月にGo To Travelキャンペーンの再開が予想されているが、新型コロナウイルスの感染状況に大きく左右されるため、判断が難しい。
		都市型ホテル（フロント）	・Go Toキャンペーンの再開を皮切りに、全国的に消費や旅行が増える。
		タクシー運転手	・修学旅行もあり、すごい入出となっているため、これから更に良くなる。
		商店街（代表者）	・買物のモチベーションが上がっていないと感じるため、一気に売上が増えるとは思えない。
		一般小売店〔珈琲〕（経営者）	・政府によるGo Toキャンペーンの効果を期待している。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	・これから気温が下がってくるため、衣料品の販売ではコートやダウンジャケットなどの重衣料が増える。新型コロナウイルスの新規感染者数も落ち着いてきたため、外出する機会が増えれば販売につながることを期待される。
		一般小売店〔呉服〕（店員）	・ワクチン接種が広がって安心感が出てきたのか、来客数が増加しているため、今後は良くなっていく。
		一般小売店〔菓子〕（営業担当）	・今年も残り1か月となって、ようやく受注も増えたため、慌ただしい年末商戦を迎えられると期待している。
		百貨店（売場主任）	・新型コロナウイルスの感染に注意しながら、日常を取り戻そうとする客の来店が増えている。物販の売上は前年を超える日が続き、2019年の水準に近づいてきている。
	百貨店（販促担当）	・コロナ禍次第である点に変わりはないが、3回目のワクチン接種などの対策も講じられているため、上向き傾向となる。また、冬場の気温低下に加え、前年の動きが悪かった反動から、防寒ファッションの販売に期待している。卒業、入学を始めとするモチベーション需要や、春を楽しむ動きのほか、2年続いた我慢の反動が今後も継続的に期待できそうである。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（サービス担当）	・このまま新型コロナウイルスの新規感染者数の減少傾向が維持できれば、お歳暮商戦や年末年始の売上確保が大いに期待される。これからも感染予防対策を続けて安全、安心な環境を維持し、客の来店を促すことで、売上の増加が期待できる。
		百貨店（宣伝担当）	・年末に近づくとつれて、レジャーやイベントに関連した買物が増えている。年明けも2年連続で需要が消えた、卒業や入学、新生活関連などのオケージョン、セレモニー消費が増えると予想しており、取引先も商材確保に動いている。
		百貨店（マネージャー）	・あくまでも新型コロナウイルスの感染状況の回復が続くことが前提であるが、9月よりも10月、10月よりも11月と、月を追うごとに回復傾向が進む。
		百貨店（店長）	・年末年始は、新型コロナウイルスの新規感染者数が多少増えると予想される。また、石油に関連した商品やサービスの価格が上昇する不安はあるが、感染による医療のひっ迫がなく、マスクが大きく報じることもなければ、Go Toキャンペーンなどの飲食店の支援により、経済回復の兆しが実感できると予想している。
		スーパー（店長）	・経済全体は回復傾向にあるが、飲食店の人手不足や、忘年会はまだまだ敬遠される傾向があるなど、一気に安定するとは考えにくい。
		スーパー（店長）	・コロナ禍が落ち着いていけば、外出の機会が更に増えると予想される。特に、里帰りはしばらく行われていないため、移動に伴う消費は大きく伸びる。直近では年末年始の消費に期待している。
		スーパー（経理担当）	・いわゆるリベンジ消費で年末商戦が盛り上がり、来春の行楽シーズンに向けて弾みがつき、全体的な景気は良くなる。当面は、新型コロナウイルスの感染拡大が懸念材料となる。
		コンビニ（経営者）	・Go Toキャンペーンが12月から始まる予定であり、売上の増加につながる。それに伴い、平均単価も15%ほど上昇する見込みである。
		コンビニ（経営者）	・今の状況が続いてほしい。
		コンビニ（経営者）	・出張や観光の増加で、近隣のホテル宿泊者が増えることで、来客数の増加が期待できる。
		コンビニ（店長）	・コロナ禍による影響が減少している。
		コンビニ（店員）	・少しずつ活気が戻りつつあるため、このままいけば、買物や旅行などで経済の復活も進むと感じる。ただし、よく来店していた客が来なくなるなど、やはりコロナ禍の影響が影を落としている状況も感じられる。一方、近隣の飲食店に聞くと、客が増えてきて忙しくなってきたという声が聞かれる。
		衣料品専門店（店長）	・新型コロナウイルスの影響として、感染第6波や新型コロナウイルス変異株の状況など、まだまだ注視が必要な部分はあるが、年末年始商戦の動きは良くなってきている。
		家電量販店（経営者）	・入荷待ち商品の解消により、通常の動きに戻り、売上や販売量の増加につながると予想している。
		家電量販店（店員）	・これからコロナ禍の収束のめどがついてくれば、購買意欲が高まり、外出する客が増える。足元の来客数の増加やボーナスの支給もあり、景気の改善につながると予想される。
		家電量販店（人事担当）	・今年が厳冬になれば、室内で快適に過ごすために、部屋を暖める器具の売行きが伸びると期待している。
		家電量販店（営業担当）	・緊急事態宣言も解除されたため、期待を込めて良くなってほしい。
		乗用車販売店（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少が、プラスに作用する。
		その他専門店 [ 医薬品 ]（管理担当）	・人の動きが大幅に増加し、来客数も増加傾向となっている。マスクなどの衛生用品の売上は減少しているが、健康食品やし好品の売上は増加しており、今後も同様の傾向が続くと考えられる。
		その他専門店 [ ガソリンスタンド ]（経理担当）	・今後の景気回復は、新型コロナウイルスの感染第6波の時期や規模により、大きくシナリオが変わる。また、原油価格の高騰の影響が長引けば、景気回復の足を引っ張りかねない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他小売〔インターネット通販〕（経営者）	・客の購買意欲は高まっており、何かを買おうとする動きを感じる。今まで自粛していたストレスを解消する動きもあり、消費意欲の上昇が進む。
		高級レストラン（スタッフ）	・このまま新型コロナウイルスの感染第6波が来なければ、来客数、売上共に継続して伸びることを期待している。
		高級レストラン（企画）	・単純に新型コロナウイルスの新規感染者数の増減により、業績が左右されるフェーズは脱したと感じる。今後の国や自治体の支援策に期待している。
		一般レストラン（経営者）	・Go To Travelキャンペーンも再開されることで、景気は回復に向かうと思いたい、原材料や燃料価格の値上がりで経営が圧迫されている。また、新型コロナウイルスの感染第6波の懸念があり、海外からの入国規制が解除されていないため、本格的な景気回復にはまだまだ時間が掛かりそうである。
		一般レストラン（店員）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少傾向にあり、このまま推移すれば、外食に行く人も増加する。
		一般レストラン（企画）	・コロナ禍に伴う規制がほぼ全て緩和され、8月以降は順調に回復している。経済対策が全国規模に拡大すれば、新型コロナウイルスの感染拡大への不安はあるものの、現状の感染状況をみると、改善が進むと予想している。
		その他飲食〔ファーストフード〕（店員）	・緊急事態宣言が解除され、新型コロナウイルスの新規感染者数が日々減少している。今まで自宅に籠もっていた人も、外に出る傾向が強くなっている。当店も一時的に来客数が増えているが、また感染者数が増えれば減少に転じるため、まだ油断はできない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宴会の問合せが増えているが、会食は4人までという府からの要請が浸透しておらず、成約に至らないことが多い。12月の忘年会シーズンは厳しいが、新年会や歓送迎会シーズンに規制が緩和されていけば、受注が増えると予想している。
		都市型ホテル（管理担当）	・府の観光振興策の開始に加え、Go To Travelキャンペーンの再開が見込まれるため、今後は客が増える予想される。
		都市型ホテル（総務担当）	・客の来店が増加傾向にある。府の観光振興策の予約状況も好調にスタートしており、販売単価も徐々に上昇している。
		都市型ホテル（販売促進担当）	・このまま新型コロナウイルスの影響がなくなれば、確実に良くなる。宿泊は12～1月の予約が多いほか、レストランでは、府の観光振興策以外の一般客も少しずつ増えている。ただし、宴会は1テーブル4人までという制約があるため、忘年会や同窓会の開催は避けられており、回復にはもう少し時間が掛かる。
		旅行代理店（店長）	・Go To Travelキャンペーンが再開となれば、一時的には今よりも良くなると期待される。
		旅行代理店（支店長）	・Go Toキャンペーンの内容が発表され、具体的に旅行を計画する客も増加している。新型コロナウイルス変異株や感染第6波の影響が懸念されるものの、感染防止も日常となり、徐々に人との交流を考え始める客も増えているため、やや良くなると予想している。
		旅行代理店（役員）	・Go To Travelキャンペーンの再開が想定され、県外への旅行客を取り込む動きが増える。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルスの新規感染者数も減っており、コロナ禍以前と同じようにはいかないが、飲酒の機会も少しずつ増えてくるため、少しは良くなると期待している。
		タクシー運転手	・年末の忘年会シーズンについては、法人の団体客の動きはないとしても、少人数の客や家族客の外食は増えると期待している。
		通信会社（経営者）	・各種規制の解除により、人出が増える。
		観光名所（経理担当）	・ニュースなどでは、2月頃に新型コロナウイルスの感染再拡大が起きるといわれている。緊急事態宣言が解除され、しばらくたつ現在でも再流行の兆しはないが、ワクチン接種による抗体の持続期間もあり、徐々にワクチンの有効性も薄れてくる。結果として、2月以降には感染が拡大し、経済よりも感染対策を優先し始めると予想される。
		観光名所（企画担当）	・今月に入り、土日は来場者が少し増えたが、平日は変化がない。新型コロナウイルスの感染第6波が来なければ、来場者数は徐々に増える予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他レジャー施設 [ 飲食・物販系滞在型 施設 ] (企画担当)	・このまま新型コロナウイルスの新規感染者数が少ない状況が続けば、外出意欲が引き続き高まると予想される。
		その他住宅投資の動向 を把握できる者 [ 不動産 仲介 ] (経営者)	・コロナ禍が落ち着いて、経済活動が上向きになる。
		その他住宅 [ 展示場 ] (従業員)	・住宅展示場の来場数はイベントの自粛で減少気味であるが、家を見学する目的での来場が増え、各社の契約数は増加している。この傾向は今後も続くと予想される。
		その他住宅 [ 住宅設 備 ] (営業担当)	・前年とは違い、例年どおりの繁忙期となりそうである。年内での施工完了の希望が増えることで、人手が足りないほど忙しくなりそうである。
		一般小売店 [ 時計 ] (経営者)	・新型コロナウイルスの新規感染者数が目に見えて減少し、このまま落ち着くと期待していたが、新型コロナウイルス新変異株のニュースが出てきた。年末年始で気持ちが華やく時期であるが、予定が何も無いという話も聞く。先行きに期待をしないのが通常感覚となっており、寂しい年末年始になると感じる。
		一般小売店 [ 鮮魚 ] (営業担当)	・緊急事態宣言の解除後、消費はある程度増えているが、それ以上伸びる要素は全く見当たらないため、現在と同じような推移となる。
		一般小売店 [ 野菜 ] (店長)	・新型コロナウイルス新変異株の感染が、日本で広がる気配が出てきている。世界的にもこの新変異株の影響がどう広がるかは分からないため、結果として悪くなる可能性もある。
		百貨店 (売場主任)	・コロナ禍が落ち着いても、売上の回復はすぐには難しい。百貨店も痛みを被ったが、取引先も大きな痛みを被っており、今後は事業の撤退や販売人員の削減、商品製造の削減、取引条件の見直しなどが、更に進むと予想される。それに伴い、景気は悪くなることはあっても、良くなることはない。
		百貨店 (売場主任)	・新型コロナウイルス新変異株の感染状況次第と考えられ、大きな変動要素となっている。
		百貨店 (企画担当)	・新型コロナウイルス新変異株による、感染状況次第となる。
		百貨店 (マネー ジャー)	・来客数は戻ってきたものの、買上数量や金額には堅実な推移がみられる。今後2～3か月においても、リベンジ消費によって飛躍的に売上が伸びるといっても、消費者の堅実な姿勢が続くと予想される。
		百貨店 (営業推進担 当)	・コロナ禍で商品の生産量が例年よりも少ないため、大きな伸びは期待できない。
		百貨店 (商品担当)	・新型コロナウイルスの感染状況は最悪の状態を脱したものの、次のリスクへの対策や、経済の活性化策が具体化しなければ、消費に関心が向かない。また、一方では経済活動の再開が燃料価格の高騰を招き、消費に逆効果をもたらす結果となっている。景気の上昇に重くのしかかっている状況で、なかなか回復が進まない。
		百貨店 (販売推進担 当)	・景気浮揚策が実施されれば急回復が期待されるが、新型コロナウイルス新変異株が出現するなど、まだまだ予断を許さない。
		百貨店 (外商担当)	・現状は新型コロナウイルスの新規感染者数が少ないが、欧州では感染の再拡大が始まっている。日本にもいつ感染第6波が来るか不透明なため、今後の消費動向は予測が付かない。
		百貨店 (売場マネー ジャー)	・現状は新型コロナウイルスの新規感染者数が落ち着いているものの、新型コロナウイルス新変異株が発生しており、予断は許されない。
		百貨店 (特選品担当)	・今までの傾向では、新型コロナウイルスの感染第6波が到来するとの懸念もあったが、ワクチン接種が進んだこともあり、現在は穏やかな回復を見せている。ただし、新型コロナウイルス新変異株の発生や、ガソリン価格の高騰など、通常の生活を送る上での懸念材料も多く、先行きが見通せない。
		百貨店 (売場マネー ジャー)	・現在、新型コロナウイルスの新規感染者数は減少傾向にあるが、今後は感染の拡大が懸念される。また、コロナ禍による営業時間の短縮や感染防止対応、働き方の変化などは続いており、先行きの予測がつかない状況である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（経営者）	・このままコロナ禍の収束状態が続き、Go Toキャンペーンなどが実施されれば、上向くことも考えられる。一方、新型コロナウイルス新変異株も発生するなど、先行き不透明な部分もある。
		スーパー（経営者）	・新型コロナウイルス新変異株の発生による影響が世界に波及すれば、更なる物流の停滞、輸送費の高騰などで、原価の上昇圧力が発生する。景気の悪化につながることを予想されるため、早めの3回目のワクチン接種や経口治療薬の認可などが求められる。安心感が広がらない限り、消費マインドは減退することが懸念される。
		スーパー（店長）	・コロナ禍の動向が最大の課題であり、現状の状況が続くようであれば、景気は良くなると感じている。
		スーパー（店長）	・本格的な冬を迎えるに当たり、再び新型コロナウイルスの感染拡大のおそれがある。
		スーパー（店長）	・ブラックフライデーのセールから、衣料や住居を中心に、前年よりも回復の兆しがみられる。
		スーパー（店員）	・近隣のスーパーもチラシに力を入れたり、特典のポイントを上げたりしているため、客もいろいろな店を回っている様子である。今後もそれほど大きな変化はない。
		スーパー（販売促進担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数は落ち着きつつあるが、新型コロナウイルス新変異株の感染拡大のおそれもあり、しばらくは現状維持を予想している。
		スーパー（開発担当）	・原油相場の高騰により、生活必需品の値上げが増えている。政府の景気対策にも即効性は薄く、景気が上向くことは考えられない。
		コンビニ（店長）	・新型コロナウイルス新変異株や感染第6波の影響が、どの程度広がるかは分からない。
		コンビニ（店長）	・コロナ禍以前の状況に戻るためには、新型コロナウイルスの世界規模での感染収束がなければ難しい。外国人客の入国が再開しなければ、景気回復は期待しにくいと感じている。
		コンビニ（店員）	・いろいろな物の値上げが進み、客の購買意欲が低下している様子がうかがえる。
		衣料品専門店（経営者）	・消費財の値上がりが続いている。アパレルは消費者がどこまで購入を我慢するか左右される。
		衣料品専門店（営業・販売担当）	・高額スーツは売れているが、サラリーマン向けの価格帯が動かない。
		乗用車販売店（販売担当）	・相変わらず、海外からの部品の供給不足で生産が追いついていない。一方、生産が再開した際の、納車ラッシュの発生も気掛かりである。
		乗用車販売店（販売担当）	・現状は車が入荷する見込みがなく、需要はあるものの、販売台数の増加は見込めない。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	・コロナ禍以前の状況に戻るには、もう少し時間が掛かる。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（店員）	・今まで外出できなかった分、年始年末は旅行に行く人が増えるため、ボーナス商戦にも期待できる材料はなかなか見当たらない。
		その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減ってきており、年末に向けて、外出による消費の動きが増える。また、旅行のほか在宅関連のグレードアップ消費が優先されるため、宝飾品には予算が向かわない。
		その他小売〔インターネット通販〕（企画担当）	・一層の回復を期待したいが、新型コロナウイルスの感染第6波への懸念もあり、一進一退の状況が続く。
		その他小売〔インターネット通販〕（オペレーター）	・受注の少ない日が続いている。新型コロナウイルスの感染第6波によって受注が増える可能性はあるが、先行きは不透明である。
		一般レストラン（経営者）	・企業は今年も忘年会を行わない方針らしく、新年会や歓送迎会の予約もない。個人的に2～3人で来店する客はいるが、元々あった座席を減らして営業しているため、売上が増える要素は見当たらない。
		観光型ホテル（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況は良くなりつつあるが、感染第6波の到来や、原油相場や諸物価の上昇などの不安から、将来の見通しは暗い。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		観光型ホテル（経営者）	・ 今後は旅行の県民割が、近隣府県にも適用されるといわれているが、12～1月で大きな割合を占める、団体客の動きにはまだまだ期待できない。
		観光型旅館（団体役員）	・ 当県での旅行の県民割が終了したため、当面は早期のG o T oキャンペーンの再開を期待するしかない。
		タクシー運転手	・ コロナ禍は収束傾向にあるが、一時的な現象との見方もあり、景気回復への期待が持てない。
		通信会社（社員）	・ 巣籠り需要から、飲食や旅行などの消費にシフトしそうであり、先行きは少し不透明である。
		通信会社（企画担当）	・ 新型コロナウイルス新変異株が出てきたり、北海道でのクラスター発生など、感染第6波への不安があるため、年内は一気に景気が回復するまでには至らない。
		テーマパーク（職員）	・ これから冬に向かって、新型コロナウイルスの新規感染者数の推移がどうなるのかにより、今後の動向がはっきりしてくる。これまでの緊急事態宣言による影響をみると、移動制限に大きな効果はみられない。何が理由で感染者数が減っているのか、しかるべき機関が検証し、世の中に公表してもらいたい。
		遊園地（経営者）	・ 緊急事態宣言の解除以降、前月よりも更に回復が進むなど、消費行動に回復の兆しを感じられる。ただし、過去の緊急事態宣言の解除後よりも回復が遅く、かなり緩やかであるため、平時の水準に戻る前に新型コロナウイルスの感染が再拡大する不安が強い。景気の見通しを楽観的に考えることはできない。
		ゴルフ場（支配人）	・ 来客数の動きや予約状況を考慮すると、今後も順調な動きが期待できるが、コストの上昇分がなかなか売値に転嫁できない。単価をアップしても来客数が維持できるようになれば、景気も良くなる。
		競輪場（職員）	・ 例年であれば良くなる傾向となるが、年始以降は物価の上昇が予想されているため、余り変わらない。新型コロナウイルス新変異株が出てきているため、仮に緊急事態宣言が発出された場合は厳しくなる。
		競艇場（職員）	・ 新型コロナウイルスの感染状況は落ち着いてきているが、その影響が売上には表れていない。ただし、依然としてインターネット投票は好調が続いている。今後しばらくは、今の状態が続くと予想される。
		その他レジャー施設 [ イベントホール ] (職員)	・ 新型コロナウイルスの感染状況が日本では落ち着きをみせているが、海外では新規感染者数の増加がみられるなど、感染再拡大への不安がある。新型コロナウイルス新変異株の感染状況によっては、景気の落ち込みにつながる。
		その他レジャー施設 [ 複合商業施設 ] (職員)	・ 活況なのは食料品や一部のファッション雑貨であり、飲食テナントや食品売場以外は不振なほか、滞留時間が減少しており、当面は本格的な回復が望みにくい。
		その他レジャー施設 [ 球場 ] (経理担当)	・ 新型コロナウイルスの新規感染者数は減少傾向となり、地元球団の優勝や日本シリーズの開催でにぎわいが戻ってきた。今後、プロ野球やコンサートなどでの入場制限の更なる緩和を期待しているが、3か月後の状況は総じて不透明である。
		美容室（店員）	・ 緊急事態宣言が発出されるかどうかで変わってくる。
		その他サービス [ 学習塾 ] (スタッフ)	・ ようやくコロナ禍が落ち着いてきたようであるが、今後は新型コロナウイルス新変異株の影響がどう出るかが分からない。
		その他サービス [ マッサージ ] (スタッフ)	・ アロママッサージでは裸になるため、夏場に比べて冬は来客数が減少する。
		一般小売店 [ 衣服 ] (経営者)	・ これから本格的な冬を迎えるに当たり、このまま新型コロナウイルスの新規感染者数が落ち着いた状態が続くとは思えない。感染第6波がどのような形で発生するのからは全く想像できないが、決して楽観はできず、消費者の外出の機会は減ると予想される。そうなれば、店舗のみの販売である当店の一般的な小売店は、またつらい状況となる。
		スーパー（企画担当）	・ コロナ禍による内食需要がなくなり、売上は前年割れ状態が続くと予想される。他社との競争もあり、今後は厳しくなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（社員）	・コロナ禍が収まりつつあるなか、これまでの外食需要からのシフト分が減少しつつある。さらに、客の節約意識が強まっていることで、当面の間、売上は減少が続くと予想している。
		コンビニ（経営者）	・コロナ禍の状況が、どのように変化するかが見通せない。
		コンビニ（店員）	・コロナ禍もようやく落ち着いてきたが、新型コロナウイルス新変異株がいつ入ってくるかも分からない状態であり、先行きへの危機感が強まる。
		コンビニ（店員）	・例年寒くなると、来客数が減る。
		コンビニ（店員）	・寒くなれば、客足の減少につながる事が心配される。
		衣料品専門店（販売担当）	・また新型コロナウイルス新変異株が発生し、海外からの流通への影響を考えると、非常に不安である。
		家電量販店（店員）	・今話題のリベンジ消費は、瞬発力はあるが、一部の余裕がある客に限定される。家電量販店では、ある程度の需要がみられるが、競合店舗では長期の未入荷を理由に不当な価格で契約を取っており、客の間で価格への不信感が生まれることを懸念している。
		乗用車販売店（経営者）	・半導体の不足による、新車の納期遅れがしばらく続くと予想される。年末に向けての購入を強くアピールできず、販売台数が読めない。
		その他専門店〔宝石〕（経営者）	・コロナ禍が今後どうなるか分からないが、今は原油相場の高騰による物価の上昇の方が心配である。
		その他飲食〔自動販売機（飲料）〕（管理担当）	・冬に入り、また新型コロナウイルスの感染拡大が懸念される。
		観光型旅館（経営者）	・カニの高騰やGo Toキャンペーンの行方次第では、人手不足などの様々な要因で、需要を取り込めなくなる。
		都市型ホテル（客室担当）	・11月の紅葉シーズンを過ぎると販売数、単価が伸び悩む。Go To Travelキャンペーンの再開を期待する一方、それまでの旅行控えが懸念される。
		都市型ホテル（管理担当）	・Go To Travelキャンペーンの実施で閑散期の宿泊客が確保できれば、現状維持が可能となるが、新型コロナウイルスとインフルエンザの感染状況次第では、厳しくなると予想される。
		通信会社（社員）	・新型コロナウイルス変異株の影響で、また緊急事態宣言が発出された場合を想定すると、今以上に客足が遠のき、販売も減少する。
		美容室（店長）	・10～11月と新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いており、来客の増加が期待できるものの、新型コロナウイルス新変異株の発生で、先行きの見通しはやや厳しい。
		住宅販売会社（経営者）	・原油高によって、製造コストや物流コストが上がっている。
		住宅販売会社（経営者）	・新型コロナウイルスの感染第6波は必ず来るため、その影響が出てくると予想される。
		住宅販売会社（従業員）	・これまで市場をけん引してきた都心のタワーマンションの販売が、株価の下落によってブレーキが掛かる恐れがある。また、ファミリータイプのマンションについても、価格の高騰で売行きが鈍化すると予想される。
		住宅販売会社（総務担当）	・政府の減税策が明確になるまでは、様子見という客が多い。今後は政府の対策次第で大きく変わる。
		その他住宅〔情報誌〕（編集者）	・新型コロナウイルス新変異株の感染状況次第で、景気は変化する可能性が高いものの、このまま新規感染者数の減少が続けば、年末年始に向けて旅行や飲食の動きが活発化し、住宅の購入検討者数は更に減少する可能性が高い。
	×	衣料品専門店（経営者）	・今後も悪くなる一方だと予想される。客が入らず、新作やヒット商品もないため、状況は悪くなっていく。
	×	家電量販店（企画担当）	・光熱費が値上がりし、家庭では固定費の割合が高くなっているため、財布のひもは固い。政府は更なる経済対策を講じる必要があると感じている。
	×	乗用車販売店（経営者）	・急激に悪化していると感じる。半導体が不足しているからではなく、プラスチックも手に入らないようだ。どこかで供給過多に逆転するとしても、需給の極端な変化は脅威であり、好材料は見当たらない。
	×	住関連専門店（店員）	・新型コロナウイルスの影響はまだまだ続いている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	その他飲食〔ジャズバー〕(店員)	・コロナ禍の影響で失業者が増え、消費が減っている。
企業 動向 関連  (近畿)		電気機械器具製造業(営業担当)	・取引先の動きが活発になっており、この流れは来年度も続く。
		通信業(管理担当)	・コロナ禍の影響が緩和され、ボーナスの支給や年末商戦での飲み会も解禁となることで、消費が活発となる。
		木材木製品製造業(経営者)	・コロナ禍による人手不足やコンテナ輸送代金の高騰で、輸入商品の価格が上昇している。採算が合わなくなり、この時期に値上げせざるを得ない状態となった。仕入れの資金繰りや値上げ交渉で、この先は不透明な状況が続くが、先行きの需要動向には期待している。
		窯業・土石製品製造業(管理担当)	・11月の売上が増加傾向にあるなか、新型コロナウイルスの新規感染者数の減少が続けば、更に年末年始の人流の増加が期待される。当社の売上也前年比で増加となるため、身の回りの景気はやや良くなると予想される。ただし12月に入って寒くなり、空気が乾燥してくると、感染が拡大する可能性は十分にあるため、予断を許さない状況である。また、円安や原油高の影響にも注視が必要と考えられる。
		一般機械器具製造業(経営者)	・今月も相変わらず、かなりの不況となっているが、小口の引き合いがみられる。まだ受注につながっていないが、僅かに市場が動いていると感じる。
		輸送用機械器具製造業(役員)	・引き合いの増加が、利益の増加につながっていない。価格の低下や競合の増加に加え、2024年度の納入が多いため、売上がなかなか入ってこない。
		金融業(営業担当)	・物価上昇による傾向はあるものの、景気は改善に向かう。
		金融業〔投資運用業〕(代表)	・新型コロナウイルスの感染収束と政府の経済施策の時期がうまく合えば、株価もバブル期に迫る最高値となることが期待される。ただし、中小零細企業は体力がないなか、コロナ禍のダメージで落ち込んだ業績をどの程度まで戻せるかは疑問である。政府の主導による、無利子融資などの積極的な支援を期待したい。
		広告代理店(営業担当)	・Web広告、紙広告共に、前年の売上を上回ってきている。
		広告代理店(営業担当)	・1月以降の引き合いは前年よりも増えている。
		その他非製造業〔衣服卸〕(経営者)	・チェーンストアの店頭は引き続き堅調な動きとなっている。一方、百貨店では2019年と比べて80%程度の売上が続いている。年末に向かって人出も増えるため、徐々に良くなってくるとは予想されるが、コロナ禍次第であり、先行きは見通せない。
		食料品製造業(従業員)	・来年は初詣の人出に期待したいが、屋台などが出るかが決まっていないケースもあり、現状維持が予想される。
		食料品製造業(営業担当)	・新型コロナウイルス新変異株の感染が拡大始めると、また以前の自粛生活に戻る可能性があるため、景気はそれほど変わらない。
		繊維工業(総務担当)	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加しなければ、良くなる状況も考えられるが、感染第6波が来れば悪化する。いずれにしても、新規感染者数の増減によって景気が左右される。
		パルプ・紙・紙加工品製造業(経営者)	・新型コロナウイルスの感染状況次第であり、先行きは見通せない。
		化学工業(管理担当)	・取引先の予想では、現在の好調が続く。
	プラスチック製品製造業(経営者)	・新型コロナウイルス新変異株の発生、半導体不足、石油価格の上昇とマイナス要素は多く、それに対応して部品の調達を海外から国内に移した取引先もある。状況は楽観視できないが、悲観することもなく、現状維持と予想される。	
	金属製品製造業(経営者)	・10~12月は調整局面のような感覚があり、電気自動車関連にも余り変化はない。	
	金属製品製造業(開発担当)	・受注が伸びるかどうかが、分からない。	
	一般機械器具製造業(設計担当)	・原油や鋼材などの価格高騰の影響を考えると、先行きには不安要素がある。	
	電気機械器具製造業(経営者)	・先行きは見通せないが、変わらないことを期待している。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		電気機械器具製造業（宣伝担当）	・緊急事態宣言の解除明けの11月も、需要は上向きになっていない。
		その他製造業〔履物〕（団体職員）	・緊急事態宣言が解除され、新型コロナウイルスの新規感染者数も少なくなり、経済活動は通常に戻りつつある。ただし、消費者はまだ様子見のところがあり、メーカーはまだ先の見通せない状態が続いている。
		建設業（経営者）	・新型コロナウイルスの影響で、今後の設備投資の延期や凍結の動きが心配である。さらに、建設資材の高騰や不安定な納期のなかで、価格競争の激化も予想される。
		建設業（経営者）	・これまでであれば、年末から年度末にかけて売上が増えていたが、今年は余り変わらない。
		輸送業（商品管理担当）	・例年11～1月は売上がそれほど良くない。今年は新型コロナウイルスの影響もあり、大きな変化はない。
		輸送業（営業担当）	・海外の新型コロナウイルスの感染状況をみていると、今後は日本でも感染の拡大が予想される。
		経営コンサルタント	・取引先は新型コロナウイルスの影響を大きく受けており、感染状況が改善されない限り、変わりようがない。
		その他サービス〔自動車修理〕（経営者）	・なかなか大きく変わる要素がない。
		その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	・国内では新型コロナウイルスの新規感染者数が減少傾向にあるが、韓国や欧米諸国では相変わらず増え続けている。さらに、ブレークスルー感染も報告されていることから、予断が許されない状況であり、自主的な行動制限が続くと予想される。
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	・2～3か月後に良くなるような状況ではない。
		その他非製造業〔商社〕（営業担当）	・製品の生産の遅れや、それに伴う納期遅れの影響が大きい。
		繊維工業（団体職員）	・原材料高が続いているほか、例年、年明けは閑散期となる。
		繊維工業（総務担当）	・呉服の割賦販売で悪いニュースが流れており、消費者の反応が心配である。
		出版・印刷・同関連産業（企画営業担当）	・新型コロナウイルス新変異株の影響で、これまで回復してきた受注量が、再び減少することを危惧している。
		化学工業（経営者）	・現在は、あらゆる原材料や製品の価格が高騰している。客には価格転嫁を依頼しているが、製品によっては顧客との交渉が決着する前に更なる値上げもあるなど、収益の悪化を招きかねない話が出てきた。客によってはカタログ価格が決まっており、簡単に価格転嫁ができないケースもあるため、先行きは非常に不透明である。
		化学工業（企画担当）	・食品原料の相場の高騰に加え、設備投資に必要な電子部品の不足や、ガソリン価格の高騰に伴う物流コストの上昇が続くと予想される。
		金属製品製造業（営業担当）	・自動車メーカーの部品不足が解消し始めたとは聞いているが、実際には不透明感が拭えない。また、鋼材価格や外注加工費の値上がりに対し、販売価格には転嫁できないため、今後は採算の悪化が予想される。
		建設業（経営者）	・個人向けの住宅については、住宅ローン減税や省エネ住宅向けの補助金などが決まるまでは、様子見が続くことになり、契約の延期が懸念される。
		不動産業（営業担当）	・新型コロナウイルス新変異株の発生で、株価が暴落している。今後は欧州や世界全体に感染が広がることも懸念され、将来の見通しは弱含みとなっている。
		経営コンサルタント	・国や自治体の支援がなくなるにつれて、閉店する店が増えると予想される。
		司法書士	・新型コロナウイルス新規感染者数の減少が続いており、この状態が継続すればよいと考えていた矢先に、新型コロナウイルス新変異株のニュースが出てきた。確かなことは分からないが、各国の動きを見ていると、厳しい状態になることが予想される。
	×	電気機械器具製造業（営業担当）	・材料が入ってこなければ、どうしようもない。
	×	輸送業（営業担当）	・生産を中断する工場が増えており、製造業関連の荷物が減っている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	その他非製造業〔電気業〕（営業担当）	・新型コロナウイルスの感染収束と、今後の経済の展望がみえない。
雇用 関連  (近畿)		人材派遣会社（支店長）	・年度末に向けて求人数は回復するが、その分だけ人材の確保に苦労すると予想される。
		人材派遣会社（役員）	・新型コロナウイルスの感染状況次第であるが、このところの落ち着きを踏まえると、景気の回復を大いに期待したい。
		人材派遣会社（管理担当）	・このまま新型コロナウイルスの感染が落ち着けば、求人数が増加してくる。ただし、新型コロナウイルス新変異株の感染状況が気になるところである。
		人材派遣会社（営業担当）	・国内では新型コロナウイルスの感染が抑えられていることもあり、この状態が続けば、観光業の復活や、年末に向けた個人消費の増加が期待できる。
		人材派遣会社（営業担当）	・求人数は、コロナ禍以前の水準に近づきつつある。
		新聞社〔求人広告〕（管理担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が急増している欧米や韓国に対し、日本では激減している。コロナ禍以前の状況に戻りつつあるため、景気は上向くと予想される。一方、感染第6波の到来による経済活動の制限や、原油価格の高騰、急激な円安の進行による商品価格の上昇で、景気の足が引っ張られる可能性もあり、本格的な景気上昇は見通しにくい。
		職業安定所（職員）	・周辺企業の声では、新型コロナウイルスの感染第6波への懸念もあるが、このまま大きな波が来なければ、少しずつ景気は回復する。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・今後2～3か月は、来年度の新卒採用に向けた広報が最も活発化する時期となる。新型コロナウイルスの新規感染者数が減っているうちに、採用企業が動き始めると予測される。学生への調査でも、年内には業界研究を終えて志望企業を絞りたいという声が多く、年内の採用広報活動は活発化する見込みである。
		学校〔大学〕（就職担当）	・医療機関の人手不足は続いており、採用意欲は前年よりも高そうである。実際に採用の内定数も約2割増えている。
		人材派遣会社（経営者）	・年末、年度末を迎えて景気はかなり強く、派遣業界は繁忙期に入ってきている。この景気の強さは年度末までは続くとは予想されるが、基本的には新型コロナウイルスの感染第6波次第である。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・良くも悪くも新型コロナウイルスの感染状況次第となる。海外ではブレイクスルー感染が広がっているなか、日本も例にもれず新規感染者が増えるようであれば、景気は悪くなる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・コロナ禍が収束しても、関西企業の業績が急速に改善するとは思えない。
		職業安定所（職員）	・10月の新規求人数は増えているが、新規求職登録数も増加傾向にあるため、景気が回復するまでには至っていない。
		職業安定所（職員）	・求人に関しては、卸売・小売、宿泊・飲食の持ち直しが進むかが注目される。一方、求職者に関しては、先行きが不透明で進路に悩む人が多く、求職期間が長期化する傾向がみられる。それに伴い、有効求人倍率の推移については、まだ見通せない状況である。
		職業安定所（職員）	・半導体や部品不足による製造業への影響が続いている。新型コロナウイルス新変異株も確認されたため、景気の停滞が懸念される。
		民間職業紹介機関（営業担当）	・求人数、求職者数の増減が余りみられないため、景気は変わらないと予想される。
	アウトソーシング企業（管理担当）	・通常の仕事が減少しており、今後も戻りそうにない。	
	職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスの感染第6波の懸念が、新型コロナウイルス新変異株の発生で顕在化してきた。これから寒くなるなか、人流が増える時期とも重なって感染の拡大が進めば、経済活動にも影響が出てくる。	
	学校〔大学〕（就職担当）	・コロナ禍は現在落ち着いているが、半導体の不足などで、経済はまだコロナ禍以前の状態に戻っていない。	
	×	アウトソーシング企業（社員）	・新たな人員が確保できないほか、現在の業務が委託に切り替わるため、雇止めが出る見込みである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	民間職業紹介機関(職員)	・新型コロナウイルス新変異株の感染が海外で急拡大しているため、日本にも影響が広がり、感染第6波につながる可能性がある。

9. 中国(地域別調査機関:公益財団法人中国地域創造研究センター)

(-:回答が存在しない、\*:主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連  (中国)		高級レストラン(事業戦略担当)	・地域の観光施策やGo Toキャンペーンの再開で、消費は更に拡大する。
		一般レストラン(経営者)	・このままの状態、新型コロナウイルス第6波が発生しなければ、景気はどんどん良くなる。
		観光型ホテル(営業担当)	・来年から再開されるGo To Travelキャンペーン事業の効果で、景気は良くなる。
		観光型ホテル(副支配人)	・年が明けると、国のGo To Travelキャンペーンが再開するため、宿泊の予約が更に増加する。
		タクシー運転手	・年末を控え、人の動きが良くなっており、稼働率も上昇しているため、今後、景気は良くなる。
		通信会社(工事担当)	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、客の動きが活発になるため、景気は良くなる。
		テーマパーク(営業担当)	・外国の状況が気になるが、国内では新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いており、経済活動も徐々に活発化していることから、景気は良くなる。
		テーマパーク(業務担当)	・積雪が多くなると、来客数の増加が見込めなくなるが、このまま新型コロナウイルスの感染状況が落ち着けば、景気は今以上に良くなる。
		住宅販売会社(営業担当)	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少傾向が続けば、景気の更なる回復が期待できる。
		商店街(理事)	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少していることから、景気もやや良くなる。
		商店街(代表者)	・緊急事態宣言解除以降、商店街に隣接する駅前の人流れが良くなり、商店街でのイベントも開催されるようになったため、今後、景気はやや良くなる。
		商店街(代表者)	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少し、商店街を通行する客が目に見えて増加しているため、今後、景気はやや良くなる。
		一般小売店[印章](経営者)	・Go To Travelキャンペーンも再開し、人の動きが活発になるため、景気はやや良くなる。
		一般小売店[眼鏡](経営者)	・地元への観光客が増加し、旅館は週末満室になっているため、今後、地元で金が回っていけば、景気も回復していく。
		百貨店(営業企画担当)	・近隣のイベント等も開催され、観光客の動きも良くなりつつあり、年末年始の帰省等も期待できるため、景気はやや良くなる。
		百貨店(外商担当)	・今まで控えてきた旅行や行事の再開で、客の購買意欲が高まり、景気はやや良くなる。
		スーパー(店長)	・前年と違い、年末年始の帰省が通常どおりとなり、前年より気温が低下することが予測されるため、冬物商材の需要の増加も見込まれる。また、前年の年末年始の落ち込みの反動で、来客数や売上が増加する。
		スーパー(販売担当)	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少に伴い、来客数が増加しており、消費も徐々に上向いている。また、これまで自粛していた広告や催事を再開するため、今後、更なる売上の増加が期待できる。
		コンビニ(支店長)	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少に伴い、日常に戻りつつあるため、今後、景気はやや良くなる。
		コンビニ(副地域ブロック長)	・旅行のキャンペーンが再開してくると景気が好転する。冬場の天候が大きな鍵となる。
	家電量販店(販売担当)	・年末商戦に期待できるため、景気はやや良くなる。	
	乗用車販売店(営業担当)	・2~3か月後は決算期となるため、景気は良くなるが、納期が長くなっているため、例年ほどは良くならない。	
	乗用車販売店(営業担当)	・この調子で販売台数が増加すれば、この先、景気はやや良くなる。	
	乗用車販売店(営業担当)	・年末年始に動きが良くなる可能性がある。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		自動車備品販売店（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いたままであれば、このまま景気はやや良くなる。
		その他専門店〔和菓子〕（経営者）	・このまま新型コロナウイルス感染症が終息に向かえば、景気はやや良くなる。
		その他専門店〔布地〕（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いたまま年末に向かうため、年末年始には景気はやや良くなる。
		その他専門店〔土産物〕（経営者）	・Go Toキャンペーンが始まれば、観光客が増加する。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（支配人）	・新型コロナウイルス第6波が発生せず、繁忙期となる12～1月の年末年始商戦を乗り切れれば、客の購買意欲が更に高まり、景気も回復基調に向かう。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（管理担当）	・このまま新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、終息に向かえば、景気は良くなっていく。年末年始に向けて、客の財布のひもが緩むことを期待し、引き続き感染対策を続けることが大事である。
		一般レストラン（経営者）	・年末年始に新型コロナウイルスの感染が拡大しない限り、景気は良い方向に向かい、久しぶりのにぎわいが期待できる。
		一般レストラン（店長）	・このまま新型コロナウイルスの新規感染者数の減少傾向が続けば、観光客は今より増加し、依然として自粛傾向にある企業の団体利用やインバウンドも次第に増えてくる。
		旅行代理店（支店長）	・Go To Travelキャンペーンなど各種経済対策が動き始め、本格的な需要回復が期待できるため、景気はやや良くなる。
		タクシー運転手	・海外で急激に新型コロナウイルスの新規感染者数が増えているのが気になるが、国内は今後、ワクチンの効果や治療薬の開発で、正常な状況に近づいていくため、景気はやや良くなる。
		タクシー運転手	・新型コロナウイルスが終息すれば、12～1月と人出が多くなり、夜の街も活気が出てくる。
		タクシー運転手	・今の状況が続けば、夜に飲食で出掛ける客も増加する。
		通信会社（企画担当）	・消費が元に戻りつつあるが、現時点では新型コロナウイルス流行前の水準に戻っていない。ただ、新型コロナウイルスの感染状況がこのまま落ち着けば、景気の回復傾向が持続し、新型コロナウイルス流行前の状況に近づいていく。
		通信会社（経理担当）	・光サービスのエリア拡大に伴い、客がサービスに関心を持ち、問合せも増加しているため、今後は少しずつ景気が良くなっていく。
		観光名所（館長）	・新型コロナウイルスの感染状況が今のままであれば、来客数も徐々に増加する。
		美容室（経営者）	・今後も人出が増加すれば、それに伴い、売上も少しずつ増加する。
		商店街（代表者）	・今後も新型コロナウイルスの新規感染者数が減少すればよいが、現時点でも売上が回復方向に向かっていないので、景気は変わらない。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	・先行きが不透明で、輸出が低迷したままで年を越すことが確実である。
		一般小売店〔洋裁附属品〕（経営者）	・人の流れは良くなっているが、今後もなかなか売上にはつながらない。
		百貨店（経理担当）	・景気は緩やかな回復傾向に向かうと思われるが、新型コロナウイルスの新変異株の世界的な拡大などがあり、予測ができない。
		百貨店（営業担当）	・長期間の自粛などにより、客の価値観やライフスタイルが大きく変化しており、景気は一時的に上向くものの、まだまだ厳しい状況が続く。
		百貨店（営業担当）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、来客数が前年並みまで回復してきているものの、売上は前年を下回っており、メーカーの在庫抑制による商品不足の解消や消費マインドの回復にはまだまだ時間を要する。
		百貨店（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響で、人々の生活が一変してしまい、客の婦人服の購買意欲が元に戻らないため、景気は変わらない。
		百貨店（売場担当）	・地域の購買動向は改善しつつあるが、新型コロナウイルスの新変異株の動向が不透明であるため、景気の先行きも不透明である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（店長）	・客の節約志向が続くため、現状維持で精一杯である。
		スーパー（店長）	・クリスマスや年末年始の状況は良くなるが、それ以外の通常時は客が購買を控えるため、景気は変わらない。
		スーパー（店長）	・今後も食品の値上げが増えることが予想され、客が無駄な買物をしない傾向が続く。
		スーパー（営業システム担当）	・新型コロナウイルスの影響が薄れつつあるが、巣籠り需要の減少もあり、売上が例年並みに戻りつつあるため、景気は変わらない。
		コンビニ（エリア担当）	・景気が良くなる要因が見当たらないため、景気は変わらない。
		衣料品専門店（経営者）	・景気の良くなる要素が余りないため、景気は変わらない。
		衣料品専門店（経営者）	・新型コロナウイルス感染症が終息するまで景気は変わらない。
		衣料品専門店（代表）	・外国人の入国制限が緩和され、新型コロナウイルスの感染が活発になる冬を迎えるため、まだまだ楽観視はできない。
		家電量販店（店長）	・商品の値上がり傾向や生産の遅れによる欠品などもあり、景気は変わらない。
		家電量販店（店長）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いているが、今後、冬になると、再び猛威を振るう可能性がある。その際、家電商品の需要が今より低迷することはないが、増加する見込みもない。
		家電量販店（企画担当）	・政府の特別な景気刺激策がない限り、景気は良くならない。
		乗用車販売店（業務担当）	・生産工場が平常稼働に近づきつつあるが、海外の新型コロナウイルスの感染拡大の報道もあり、今後も予断を許さない。
		乗用車販売店（統括）	・新車の供給台数が定まっておらず、今後も景気は変わらない。
		乗用車販売店（営業担当）	・新規の来客数が減少し、販売台数が前年を大幅に下回っている。納期が元に戻るのはまだまだ先であり、景気が上向きには時間が掛かる。
		その他専門店〔時計〕（経営者）	・新型コロナウイルス禍で経済が安定するにはまだまだ時間が掛かる。
		一般レストラン（経営者）	・今後も会社関係の宴会利用の増加は望めず、家族や仲間など少人数での利用が続くため、景気は変わらない。
		バー（経営者）	・新型コロナウイルスの新変異株の発生もあり、景気は変わらない。
		都市型ホテル（企画担当）	・客の外出や旅行に対する意欲が高まっているが、寒い冬を迎えるため、行楽シーズンのような人出は期待できない。今後、2～3か月は景気は現状どおりか若干上向き程度となる。
		都市型ホテル（企画担当）	・年末年始の集客時期に向け、レストランでの個人客の動きが活発になってきたが、新型コロナウイルス第6波に対する懸念は払拭できず、法人企業の宴会利用などが敬遠されているため、景気は良くならない。
		旅行代理店（経営者）	・このまま新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いたままであるかどうか不明なため、景気は変わらない。
		通信会社（営業担当）	・景気が悪化する要因もなければ、好転する要因もないため、景気は変わらない。ただ、燃料費の高騰や半導体不足の影響が続けば、景気は暗転する。
		通信会社（広報担当）	・もう少し新型コロナウイルスの感染が落ち着くまでは、客の買い控え傾向が続く、景気は良くならない。
		放送通信サービス（総務経理担当）	・新型コロナウイルスの新変異株の影響がどの程度か注視する必要があるが、現時点では景気は変わらない。
		テーマパーク（管理担当）	・新型コロナウイルスに対する政府の対応が悪いため、景気は良くならない。
		観光名所（管理担当）	・新型コロナウイルスの感染状況が今のままであれば、景気は余り変わらない。
		ゴルフ場（営業担当）	・予約状況が例年並みであるため、景気は変わらない。
		競艇場（企画営業担当）	・2～3か月後も売上はほぼ変わらない。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		美容室（経営者）	・新型コロナウイルスの影響で、外出やイベントの機会が減り、人の動きが鈍くなっている。新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いても、減少した売上を元に戻すにはまだまだ時間が掛かる。
		設計事務所（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況が今は落ち着いているが、今後、このまま終息するとは思えないので、景気が良くなるにはもう少し時間が掛かる。
		設計事務所（経営者）	・建築物価が上昇を続けているので、大きな景気対策がなければ、現状は変わらない。
		設計事務所（経営者）	・年末年始と休みが多くなり、接客機会が増加しないため、受注が改善しない。
		住宅販売会社（従業員）	・新型コロナウイルス感染症が終息しても、大型の経済対策が打ち出されるにはもう少し時間が掛かるため、景気は変わらない。
		住宅販売会社（営業所長）	・テレワークや移住等による動きは一巡した感がある。政府による新しい住宅取得支援策に期待したいが、現状では景気は変わらない。
		商店街（代表者）	・客が商品の購入に慎重な状況が続くため、景気はやや悪くなる。
		商店街（代表者）	・観光客等の動きから判断すると、景気は回復している。ただ、景気は新型コロナウイルスの動向次第であり、全体としては今後、景気は多少悪くなる。
		一般小売店〔食品〕（経営者）	・今後、ウィズコロナの新生活様式は定着するが、景気はやや悪くなる。
		百貨店（外商担当）	・ガソリン価格の高騰など各種商品の値上げの報道を受け、客が購買に慎重になっており、心理的な影響などから、景気はなかなか良くならない。
		百貨店（販売計画担当）	・個人所得が減少するため、景気はやや悪くなる。
		スーパー（店長）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少し、食品小売業の巣籠り需要も減少しているため、今後は厳しい状況になる。
		スーパー（店長）	・今後、来客数が減少するとともに、客の買い回りの増加で販売量も減少するため、売上が悪化する。
		スーパー（総務担当）	・寒さが本格的になり、生鮮品の値上がり予想されるが、その他の商品も含め、商品の値上がりが徐々に響いてくる。
		スーパー（業務開発担当）	・客の関心が外食や旅行などに移り、食における節約志向が定着していることから、クリスマス、年末商戦を控え、非常に不安である。
		スーパー（販売担当）	・年末のボーナスの支給が前年と比べ、厳しくなりそうなので、景気はやや悪くなる。
		スーパー（財務担当）	・ワクチンの3回目接種が進み、新型コロナウイルスの新規感染者数が激減し、客の外出機会が増え、家庭で食事を作る機会が減少するため、食料品を中心に売上が減少する。
		家電量販店（店長）	・来客数が回復しないため、景気はやや悪くなる。
		乗用車販売店（店長）	・半導体不足による納期の長期化が顕著になっている。現在の販売台数が数か月後の売上に直結するが、厳しい販売状況が続いているため、今後、景気はやや悪くなる。一方で、中古車や整備は前年並みの売上を維持できる。
		住関連専門店（営業担当）	・東南アジアや中国からの商品が入荷しない。原材料の値上げによる商品の値上げが増加しているため、今後、景気はやや悪くなる。
		都市型ホテル（総支配人）	・例年1～2月はオフ期となるが、景気は今後のGo To Travelキャンペーンの動向や新型コロナウイルスの感染状況に左右されるため、先行きが不透明な状況に変わりない。今冬は厳しい天候が予測されているため、予断を許さない状況である。
	×	コンビニ（エリア担当）	・下水道工事が来月末まで続き、先週からは歩道の工事も始まり、来年3月まで続くため、今後も車の通行量が減少し、売上が悪化する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	自動車備品販売店（経営者）	・新型コロナウイルスの新変異株の影響で、海外ではロックダウンを実施している国もある。国内でも年末年始に再び新型コロナウイルスの新規感染者が多数発生すると、緊急事態宣言が発出され、個人消費が激減する。新型コロナウイルス第6波が襲来すると、今までのワクチンが効かず、緊急事態宣言が長期化するため、景気は悪くなる。
	x	美容室（経営者）	・客が自粛に慣れているため、今後も客の来店頻度が増加しない。
企業 動向 関連  (中国)		輸送用機械器具製造業（経営者）	・今後も自動車メーカーからの受注が入り、フル稼働となるため、忙しくなる。
		通信業（営業企画担当）	・引き合いが増え、半導体不足による納期遅れの影響で、早くから取引先の購入に向けた動きが活発化しているため。景気は良くなる。
		化学工業（総務担当）	・ワクチン接種や投薬等の開発で、新型コロナウイルスが徐々に落ち着き、経済全体が活性化する。
		輸送用機械器具製造業（経営企画担当）	・半導体不足問題や東南アジアからの部品の調達問題が落ち着くことに加え、主要客の新製品の生産が開始することにより、受注が回復する。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	・取引先から少しずつ生産量が増加するとの情報を得ているため、今後、景気はやや良くなる。
		輸送業（総務・人事担当）	・年末にかけて受注が増加するため、景気はやや良くなる。
		広告代理店（営業担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少が続くため、受注が増加する。
		会計事務所（経営者）	・新型コロナウイルスや原油価格の高騰の影響が少なければ、新型コロナウイルス禍で促進したリスク分散やデジタルトランスフォーメーション化により、受注が増加する。
		農林水産業（従業員）	・冬場になり、新型コロナウイルスの新規感染者数が再び増加する可能性がある。また、もし増加しなくても余りにも自粛期間が長かったため、完全には新型コロナウイルス流行前の状態に戻らない。
		食料品製造業（経営者）	・物価の上昇を商品価格に転嫁しにくいと、会社経営の大きな負担となっている。経費の負担が大きく、厳しい状況が続くが、売上が徐々に回復しているため、例年並みに落ち着きそうである。
		食料品製造業（総務担当）	・販売量はそれなりであるが、原料価格の上昇や原油価格の高騰による物流費の増加の影響で、景気は良くならない。
		繊維工業（財務担当）	・販売商品の価格改正を進めているが、原材料や人件費の上昇で利益確保が難しいため、景気は良くならない。
		木材木製品製造業（経理担当）	・販売の状況は悪くはないが、今後、更に仕入れコストの増加が見込まれ、利益面では厳しい状況が続くため、景気は横ばい状況で推移する。ただ、原油価格が年末に向けて更に上昇すると、景気は悪くなる。
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・鉄鋼業向け需要が継続するため、当面は現在の生産水準を維持する。
		鉄鋼業（総務担当）	・今後の受注に大幅な増減がないため、現在の水準を維持する。
		鉄鋼業（総務担当）	・景気に大きな変化はなく、横ばいが続く。
		非鉄金属製造業（業務担当）	・金属価格は当面高値で推移するが、これ以上の上昇は想定できないため、景気は変わらない。
		一般機械器具製造業（管理担当）	・原材料の価格高騰や環境への対応について、先行きがみえにくい。
		輸送業（総務担当）	・緊急事態宣言が解除されたものの、半導体不足の影響が残っていることや、なかなか新型コロナウイルス流行前の環境に戻らない産業があることから、景気はすぐには回復しない。
		金融業（融資企画担当）	・半導体不足が一旦解消されたことから、地元完成車メーカーの国内工場は、当面、ピークに近い高操業を計画している。このため、系列の地元部品メーカーの受注も堅調に推移する。
	金融業（貸付担当）	・年末年始の特需を控えているが、原油価格高騰の影響によりコストが上昇し、企業の収益力が低下する。	
	不動産業（総務担当）	・来月はほぼ今月並み、年明けからは需要時期で、前年並みとなる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		化学工業（総務担当）	・原材料価格の高騰が景気回復を阻害するため、景気はやや悪くなる。
		金属製品製造業（総務担当）	・多少の上下があるものの、原材料価格が上昇傾向で推移するため、収益が悪化する。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・半導体等電子部品の供給不足、原油や天然ガスの価格高騰など先行きに関する下振れリスク要因があるため、景気はやや悪くなる。
		建設業（経営者）	・建築業界において、業者間の受注競争が激しくなっており、これまで競合しなかった上位業者との競争も出てきているため、今後、景気はやや悪くなる。
	×	一般機械器具製造業（総務担当）	・半導体関連品だけでなく、汎用部品等も入荷しにくくなっているため、今後、景気は悪くなる。
	×	建設業（総務担当）	・現状から判断すると、今後、景気は悪くなる。
	×	コピーサービス業（管理担当）	・企業内でデジタルトランスフォーメーション推進が浸透することに加え、電子帳簿保存法改定への対応でペーパーレス化が加速度的に進んでいくため、企業が専門業者に依頼するコピー出力は激減する。特殊な素材へのコピー出力や特殊加工ができなければ、今後、仕事はなくなる。
雇用 関連 (中国)		*	*
		人材派遣会社（支店長）	・新型コロナウイルス禍で転職を控えていた求職者が動き出せば、経済はより活性化する。今後、年末や年度末に向けて、来春を見越した求人や求職が増加する。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・新型コロナウイルスの感染リスクの低下に伴い、今後、景気は良くなり、新規求人数や新規求職者数も増加する。
		職業安定所（所長）	・宿泊業や飲食サービス業では、緊急事態宣言の解除を受け、年末年始の繁忙期に向けた求人が増加している。特に、観光温泉地では急募が多くなっている。
		学校〔短期大学〕（進路指導担当）	・周辺企業においても、アフターコロナを見据えて新卒採用を行う動きが出てきていることから、今後、景気はやや良くなる。
		学校〔大学〕（就職担当）	・2月上旬からGo To Travelキャンペーンが再開し、ヒト・モノ・カネの流れが活発になるため、景気はやや良くなる。
		その他雇用の動向を把握できる者	・新型コロナウイルスの終息に伴い、人の動きが活発化するため、景気はやや良くなる。
		人材派遣会社（社員）	・新型コロナウイルス第6波を警戒しての動きか、転職希望者を含め、求職者の動きが鈍くなっているため、今後も景気は変わらない。
		人材派遣会社（支社長）	・景気が回復する要因が見当たらないため、景気は変わらない。
		人材派遣会社（経営戦略担当）	・半導体不足の影響が一定期間継続し、新型コロナウイルス第6波という不確定要因も懸念されるため、景気は変わらない。
		求人情報誌製作会社（広告担当）	・このまま新型コロナウイルスが終息するとは思えないので、景気は変わらない。前年から新型コロナウイルス感染症の拡大とリモートワークの台頭で、中小企業を中心に、UターンやIターンの就活が活発化してきている。業種としては、金融や情報系が多くなっている。知名度がない、会社の情報が少ないといった欠点をホームページや就職サイトなどでうまく補うことができた中小企業が成功している。
		職業安定所（事業所担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少しているものの、飲食店等からは客足が戻っていないという声もあり、先行きが不透明な状況から、直ちに景気が回復するとは考えにくい。また、雇用調整助成金の申請件数も依然として高止まり傾向にあることから、景気は変わらない。
		職業安定所（雇用関連担当）	・製造業の求人は好調であるが、原材料の値上げ等の懸念もある。また、宿泊業や飲食業の求人も活発ではあったが、新型コロナウイルスの影響を受けやすい業界を避けたい求職者とのミスマッチが生じている。こうしたことから、景気は良くならない。
		民間職業紹介機関（職員）	・エネルギー価格の高騰による光熱費や最終消費財の価格の上昇など生活への不安から、人々の財布のひもが固くなっている。人々が、本格的な冬場に向けて、消費より貯蓄を優先していることから、景気は良くならない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	-	-

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (四国)		観光遊園地（職員）	・このまま新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いている状態が続けば、余暇に掛ける金額も確実に増加傾向になると考えている。
		商店街（代表者）	・大変厳しかった飲食業中心に、徐々に来客数は増加している。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・個人、企業共に予約が入り始めている。このまま新型コロナウイルスの新規感染者数が増えなければゆっくり回復していく兆しがある。
		百貨店（企画担当）	・新型コロナウイルス感染の状況次第だが、現状を当面維持できれば、数か月後には景気は更に良くなる。
		衣料品専門店（経営者）	・新型コロナウイルスの感染が落ち着いてきて、景気が良くなっていく。
		衣料品専門店（経営者）	・新型コロナウイルスの感染が落ち着いた。10月の後半からそこそこ良かったので、年末にかけて売上増加が期待できる。
		家電量販店（店員）	・冬のボーナス、新生活準備で販売数の増加が見込める。
		乗用車販売業（営業担当）	・年間で一番販売量が多い時期となり、今よりは良くなる。
		乗用車販売店（従業員）	・半導体不足もやや解消され、生産台数も少しではあるが戻りつつある。
		乗用車販売店（役員）	・メーカーの生産が回復すると見込まれることから、過去最大の受注残を年度末に向けて消化していくことになる。
		一般レストラン（経営者）	・このまま新型コロナウイルスの感染が落ち着いて、経済活動が活発になることを祈っている。
		観光型旅館（経営者）	・年明後に現在の感染状況が維持できればGo To Travelキャンペーンが再開され観光客の動きが戻る。
		旅行代理店（営業担当）	・まだまだ感染拡大が気になるが、Go To Travelキャンペーン再開の情報も出てきており、再開となれば旅行需要は拡大する。
		通信会社（営業担当）	・新型コロナウイルスの影響も収まりつつあるのか来客数も回復傾向。入学・卒業商戦に向けて期待したい。
		美容室（経営者）	・このままの新型コロナウイルスの感染状況であれば12月以降人が動くことを期待している。
		商店街（事務局長）	・海外で新型コロナウイルス新変異株が見つかり、動揺が世界に広がったことから、株価も下がった。この新型コロナウイルス新変異株が、どの程度の勢いで広がるか、重症化リスクがどの程度あるかで、今後数か月の世界経済と人流が左右されることになる。
		商店街（代表者）	・各地方都市の現況は大同小異であり、これからの街づくりがどうあるべきか、どのような方向性に進むべきか、見定めることは難しいが、それぞれが都市の個性の差別化を図ることが前提になる。当地でも旧来の市街地以外でいろいろな試みがなされネット社会の利便性を生かした組織や活動が活発化しつつある。大きな時代変革が起こりつつある。
		一般小売店〔文具店〕（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数は今のところ小康状態にあるが、これから年末にかけて寒くなってくるので不安である。年末商品のお陰で来客数が増えている分、若干売上が増加しているがこれは飽くまで一時的なもの。これからも感染状況次第で変化していく。
		一般小売店〔酒〕（販売担当）	・新型コロナウイルス感染の第6波が予想されているなか、先の見通しは不安である。
		百貨店（営業管理担当）	・全国でワクチン接種が進みつつあるが、過去の感染者の推移や、新型コロナウイルス新変異株の報道などの不安要素もあり、いまだ状況に明確な改善が見込めない。
	スーパー（企画担当）	・外出制限が緩和されても外食の頻度が急激に戻ることはないとは推定するが、年末の帰省など不安定な要素があり、前年と比較し大きな変動はないと推測している。	
	コンビニ（商品担当）	・第6波がどのタイミングか、3回目のワクチン接種が間に合うのか定かではないので、まだ不安が残る。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（総務）	・コロナ禍の状況にもよるが消費喚起につながる要因がないと変わらない。
		乗用車販売店（従業員）	・燃料の大幅な値上がり企業が収益等今後徐々に影響してくると予想され、景気回復への不透明感は今後も続く。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・新型コロナウイルスの感染が落ち着いても、12月の売上が上がらないので、今後、景気は変わらない。
		タクシー運転手	・2～3か月先は、毎年、繁忙期を過ぎて、人の動きは少なくなり、新型コロナウイルスの第6波の影響も少なく、外出する人は横ばい。
		通信会社（営業部長）	・新型コロナウイルスに関する不安がほぼ感じられなくなってきた。客も余り感染対策を気にしなくなっている。
		通信会社（支店長）	・半導体不足解消の見込みが見通せない。
		競輪競馬（マネージャー）	・新型コロナウイルス感染第6波も予想されており、コロナ禍以前のような人出の回復は早期には見込めず、現状からは余り変わらない。
		設計事務所（所長）	・建設業界は、業績は横ばいを予想している。
		スーパー（店長）	・新型コロナウイルスの一旦の収束で巣籠り消費が縮小するため及び、原油高や食料品価格の高騰などの影響を受けて消費マインドが低下する。
		スーパー（店長）	・内食消費が低迷し、客の来店頻度と買上点数が減少する。
		スーパー（財務担当）	・新型コロナウイルスの落ち着きで、大型商業施設や外食産業やスーパーマーケットにシフトしていた客が減少する。
		コンビニ（店長）	・通常活動が本格的に始まれば今以上に来客数の分散傾向が強くなると考えている。
		衣料品専門店（営業責任者）	・客との会話でも新型コロナウイルス新変異株の話が出てきており、ワクチンの効果が有効であるなどプラスのことが出なければ、不安感が出始めて景気が悪くなっていくと感じている。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（副支配人）	・新型コロナウイルス新変異株の影響がどのようになるか、現時点で判断しかねるが、欧州の状況から考えると、再び外出の自粛、消費の減退が生じると危惧している。
		タクシー運転手	・冬は寒く、お遍路の仕事が少なくなる。年末過ぎれば景気はぐっと悪くなる。
		美容室（経営者）	・新型コロナウイルス新変異株がどのように影響してくるのか分からないが現状も良くないので期待はできない。
	×	コンビニ（店長）	・この新型コロナウイルスの落ち着いている現状で、行楽シーズンのなか、来客数減少に転じていることをみると、新型コロナウイルス発生前の回復は望みが薄い。
	×	衣料品専門店（経営者）	・新型コロナウイルスの感染がやっと沈静化してきたが、原油価格の上昇でさまざまな物が値上がりし景気回復に水を差している。
	×	都市型ホテル（経営者）	・新型コロナウイルスの感染再拡大の心配がある。
企業 動向 関連  (四国)		税理士事務所	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減ったことで消費が新型コロナウイルス発生前に戻る。
		農林水産業（職員）	・長期予報では寒い冬が予報されている。一方、原油価格の高騰を受け、ハウス内の温度を適正温度より下げる動きも見られているのが実態。このことは、今後の生産出荷量に大きく影響することが想定される事態で、日配品の価格にも消費者が慣れる時期であることから、量販店も需給を無視できない環境になる。
		繊維工業（経営者）	・新型コロナウイルス新変異株の関係で海外観光客が観光地へ戻るのはまだまだ先であり、全国的な完全復活はみえない。現在は取引先小売店の倒産廃業はみられないが、助成金返済などの問題が発生する来春以降、資金余力が少ない小売店にとって厳しくなる。
		木材木製品製造業（営業部長）	・大手住宅メーカーの契約棟数が順調に推移している。今後の受注量には期待できるとみている。しかし資材価格の高騰がどこまで続くのか不安要素はある。
		輸送業（経営者）	・新型コロナウイルスの心配のみ。その対策をしっかりとお願いしたい。
		金融業（副支店長）	・新型コロナウイルスの感染状況の収束がうかがえる限り、消費者行動が活性化し、緩やかに景気は回復していく。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		広告代理店（経営者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数は非常に少ない状態で継続しており、今後も少ない状態が継続されれば客先の販売促進計画や若干イベント再開も見込まれているので、やや良くなる。
		食料品製造業（経営者）	・原材料費や資材や原油が高騰し、物流費などは増加する。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経理）	・新型コロナウイルスの影響で除菌や掃除用のウェットクリーナーの売上が良かったが、新規感染者数も減少傾向にあり、売上がここ数か月伸びていない。今後も下がる恐れはあるが、消費者の衛生意識が高まっているので激減することはない。
		化学工業（所長）	・新型コロナウイルスの新規感染者数は、日本では激減しているが、海外では増加している国もある。また、高騰した原油価格は高止まりが予想される。
		鉄鋼業（総務部長）	・受注価格の上昇もあるが資材価格も上昇しており余り変わらない。
		電気機械器具製造業（経理）	・新型コロナウイルスの国内感染者は落ち着いているものの、新型コロナウイルス新変異株の動向次第で企業活動に制限が掛かってくるおそれがある。
		建設業（経営者）	・公共事業への依存度が高い業界であり、年末から年度末にかけては、例年、売上増加の時期である。今後の景気は、新型コロナウイルス感染次第ではあるが、多少増加し、行動制限が掛かったとしても、これまでの経験や対応実績の蓄積があるので、業界全体の景気が大きく、悪くなることはない。
		建設業（経営者）	・年末までの公共工事の増加に期待している。
		輸送業（営業）	・長引く燃料油価格高騰の影響が物流事業者の経営を圧迫している状況であり、今後は運賃・料金値上げに動く事業者が増えたと推察される。海外から流入した新型コロナウイルス新変異株による感染再拡大の不安もあり、景気の先行きははまだ不透明である。
		通信業（総務担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数は減少傾向にあり、社外イベント等への参加を検討し始めているが、再度の感染拡大の懸念が拭えず、見通しが立てづらい。
		通信業（企画・売上管理）	・現段階では、変動するトピックスがない。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・市場マインドは上向きつつあるものの、新型コロナウイルス感染症の影響及び世界的な電子部品供給不足等による部品調達の遅滞や原材料価格の高騰等、不確定な要素が多く懸念される。
		輸送業（経理）	・出荷計画が増加の客は一部でみられるが、大半の客の出荷計画は現行どおりか出荷数量減少の予定となっている。
	x	-	-
雇用 関連 (四国)		人材派遣会社（営業）	・年末年始商戦が重なり、このまま新型コロナウイルス新規感染者数が沈静化すれば、徐々に年末年始は経済が動き出す。そうなれば繁忙期対応の求人ニーズも高まり、雇用の拡大の兆しがみえる。ただ来年度を見据えた正規雇用のニーズ確保まではまだ厳しい状況。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・落ち込みの大きい前年との比較では、やや良くなると思っている。しかし新型コロナウイルス発生前まで戻るにはまだ時間が掛かる。
		職業安定所（求人開発）	・これまで落ち込みが激しかった宿泊業や飲食サービス業、生活関連産業、娯楽業の求人数が、前月、前々月とも増加に転じており、新型コロナウイルスの感染が抑えられていけば、今後良くなる。
		学校〔大学〕（就職担当）	・新型コロナウイルス新規感染者数が大きく減少して落ち着き、今の状況が持続していく。
		求人情報誌（営業）	・求人数は増え景気は回復しつつあるが、どの業態でも人手不足となっており、不足状況はしばらく変わらない見込み。
		求人情報誌制作会社（従業員）	・現在新型コロナウイルスも落ち着き飲食店やホテルの求人数が増えているが、年明けには一旦求人数が落ち着く。
		民間職業紹介機関（所長）	・新型コロナウイルス感染症は落ち着いてきたが、まだ景気回復の兆しは感じられない。
		-	-

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	x	人材派遣会社（営業担当）	・製造業などの求人数が少なく、派遣業の依頼数も減少している。

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連  (九州)		家電量販店（店長）	・前回の特別定額給付金のおきほど特需にはならないが、今回も給付金効果が間違いなくある。ただ、飽くまで一時的なものであり、数か月すれば落ち着いていく。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・前年同時期は、人気アニメーション作品により、映画館を始め全館的に関連商材が高稼働しており、コロナ禍とは思えないほど売上もかなり上がっている。また、今年も明るい材料が多く、周辺施設でも集客イベントが開催され、当ショッピングセンターでも徐々に販売促進を解禁している。初売りにかけるテナントの意気込みも強く、新装開店した中核となるテナントへの期待値から、クリスマス商戦はこれまでの反動で盛り上がっていくと予想している。
		一般レストラン（経営者）	・今後、新型コロナウイルスの第6波が心配されるが、このまま落ち着いた状態が続けば景気が良くなる。さらに、国や地方自治体を実施するGo To Travelキャンペーン等の施策で景気回復を加速させていきたい。
		一般レストラン（スタッフ）	・政府が様々な政策を打ち出し、全体的な景気が上向きになる。
		競馬場（職員）	・経済活動が少しずつ再開している。
		商店街（代表者）	・年末に向けて繁忙期に入るが、新型コロナウイルスの落ち着きとともに景気も上向きになる。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの第6波がなければ、年末商戦に向けて、更に来街者数の増加が見込める。
		商店街（代表者）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が激減しており、第6波が拡大しない限りはこのまま状況は好転していく。
		商店街（代表者）	・購買意欲の減少は続いていく。しかし、インターネット販売をしている店や、これからインターネット販売をする余地がある店は、少し景気が良くなっていく。
		商店街（代表者）	・コロナ禍では、買い控えや外出自粛傾向があったが、新規感染者数が減少することで安心感が出ている。外出する機会が増加すれば、それに伴って購買意欲も上がってくる。
		一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・正月商戦が始まり、養殖物の価格が上昇し懸念している。しかし、今年は前年と異なり、里帰りをする人が多いため、若干期待できる。年末で売上が伸びなければ、廃業する店も出てくると予想されるため、状況は厳しい。
		百貨店（企画担当）	・年末年始は例年どおりに戻ることが期待される。前年は自粛傾向にあった福袋やセールを、従来のような状況に近づけ、また、例年よりも寒いという予測もあり、冬物商材が確保できればよい要素となる。給付金もある程度の効果が出るので、今後の景気は徐々に回復していく。
		百貨店（経理担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者が出なくなったことにより、来客数が伸びており、婦人衣料を中心に客の購買意欲が高まっている。
		百貨店（販売促進担当）	・新型コロナウイルスも終息しつつあり、来客数の増加に比例して景気が良くなっていく。
		スーパー（店長）	・経済対策としての政府の施策による効果が徐々に現れる。しかし、年末年始後の新型コロナウイルス新規感染者数の状況によっては、景気動向の変動が懸念される。
		スーパー（企画担当）	・年末の予約状況が好調であり、この冬が低気温予想であることが追い風となり、食品や衣料品共に売上が伸長する。
		コンビニ（経営者）	・このまま緊急事態宣言が発出されなければ、少しずつ以前の状況に戻るが、確かな手応えは感じておらず、希望的観測である。
	コンビニ（経営者）	・通常の冬のコンビニエンスストア利用状況に加え、購買品目や客層も少しずつ変化していくと考えている。	
	コンビニ（経営者）	・催事やイベントの増加と企業の在宅勤務から入社へ一定数戻ってくることで、コンビニエンスストアの利用客の増加が見込める。	
	コンビニ（店長）	・新型コロナウイルスの各種規制の柔軟化とともに、購買意欲が戻ることを期待している。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（店長）	・やや良くなると期待しているが、インフルエンザと新型コロナウイルスの脅威は、まだまだ油断ができない状況である。
		衣料品専門店（店長）	・時期的な要素もあるが、客が少し動き始めている。近くの観光地でも人の動きが多くなっており、この状況が継続することを期待している。
		衣料品専門店（総務担当）	・新型コロナウイルスの感染状況次第であるが、このまま終息に向かえば、景気も良くなる。
		家電量販店（従業員）	・平均購入点数が前年は1.96点、今年は2.01点と前年よりも増加しており、この状況が今後も続くことが見込まれる。
		家電量販店（従業員）	・寒い季節となり、暖房器具の需要が増える。
		乗用車販売店（従業員）	・初売り商戦に期待ができる。
		乗用車販売店（総務担当）	・これから徐々にメーカーの生産が回復してくる。年明けから年間最大の需要期を迎え、新車の配給さえあれば経営状況は改善する。
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・12月はお歳暮シーズンであり、業界の売上全体の底が上がる。当店も12月が繁忙期となるため、売上は増加する。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	・新型コロナウイルスの感染者数次第ではあるが、現状をどれだけ維持できるかによる。
		その他飲食の動向を把握できる者〔酒卸売〕（経理）	・新規感染者数の抑制が継続される前提ではあるが、年末年始で需要量が増えるとともに販売量が増え、飲食業界にも活気が戻ってくる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・新型コロナウイルスの新規感染者数次第であるが、先行きは明るい。
		旅行代理店（職員）	・1月下旬にGo To Travelキャンペーンの再開が予定されているため、景気がやや回復してくる。
		タクシー運転手	・現状が続くのであれば、観光客も増加しており、より一層の景気回復が見込める。
		タクシー運転手	・現状が続けば、年末に向けて人の動きが活発になっていく。しかし、第6波の時期が不透明であるため、懸念材料になっている。
		通信会社（営業担当）	・新型コロナウイルスによる行動制限が緩和され、人の動きも活発化していく。
		通信会社（企画担当）	・官公庁では新型コロナウイルスの感染が落ち着く前提での予算の動きが活発化し、関係事業の引き合いが多くなっている。
		ゴルフ場（従業員）	・3か月先はGo To Travelキャンペーンが始まっており、県外客の増加が見込まれる。
		美容室（経営者）	・年末年始が控えており、景気は上がってくる。美容業界も年末年始は少しずつ景気が回復する。新商品も出てくるため、売上に期待している。
		美容室（店長）	・新型コロナウイルス第6波の不安はあるものの、少しずつ来客数が増え、売上もやや良くなっていく。
		その他サービスの動向を把握できる者（所長）	・客先が輸出が多い企業のため、円安傾向は好ましい。また、翌年度の受注状況は好調であることから、この先好転することを期待している。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・3回目のワクチン接種が年明けから開始される可能性があり、安心感の向上と利用につながることに期待している。
		住宅販売会社（従業員）	・今回、閣議決定した令和3年度の補正予算案に、住宅関連の支援も盛り込まれており、今後は子育て世帯や若年夫婦世帯の住宅取得も増えてくる。
		住宅販売会社（従業員）	・新型コロナウイルスの対策により、今まで外出を控えていた人が、観光や飲食、買物等に出掛けており景気は良くなる。一方、懸念材料は原油価格の高騰、半導体の不足等の原材料関連であるが、消費にそこまで影響はなく、街の景気は良くなっていく。
		商店街（代表者）	・最近テレビでは、様々な商品の値上げが報道されており、客の財布のひもは固くなり、買い控えが発生することを懸念している。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		商店街（代表者）	・現状より売上が悪くなりようがないほど、非常に厳しい状況が続いている。
		商店街（代表者）	・この時期は年賀状印刷が増える程度で、その他は売上が上昇する要因はない。
		商店街（代表者）	・食品以外の物販は消費の回復が見込めず、変わらず低迷が続く。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・正月が終わると大きいイベントはないため、次は春先の動きで変化があると考えている。
		一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・この先、通常であれば1年を通して一番売上が伸びる時期である。新型コロナウイルス新変異株が日本に入らないことを願いたい。
		百貨店（企画担当）	・新型コロナウイルスの感染状況に大きく左右されるが、買物よりも、旅行や食事などに対する支出の方が増えていく。
		百貨店（企画担当）	・新型コロナウイルス第6波への懸念や治療薬の進捗等、先行きの不透明さが依然大きい。
		百貨店（営業担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少やお歳暮ギフトセンター開設により、年末商戦で来客数の回復が見込める。県内のサテライトショップやギフトショップ、通信販売、インターネット受注は依然好調である。また、ギフト、自家需要やし好性の高い舶来雑貨、時計、リビング用品、県内旅行も堅調で、自家需要中心の購買は継続している。しかし、月末の新型コロナウイルス新変異株報道により、県内外の旅行や帰省、来店抑制が懸念される。
		百貨店（経営企画担当）	・新型コロナウイルス発生前の7割前後の水準であった来客数も、緊急事態宣言が解除された後は8割強の水準まで回復しており、売上も上昇基調となっている。しかし、新型コロナウイルス新変異株の発生による商環境悪化の危惧があり、現状以上に回復はしない。
		百貨店（業務担当）	・コロナ禍の生活も2年目を迎え、この状況下での客の生活リズムができていく。新規感染者数の増減や、緊急事態宣言発出に関係なく、自粛リズムはしばらく大きく変化することはない。
		スーパー（総務担当）	・このまま新型コロナウイルスの新規感染者数が落ち着いていけば、外食やデリバリー、大型商業施設へと消費行動が移行する。また、ディスカウント店等の業態間の価格競争が一段と激しくなると予想される。
		スーパー（経理担当）	・都市部と郊外でのバランスにより、大きな変化はない。
		コンビニ（経営者）	・今の状況からは、今後良くなる材料はない。
		コンビニ（エリア担当）	・政府主導の経済対策も大きな影響が見込めない。
		衣料品専門店（取締役）	・新型コロナウイルス新変異株が出ており、気温が下がるとまん延しやすい。また、客は買い控えをしており、景気が良くなる材料はない。外出できるようになれば少し景気も良くなる。
		家電量販店（店員）	・社会的な半導体不足や海外から製品を運ぶためのコンテナ不足により、プリンタや電話機、Faxが全くない状態である。売りたいものが売れず非常に困っている。また、パソコンは多くの在庫があり、前年のリモートの普及によって、既に購入されているため売れていないのが現状である。
		乗用車販売店（従業員）	・新型車種が出てくる予定であるが、生産状況に改善が見込めず、現状維持で進んでいく。
		乗用車販売店（代表）	・新型コロナウイルスの影響で、当分景気の回復はしない。
		住関連専門店（経営者）	・ワクチン接種やマスク着用等によって日本では新規感染者数が減少しているが、新型コロナウイルス新変異株の発生や隣国等では新規感染者数の増加がみられている。外国からの入国制限緩和が景気回復の妨げになることを危惧している。
		高級レストラン（経営者）	・当県は新規感染者数がない日が続いており、地元客や観光客も連休時には少しずつ動き出している。しかし、12～1月は忘年会や新年会の時期であるものの、企業側が感染の再拡大を危惧して、大人数での飲み会を控えて予約がほとんどない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		高級レストラン（経営者）	・先は見通せないが、新型コロナウイルスの感染が落ち着いており、景気が少し良くなっていく期待はあるものの、新型コロナウイルス新変異株の報道や第6波の心配がある。新型コロナウイルスの新規感染者数がなく、少しでも落ち着くことを期待している。
		スナック（経営者）	・これから忘年会の時期に入るが、忘年会を控える企業も多く、例年どおりの人出は期待できない。また、新型コロナウイルス新変異株も年末の外出を抑制させる可能性が高い。今月並みで推移していくことを期待している。
		観光型ホテル（専務）	・新型コロナウイルスの感染状況にもよるが、年明けにGo To Travelキャンペーンが再開されることで旅行の動きが増え、団体旅行の再開に期待している。
		通信会社（企画担当）	・やや好調な状況が続いていく。
		通信会社（統括者）	・新規購入や機種取替えのための来店予約制が定着しており、故障等の緊急的な来店はあるが、全体的には来客数は低迷している。来店を促すような施策を計画的に実施することにより、来客数の増加を図っている。
		観光名所（従業員）	・新型コロナウイルス新変異株の感染が海外で拡大しており、国内で症例があった場合の影響が不透明で、懸念される。
		ゴルフ場（営業）	・今まで新型コロナウイルスで抑制されていた状況が解放され、一時的に来場者数が増加しているだけであり、来年には落ち着く。
		理容室（経営者）	・12月の理美容業は、通常は景気が良くなる月であるが、今年は新型コロナウイルスの影響で全体的に収入が落ちている客がいるため期待は薄い。また、2～3か月先は冷え込みが強くなり、厳しい状況が継続する。
		設計事務所（所長）	・今の悪い状態が3か月後も続いていく。
		一般小売店〔青果〕（店長）	・年明けは、青果物等の閑散期になるため、販売量が少なくなり、単価も下がらない厳しい状態になる。今月の景気は、夏場と比較するとよいが、前年と比較すると7～8割の売上であり、これから一層経営は厳しくなる。
		スーパー（店長）	・第6波は確実に発生すると考えているが、それ以上に物価上昇が更に加速し、多方面へ影響を及ぼし、更に消費が冷え込んでいくと危惧している。
		スーパー（統括者）	・新型コロナウイルスにより外出敬遠感もあるが、現在は人流は明らかに増加している。内食、中食比率の軽減傾向や競合店の影響も含め、新たな営業戦略を求められている。
		コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルス新変異株の状況次第である。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・新型コロナウイルスの感染が落ち着く1～2か月の間は、コンビニエンスストアの弁当や総菜の購入よりも、外食に流れていくと予想している。会社の昼休みの時間の来客数は、前年と同水準で推移しているが、夕方から夜にかけて来客数は伸び悩んでいる。
		衣料品専門店（店員）	・寒くなり、第6波が発生すると、客足は減少する。
		家電量販店（店長）	・新型コロナウイルス新変異株の動き次第であるが、第6波の発生があれば、景気が懸念される。
		家電量販店（店員）	・今月の景気も悪く、この状態が急に改善するとは考えにくい。現在の売上は底であるが、販売量や来客数が少なさから、一層悪くなる可能性がある。
		観光型ホテル（総務）	・年明け以降の予約状況は芳しくない。例年、宴会場で開催される新年会や名刺交換会等の慣例行事の開催見送りが相次いでいる。第6波の発生次第であるが、様子を見る空気が根強い。
		都市型ホテル（スタッフ）	・Go Toキャンペーン再開の情報が開始してから、12～1月の客の買い控えが続いている。
		美容室（経営者）	・このまま良くなるとよいが、新型コロナウイルス新変異株の影響でかなり状況は悪くなる。
	設計事務所（代表）	・税制の変更に左右される。	
	x	設計事務所（所長）	・木材や鉄製品、その他の材料費や人件費の上昇はまだ続いていく。また、原油高が石油化学製品の価格上昇をもたらすと予想される。これからも生活必需品の値上げがあり、収入が頭打ちでは、生活防衛の資金保持が続いていく。この先も世界的な新型コロナウイルスの影響がまだ続いていく。
企業		-	-

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
動向 関連 (九州)		農林水産業（経営者）	・新型コロナウイルスの感染状況にもよるが、現状のような低い感染力であれば、年末年始の外食需要も期待できる。量販店も年末の特需が延びてくる。問題は、新型コロナウイルスの感染再拡大と鳥インフルエンザの発生である。特に鳥インフルエンザは、工場生産や輸出業に大きく影響を与えるため、心配している。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・予約の受注量より判断すると景気は良くなっていく。
		化学工業（総務担当）	・事業所で扱っている部門の製品について、堅調な出荷となる見込みである。
		金属製品製造業（事業統括）	・部品納期のトラブルが解消されれば、景気は良くなる。
		一般機械器具製造業（経営者）	・この業種は、半導体の動きにより左右されるため、新型コロナウイルス関係の調整も終わり、新型コロナウイルス発生前の良い状態に少しずつ戻っている。
		一般機械器具製造業（経営者）	・コロナ禍で営業活動を強化した結果、仕事量が少しずつではあるが増えている。この先の受注拡大に期待している。
		電気機械器具製造業（取締役）	・景気は良くなっているが、個別の業務では、部品調達の納期遅延や価格の高騰等もあり、収支のバランスを取るのが困難な状況である。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・半導体関連客の見込みから、増産になる予測である。
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	・本年度上期の非稼働分の生産ばん回が計画されており、繁忙な時期が続く見通しである。
		金融業（営業担当）	・年末年始に向かい、消費者の購買意欲は一定の水準までは回復するが、飲食に関してはまだ自粛の心理がある。若干は良くなっているものの、新型コロナウイルス新変異株の流行が懸念されているため大きく改善はせず、経営者は警戒している。
		金融業（調査担当）	・年末年始に第6波を回避することができれば、経済活動は徐々に上昇基調になる。原油価格の動向も、生産活動や消費行動を左右する。
		広告代理店（従業員）	・ワクチン接種が進んできたことにより、日常の経済活動が戻り始めている。ただし、第6波次第である。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・Webでの問合せや相談が増えており、人材投資を積極化する流れがある。
		経営コンサルタント（社員）	・前月から営業活動を再開したため、その成果に期待している。
		経営コンサルタント（社員）	・客の購買意欲は高まっているが、値上げが多くなり、大量購入には至っていない。
		家具製造業（従業員）	・業界的に、今後大きく好転するような動きや情報がみえていない。また、少ない受注量にもかかわらず材料費の高騰も影響しているため、今後更に状況を悪化させる可能性もあり、危惧している。
		輸送業（総務担当）	・半導体や建築資材、部品等が手に入らない。世界的に生産減少や物流が滞っている影響で、せっかくの機会を逃している産業もある。異常な原油価格の高騰も景気を押し下げる要因となっており、物価は上昇しているにもかかわらず与えられない等様々な不安要素が多い。
		通信業（職員）	・官庁が施主の営業案件数と受注予想額が伸びておらず、年度末までの状況に大きな変化は見込めない。
		通信業（経理担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が一段落しているものの、根本的な要因が解消されていない。
		金融業（従業員）	・公共工事が高水準で推移しており、住宅投資も持ち直してきている。また、家電販売、百貨店、スーパーマーケット、コンビニエンスストアの売上も増加傾向を示している。一方、新型コロナウイルスの新規感染者数は大幅に減少したものの、感染拡大の懸念もあることから飲食店や旅行、観光関連業者では期待されたほどの盛り上がりはみられない。
	金融業（調査担当）	・新型コロナウイルス新変異株が、どの程度の影響があるか注視が必要な状況である。国内の新規感染者数の状況と、海外での感染拡大が更に広がるようであれば、輸出や海外からの供給に頼っている業種では低迷につながる。	
	不動産業（従業員）	・オフィス部門の入居率が横ばいに推移している。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		広告代理店（役員）	・売上、営業収入の予想が伸びない。新型コロナウイルス新変異株の報道も加わり、深刻な状況を抜ける糸口が見つからない。
		経営コンサルタント（代表取締役）	・今月は景気は非常に上向きで良かったものの、新型コロナウイルス新変異株の状況次第である。このまま終息すれば、今後も景気は順調に回復する。
		その他サービス業〔物品リース〕（職員）	・徐々に景気回復の兆しはみえるが、急激な景気回復はみられない。新型コロナウイルスの第6波も危惧しているため、予断を許さない状況である。
		食料品製造業（経営者）	・原料の伝染病の影響により、数量確保が難しく生産量、販売量共に減少していく。
		電気機械器具製造業（経営者）	・原材料や資材の高騰が悪影響を及ぼしている。
		その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	・客より12～1月の生産が減少するとの報告を受けているが、原因が不明のため、どの程度減少するのか予測が付かない。
		建設業（従業員）	・最近を受注に恵まれず苦勞をしている。人材を増やしたり、受注に向けての取組を行っているが、成果がなかなか出ていないため、引き続き努力していく。
		建設業（社員）	・年度末に向けて景気の上昇を図りたい時期であるが、その雰囲気は全くない。
		輸送業（従業員）	・コンテナ不足は多少解消されつつも、北米を中心に料金が高騰していることもあり取扱増加が期待できない。輸入に関してもまだまだ低調であり、国内生産へシフトしている企業もあるため、通関など乙仲業務を行っている企業はまだまだ厳しい状況が続いている。
		輸送業（従業員）	・受注は堅調に伸びているが、原料・容器・設備共に仕入れが遅れている。原料ではプロテイン原料、容器はアルミ製が供給不足で遅延となり、価格も高騰している。設備も半導体不足で投資が遅れている。需要はあるが、製造ができない状態が発生する。
		金融業（営業）	・新型コロナウイルスの影響が懸念材料である。新型コロナウイルス新変異株、第6波の襲来が予想され、その場合の影響は大きい。
		その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	・市町村は、12月の補正予算案を公表しているが、大半が新型コロナウイルスの3回目のワクチン接種や給付金関係であり、通常12月以降に発注される調査や計画策定支援等の委託業務の予算計上が行われていない。このため、今後委託業務を受注できる可能性が低くなり、景気が悪くなる。
		x	繊維工業（営業担当）
雇用 関連 (九州)		人材派遣会社（社員）	・派遣社員の賃金が上昇傾向であることから、より好待遇の求人への転職が進んでいる。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・景気自体は悪化の傾向にあるので、判断しにくい。
		職業安定所（職員）	・求人の動きが、令和元年度と同等の水準まで持ち直している。
		人材派遣会社（社員）	・企業の出張も増加し、飲食店等も客が多くなっており、少しずつではあるが人の動向が増加している。お歳暮や通常販売用で、新規の食品製造会社とも契約ができた。既存の客も年末年始に関しては通常どおりの人数で注文を受けている状況である。
		人材派遣会社（社員）	・このまま新型コロナウイルスが落ち着くと、景気は回復する。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・現在のような感染状況が続けば、用心しつつも活動量は増えていく。旅行等での移動や消費、飲食等もそれに比例して好転する。
		職業安定所（職員）	・10月の新規求人数は、4月以降最高数値となっている。11月は、4～10月までの平均的数値でとどまりそうではあるものの、前年と比較した場合、大きく数値は上回る見込みである。新型コロナウイルスの影響を受けた企業からの雇用調整助成金の相談や受付件数等は、10月の82件から大幅減少の50件程度と見込まれる。要因としては、給油時のガソリンの値上げがある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が落ち着いていることで、観光業の回復が見込まれ、さらに、西九州新幹線開業における新規店舗開店による求人数の増加も見込まれる。
		人材派遣会社（社員）	・新型コロナウイルス関連の業務委託等の動きはあるが、全体的な景気の上向き感はない。状況次第では、求職者や企業側の求人の動きもなくなる。
		新聞社〔求人広告〕（社員）	・景気は回復傾向にあり、今以上の順調な回復は期待しづらい。新型コロナウイルスの新規感染者数も落ち着いているが、第6波が発生し、緊急事態宣言が発出されると以前の状況に戻ることも考えられるが、ワクチン接種も進んでいるため、状況は変わらないが、第6波次第である。
		職業安定所（職員）	・企業からの求人数もこの1か月間で増加しているが、新型コロナウイルスの感染状況次第では、実際に雇用するか分からないという企業もあり、景気の好転には、引き続きブレーキを踏んだままである。
		民間職業紹介機関（職員）	・新型コロナウイルス感染が拡大する前の状態ほどではないが、現状でかなり改善してきたため、これ以上良くなるにはインバウンド関係の業種やサービス業の回復が必要である。それまでは現状が続いていく。
		学校〔大学〕（就職支援業務）	・ワクチン接種が進み、新型コロナウイルスの感染状況が改善され、経済活動への制限が緩和されている。油断ができない状況はまだしばらく続くが、多くの企業において2023年卒業の採用者数は今年と同程度になる。また、オンラインによるインターンシップの実施は前年度よりも増えており、企業の採用意欲は徐々に上向いていく。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・会合や集会が再開しているが、新型コロナウイルスの感染が、再度感染拡大する懸念は、多くの人も持っている。特に、年末年始の企業単位の忘年会、新年会は中止の案内が多い。
	x	-	-

## 12. 沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (沖縄)		コンビニ（店長）	・緊急事態宣言解除から来客数が右肩上がり、このまま推移すれば2～3か月後は今より更に景気が良くなっているとみている。
		コンビニ（副店長）	・規制も緩和され、コロナ禍前の日常を取り戻しつつあるので今後に期待する。
		一般小売店〔酒〕（店長）	・新型コロナウイルス新規感染者数が増えなければ、このまま景気も良くなるとみている。
		スーパー（企画担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の状況にもよるが、徐々にふだんどりの生活が戻るものと予測している。
		コンビニ（経営者）	・人の流れが良くなるので品ぞろえに力を入れ、客単価の上昇が見込まれる。
		コンビニ（代表者）	・新型コロナウイルスの感染状況が現在と同等で推移していけば県内の人流、観光客数も徐々に回復し景気は上向いていくと判断する。
		その他専門店〔陶器〕（製造）	・観光業の集客に対して大手企業も前向きなので、力を合わせてどうにか回復させるとみている。
		観光型ホテル（企画担当）	・ホテルの11月の販売室数が前年比68%減少なのに対し、11月末時点での2月の予約室数は前年比33%減少とマイナス幅が小さくなっている。
		旅行代理店（マネージャー）	・外国からの入国規制をある程度しっかりやれば、ある程度需要は回復する。
		観光名所（職員）	・予約数が増えてきている。
		その他サービス〔レンタカー〕（営業）	・航空会社の便数回復やGo To Travelキャンペーン再開の見通し等が後押しとなり、観光関連の客増加が見込める状況にある。
		住宅販売会社（役員）	・人流が活発になると、不動産の取引もそれなりに増加するとみられる。
		スーパー（販売企画）	・アフリカで新型コロナウイルスの新変異株が発生したと連日報道されている。この新変異株が日本でどうなっていくか危惧され、それにより景気は左右されるとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店（経営者）	・緊急事態宣言の解除があったせいか、今月は客の出は増えてきている。売上は少しだが上がってきている。しかしまだまだ良いとはいえない状態である。景気の状態はまだ様子見だとみている。
		衣料品専門店（経営者）	・これについては、読めない。新型コロナウイルス新変異株も報告されており、これによってまた自粛みたいなことになれば確実に景気は悪くなる。
		観光型ホテル（代表取締役）	・先々の予約は少しずつ回復基調であるがまだ少ない。旅行の予約も間際化している傾向にある。Go To Travelキャンペーンの実施次第で、それ以降はやや良くなる可能性がある。
		住宅販売会社（代表取締役）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着くまでは、良くも悪くもない状況が続くのではないかと。
		百貨店（店舗企画）	・新型コロナウイルス変異株に続き、また別の新変異株の新規感染者数増加の懸念があり、第6波を意識せざるを得ない。
		通信会社（営業担当）	・新型コロナウイルス感染症は落ち着いているが、第6波があると報じられていることもあり、対面販売のサービスには足を運ばなくなると危惧する。待っているだけの営業だけでは厳しくなる一方なので、営業の形も変えていく時期なのかもしれない。
	×	商店街（代表者）	・皆が全体的に悪くなると言っている。しかし、今月の新型コロナウイルス感染の落ち着きや、ワクチンが効いている状況からして、来月から僅かだけ良くなるのではないかと、という期待も持っている。
	×	その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・来客数はすぐには戻らない。また、原材料の値上げが続く、飲食では求人数がほとんど取れず、時給もどんどん上がり、販管費の上昇分を値上げするわけにもいかず、営業に支障が出ている。
企業 動向 関連  (沖縄)		-	-
		食料品製造業（役員）	・今後、Go Toキャンペーンの再開や年末商戦のスタートも重なり、前年以上に消費者の活動が活発化することが期待できる。
		建設業（経営者）	・仮契約及び真剣な建築の計画、具体的な相談の客が増え、それが契約に結び付く可能性が大きい。
		窯業土石業（取締役）	・受注は若干回復するとみられるが、原材料の価格高騰が続いており、収益面での影響が懸念される。
		広告代理店（営業担当）	・新型コロナウイルス感染症が落ち着きをみせている現状から、景気回復を期待していたものの、これまでに悪化した経営状態の影響もあり、県内企業の販促予算が増大するには至っていない。
		輸送業（代表者）	・宮古島、石垣島の建設関連は、官需部門においては石垣島の陸上自衛隊関連工事が本格化するが、大型物件が減った宮古島での落ち込みが大きい。民需関連では全体的に出てきている。しかし、小笠原近海の海底火山噴火による軽石の影響で、10月末から稼働ができず先島地区では更に悪化してきており、今後の影響が心配される。
		輸送業（経営企画室）	・昨今のコンテナ不足で輸入貨物が滞り、原料の欠品による物価の上昇と原油価格の高騰のため消費が減り、飲食、観光の発注数が落ち込む可能性がある。また、新型コロナウイルス新変異株の拡大が起こり得る。
	×	-	-
雇用 関連  (沖縄)		-	-
		人材派遣会社（総務担当）	・緊急事態宣言が解除され、人の動きが少し活発になり景気の回復が見込まれるが、新型コロナウイルス新変異株の感染者が国内で1名確認され、今後の対応で景気に影響が出そうである。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・緊急事態宣言が解除されて消費者の動きが増え、対応する企業も人材採用が増加する。
		職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスの感染状況にもよるが、観光客の戻りにより、ホテル、観光、飲食の求人数は増加している。
	学校〔大学〕（就職支援担当）	・新型コロナウイルスの感染がこのまま落ち着きをみせれば、求人数が増え、就業先が増えるため景気は良くなるとみている。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		求人情報誌製作会社 (営業)	・年末年始の求職者の動きは、新型コロナウイルス発生以前であれば定期的に予測でき、年始1月と年度末3月がピークであった。しかし、昨今では求職者の動きが不定期となり3か月後の推測が難しい。恐らく本月と同様の求人数かと考えている。
		学校[専門学校](就職担当)	・年末年始で採用を控えていた企業が新年度に向け採用活動を始めるとみている。ただ新型コロナウイルス新変異株が出現したことで採用を控える企業もあるとみられるため、結果的に変わらないと見込む。
		-	-
	x	-	-